

# 文京区男女平等参画に関する区民調査

## 【速報概要版】

### 調査の概要

#### 1. 調査の設計

項目	内容
調査期間	令和7年9月5日（金）～9月25日（木）
調査対象	18歳以上の区民
標本数	3,000人
抽出方法	住民基本台帳からの無作為抽出
調査方法	自記式調査票による郵送配布、郵送回収及びweb調査の併用

#### 2. 調査項目

1. 家庭生活について（問1～問3）
2. 保育・教育について（問4）
3. 男女平等への関心と意識について（問5～問6）
4. 就労・職場について（問7～問8）
5. 女性の活躍について（問9～問10）
6. 家庭生活と社会生活の両立について（問11～問14）
7. 地域活動、社会活動への参画について（問15～問16）
8. 政策決定過程への女性の参画について（問17～問20）
9. 健康について（問21）
10. 人権問題について（問22～問26）
11. 性の多様性について（問27～問30）
12. 暴力の廃止について（問31～問34）
13. 生活の困りごとや悩みごとの相談窓口やサービスについて（問35～問37）
14. 男女平等参画の推進施策・男女平等センターについて（問38～問40）
15. 回答者自身について（問41）

#### 3. 回収結果（10月15日現在）

対象者数	有効回収票数	有効回収率
3,000人	886件	29.5%

#### 【内訳】回答方法別の構成比

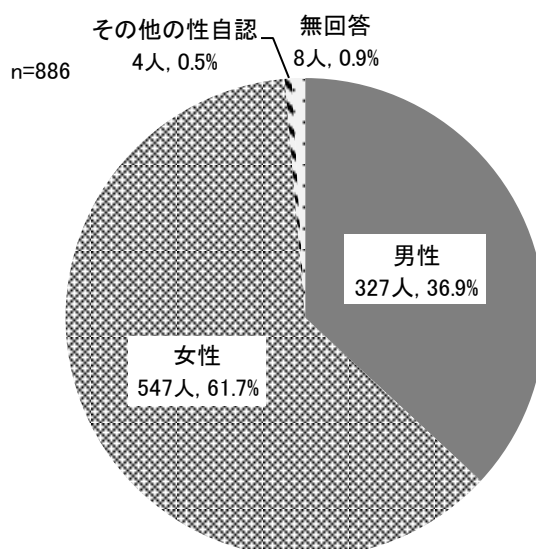
	合計	紙	web
有効回収票数	886件	460件	426件
構成比	100.0%	51.9%	48.1%

## 調査結果一覧（抜粋）

## 【回答者の属性】

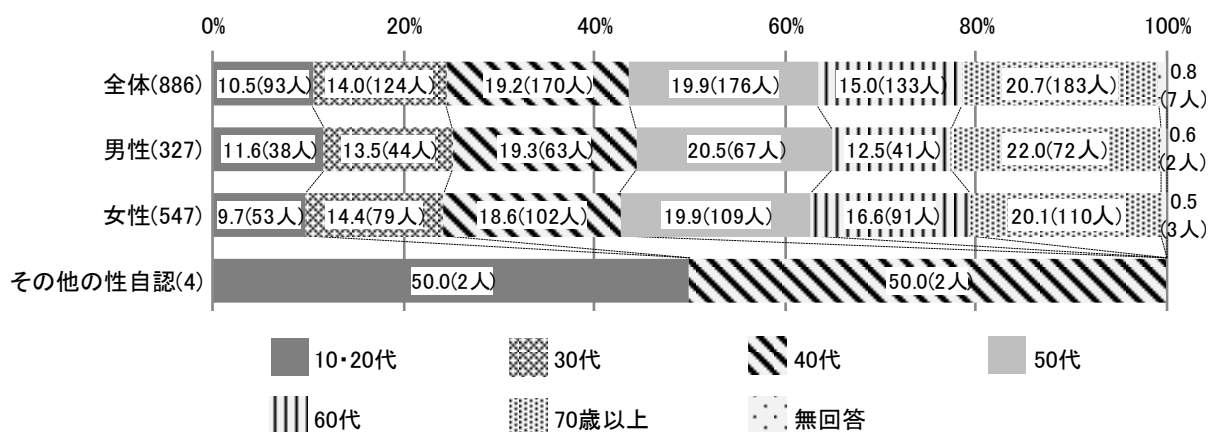
## ■ &lt;問 41①&gt; 性別

性別は「女性」が61.7%、「男性」が36.9%となっている。



## ■ &lt;問 41②&gt; 年齢

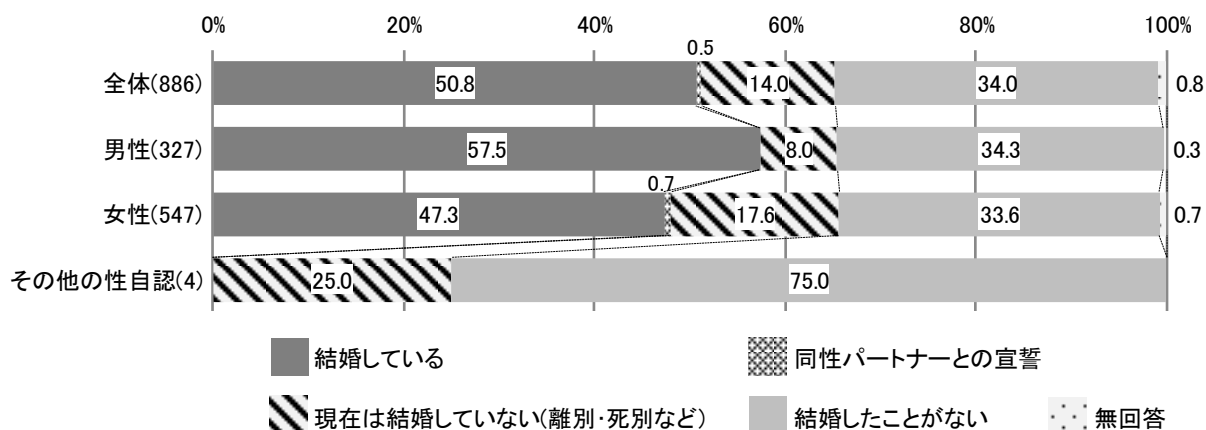
全体で見ると、年齢は「70歳以上」が 20.7%と最も高く、次いで「50～59歳」が 19.9%となっている。



### ■<問 41④>婚姻状況(事実婚を含む)

全体でみると、「結婚している」が50.8%と最も高く、次いで「結婚したことがない」が34.0%となっている。

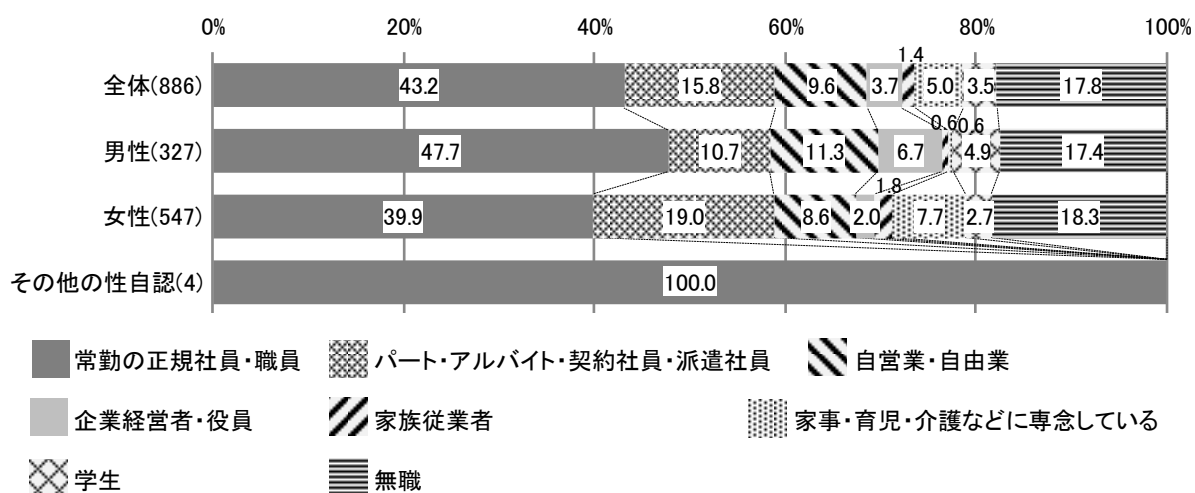
性別でみると、「結婚している」は、女性より男性の方が10.2ポイント高く、「現在は結婚していない(離別・死別など)」は、男性より女性の方が9.6ポイント高くなっている。



### ■<問7>就労状況

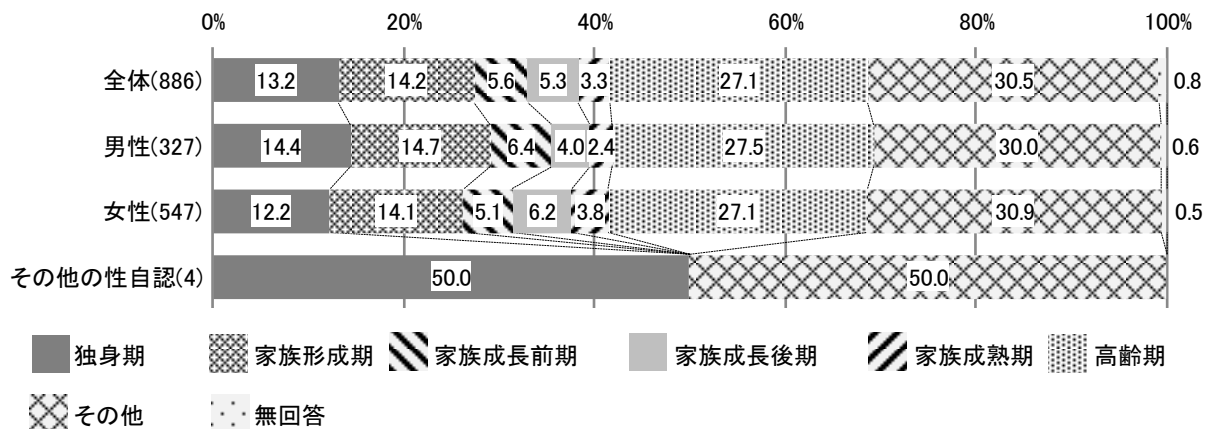
全体でみると、「常勤の正規社員・職員」が43.2%と最も高く、次いで「無職」が17.8%となっている。

性別でみると、「パート・アルバイト・契約社員・派遣社員」は女性(19.0%)が男性(10.7%)を8.3ポイント上回っている。



### ■ライフステージ区分

「その他」が30.5%で最も多く、次いで、「高齢期」(27.1%)、「家族形成期」(14.2%)、「独身期」(13.2%)の順となっている。



### 【ライフステージ区分】

独身期	18～39 歳で単身者
家族形成期	18～39 歳で配偶者がいて子どもがいない または、18～64 歳で一番下の子どもが小学校入学前
家族成長前期	18～64 歳で一番下の子どもが小学生
家族成長後期	18～64 歳で一番下の子どもが中学生・高校生
家族成熟期	18～64 歳で一番下の子どもが高校を卒業している
高齢期	65 歳以上
その他	40～64 歳で単身者 または、40～64 歳で配偶者がいて子どもがいない

## I. 家庭生活について

## まとめ

「男は仕事、女は家庭」という考え方には8割の人が共感しないと回答している。しかしながら、家事(炊事、洗濯、掃除等)について主に自分が行っているという人は、女性では4人に3人であるが、男性では4割となっている。また、育児や子どものしつけ、子どもの学校行事への参加についても主に自分で行っているという人の割合は女性の方が男性よりも高くなっている。実際に1日当たりの家事・育児・介護に携わる時間について見ても、女性の半数が1時間以上4時間未満であり、男性の半数が1時間未満である。

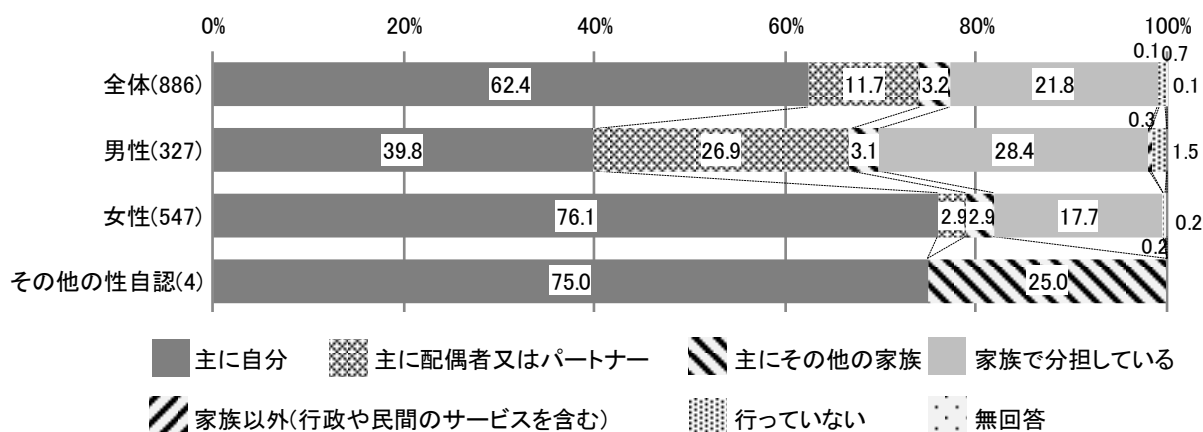
意識としては、性別役割分業には否定的であっても、実際の行動にはなかなかつなげられていない男性が多いことがうかがえる。

■ <問1> 現在、あなたの家庭では次のことがらを主にどなたが行っていますか。ア～オのそれぞれにつき一つずつ「○」をしてください。

家事(炊事、洗濯、掃除等)を「主に自分」が行っていると回答した割合は、男性が39.8%と4割であるのに対し、女性は76.1%と7割を超えており、また、「主に配偶者又はパートナー」が行っているという人は男性が26.9%に対し、女性は2.9%にとどまる。

そのほか、育児や子どものしつけ、子どもの学校行事への参加についても「主に自分」と回答した女性が、男性を10ポイント以上上回っている。

## ア. 家事(炊事、洗濯、掃除等)

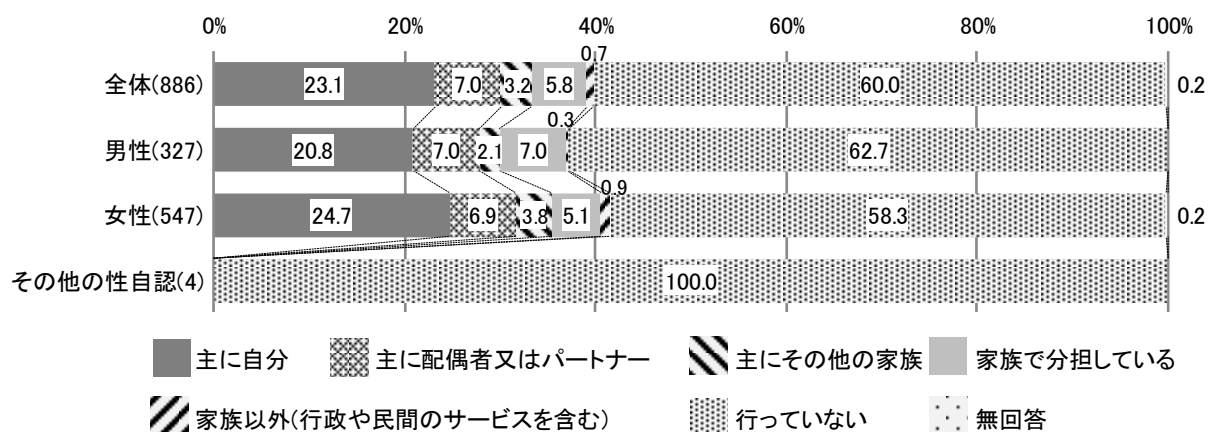


## &lt; 前回調査との比較 &gt;

## 問1. 家庭における役割分担「ア. 家事(炊事、洗濯、掃除等)」

	全体	主に自分	主に配偶者	主にその他	家族で分担	家族以外	行っていない	無回答
今回調査	100.0	62.4	11.7	3.2	21.8	0.1	0.7	0.1
前回調査	100.0	61.1	13.1	4.0	19.4	0.2	0.5	1.7

## イ. 地域活動(町会、自治会等)

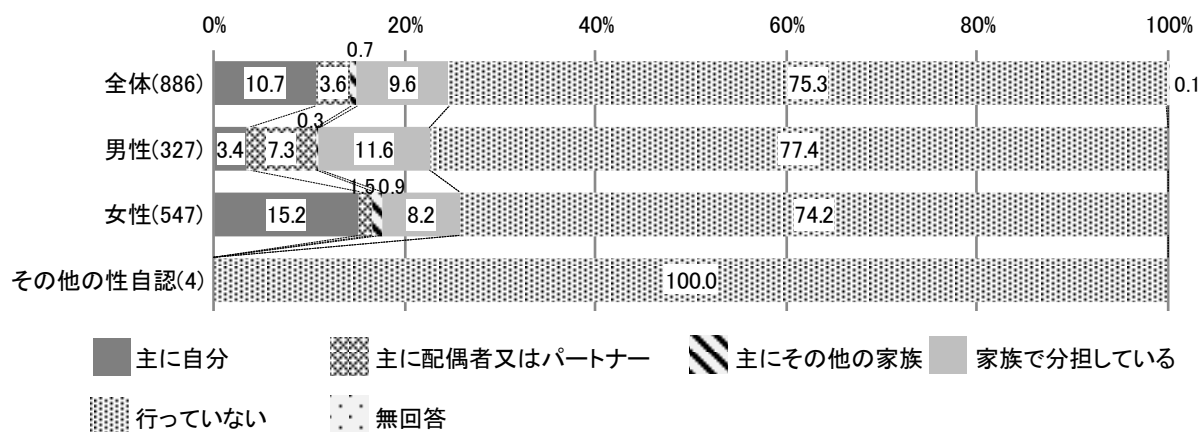


## &lt; 前回調査との比較 &gt;

## 問1. 家庭における役割分担「イ. 地域活動(町会、自治会等)」

	全体	主に自分	主に配偶者	主にその他	家族で分担	家族以外	行っていない	無回答
今回調査	100.0	23.1	7.0	3.2	5.8	0.7	60.0	0.2
前回調査	100.0	20.6	9.9	3.5	5.1	0.0	57.9	3.0

## ウ. 育児や子どものしつけ

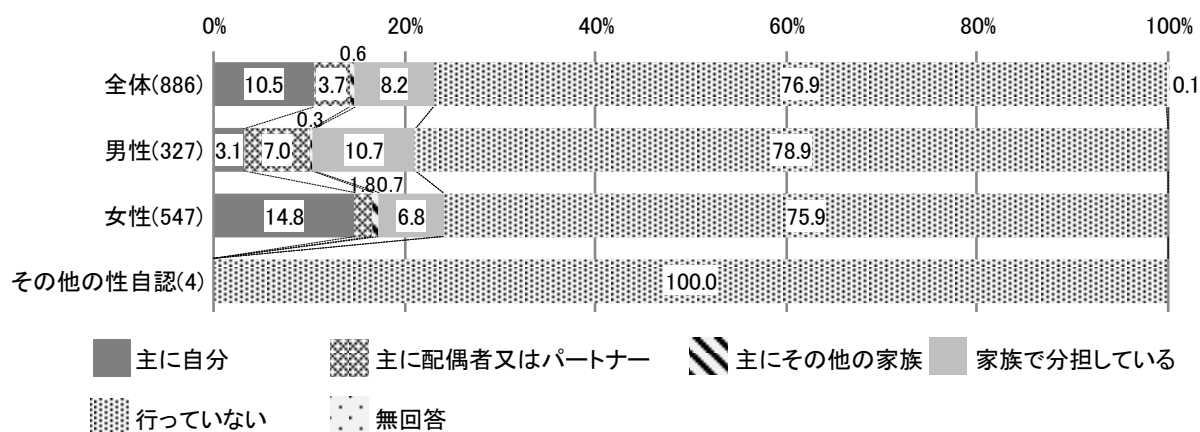


## &lt; 前回調査との比較 &gt;

## 問1. 家庭における役割分担「ウ. 育児や子どものしつけ」

	全体	主に自分	主に配偶者	主にその他	家族で分担	家族以外	行っていない	無回答
今回調査	100.0	10.7	3.6	0.7	9.6	0.0	75.3	0.1
前回調査	100.0	13.4	6.7	1.6	11.9	0.0	60.4	5.9

## 工. 子どもの学校行事への参加

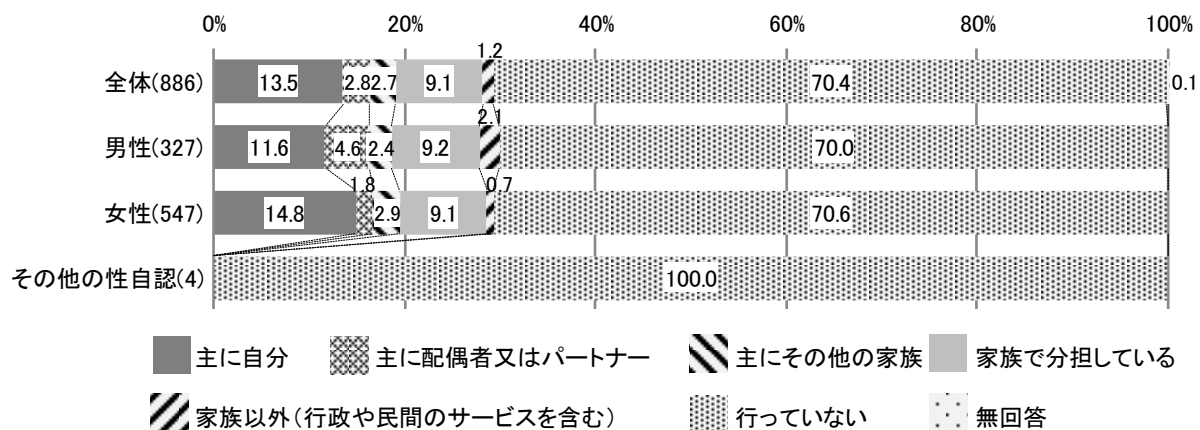


### < 前回調査との比較 >

#### 問1. 家庭における役割分担「工. 子どもの学校行事への参加」

	全体	主に自分	主に配偶者	主にその他	家族で分担	家族以外	行っていない	無回答
今回調査	100.0	10.5	3.7	0.6	8.2	0.0	76.9	0.1
前回調査	100.0	13.7	6.0	2.1	9.2	0.0	62.9	6.1

## オ. 親や家族の介護



### < 前回調査との比較 >

#### 問1. 家庭における役割分担「オ. 親や家族の介護」

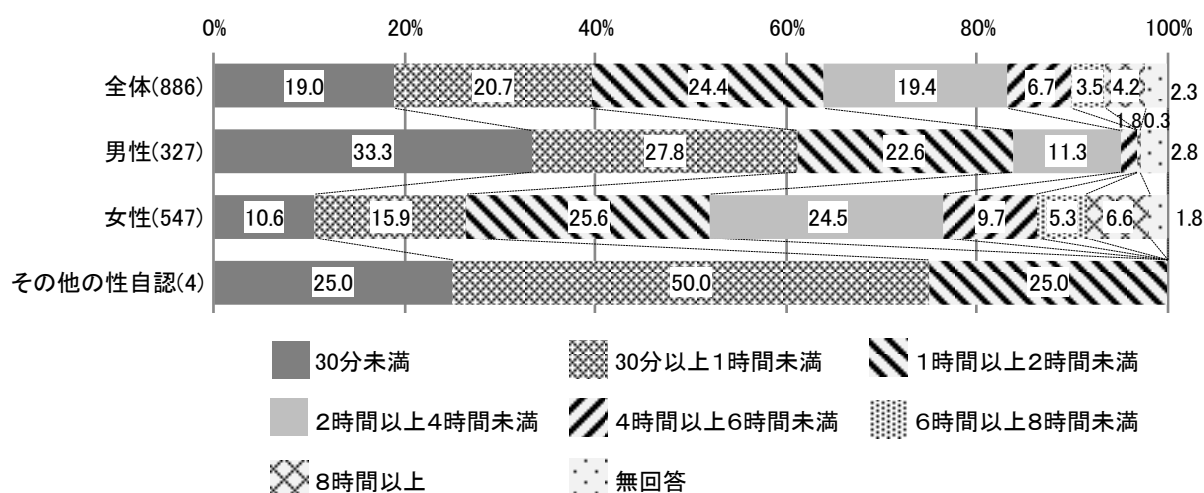
	全体	主に自分	主に配偶者	主にその他	家族で分担	家族以外	行っていない	無回答
今回調査	100.0	13.5	2.8	2.7	9.1	1.2	70.4	0.1
前回調査	100.0	11.8	2.6	2.4	5.8	1.6	70.5	5.1

■ <問2>あなたは、1日あたりどのくらいの時間を家事・育児・介護に携わっていますか。料理、洗濯、子どもの入浴や寝かしつけ、子どもと遊んでいる時間、親や病人を介護する時間等の合計時間をお答えください。

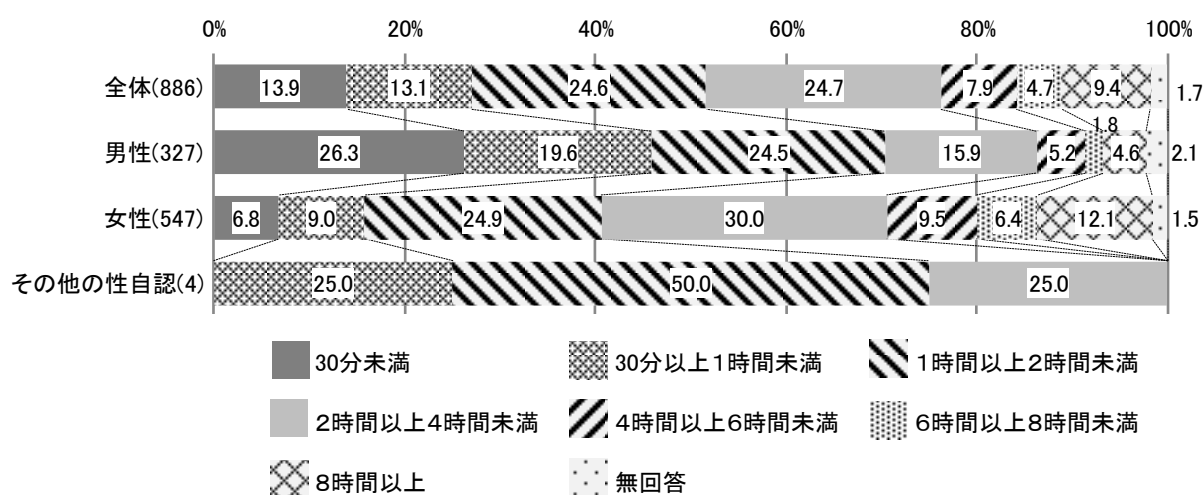
平日は、1時間以上2時間未満という人が24.4%で最も多い。休日は、2時間以上4時間未満(24.7%)、1時間以上2時間未満(24.6%)という人が多くなっている。

性別で見ると、女性では、1時間以上4時間未満という人がほぼ半数(平日50.1%、休日54.9%)を占める。対して男性は、1時間未満が平日で61.1%、休日で45.9%となっている。

### ① 平日【1つだけ○】



### ② 休日【1つだけ○】





■ <問3>結婚や出産、男女の役割に関する次にあげる考え方についてあなたはどのように思いますか。ア～ケのそれぞれにつき一つずつ「○」をしてください。

「ア. 結婚する、しないは個人の自由である」(96.4%)、「カ. 結婚生活に問題があれば離婚してもよい」(93.6%)については「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計(以下、『そう思う』)が9割以上である。

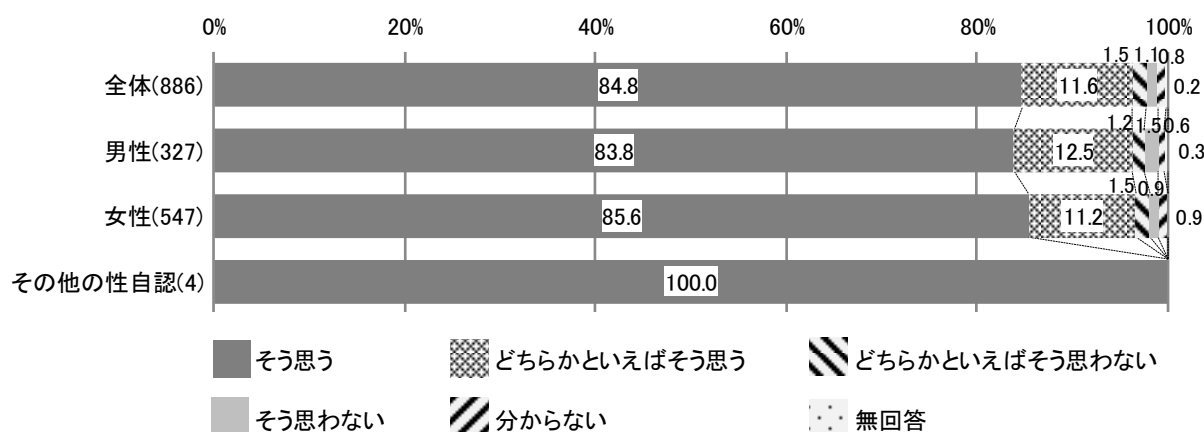
「キ. 結婚しても子どもは持たない」というのも選択の一つだ(87.3%)、「イ. 結婚に国籍の違いは関係ない」(82.8%)については『そう思う』が、「ク. 男は仕事、女は家庭」という考え方には共感する」については「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」の合計(82.6%)が8割以上となっている。

「ケ. 選択的夫婦別姓制度について賛成である」(64.9%)、「オ. 同性同士のカップルであっても、異性同士のカップルと同様の法律上の権利が認められるべきだ」(65.9%)については、『そう思う』が6割以上となっている。

性別で見ると「オ. 同性同士のカップルであっても、異性同士のカップルと同様の法律上の権利が認められるべきだ」、「エ. 同性同士のカップルを尊重する」について『そう思う』割合は女性が男性を10ポイント以上上回っている。

前回調査と比較すると、『そう思う』人の割合は「キ. 結婚しても子どもは持たない」というのも選択の一つだ」で 9.7 ポイント、「カ. 結婚生活に問題があれば離婚してもよい」で 9.3 ポイント増えている。

#### ア. 結婚する、しないは個人の自由である

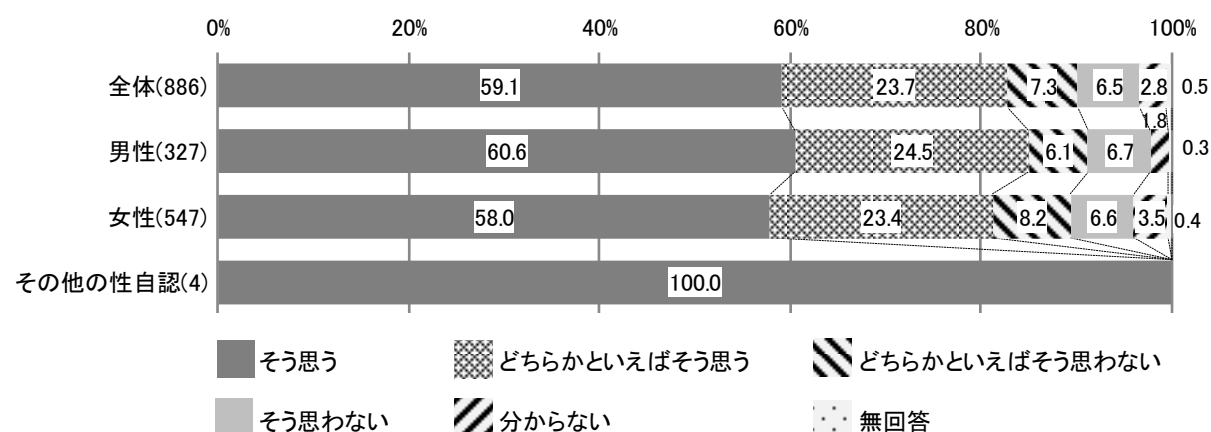


#### <前回調査との比較>

問3. 考え方「ア. 結婚する、しないは個人の自由である」

	全体	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
今回調査	100.0	84.8	11.6	1.5	1.1	0.8	0.2
前回調査	100.0	80.0	12.5	1.2	1.0	0.8	4.6

## イ. 結婚に国籍の違いは関係ない

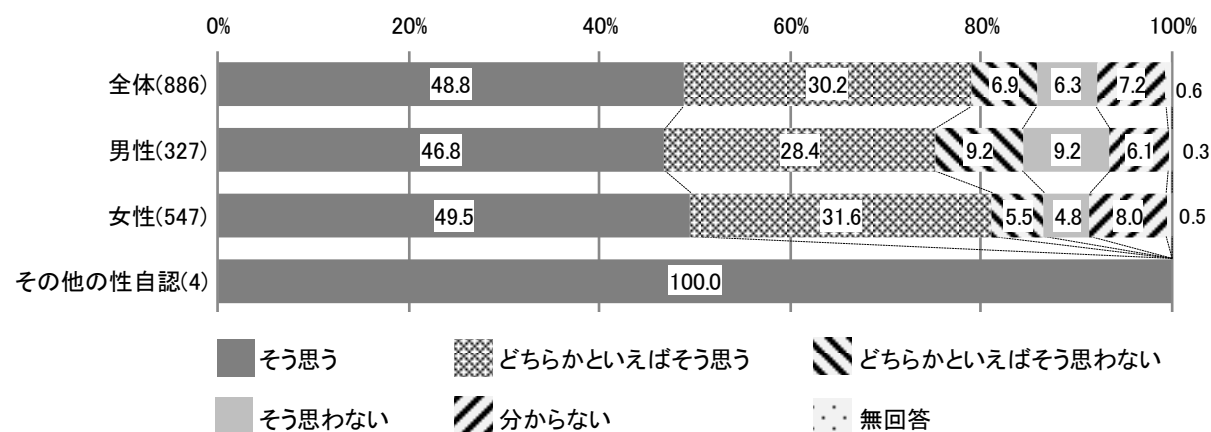


## &lt;前回調査との比較&gt;

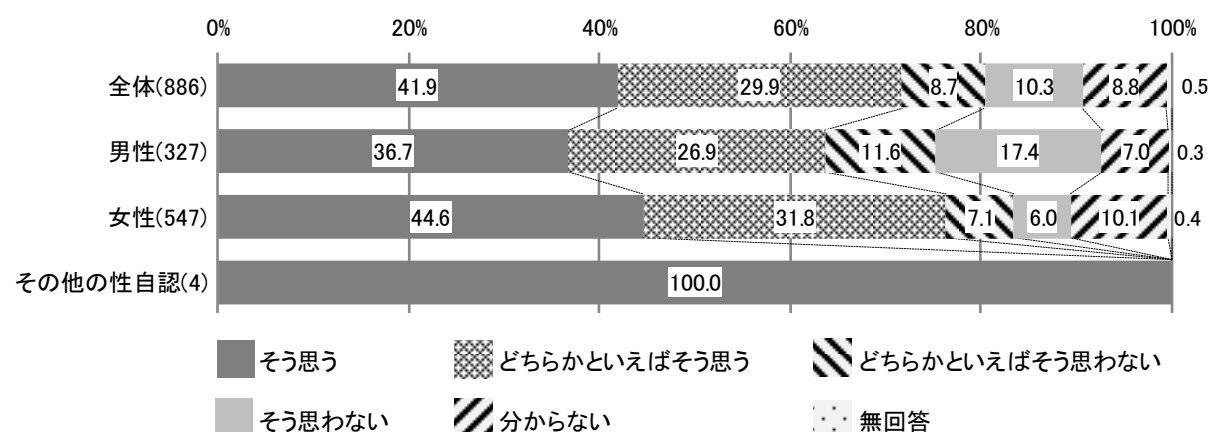
## 問3. 考え方「イ. 結婚に国籍の違いは関係ない」

	全体	そう思う	どちらかとい えばそう思う	どちらかとい えばそう思わ ない	そう思わない	分からない	無回答
今回調査	100.0	59.1	23.7	7.3	6.5	2.8	0.5
前回調査	100.0	60.9	21.4	5.4	4.8	2.5	4.9

## ウ. 事実婚のカップルを尊重する



# 工. 同性同士のカップルを尊重する

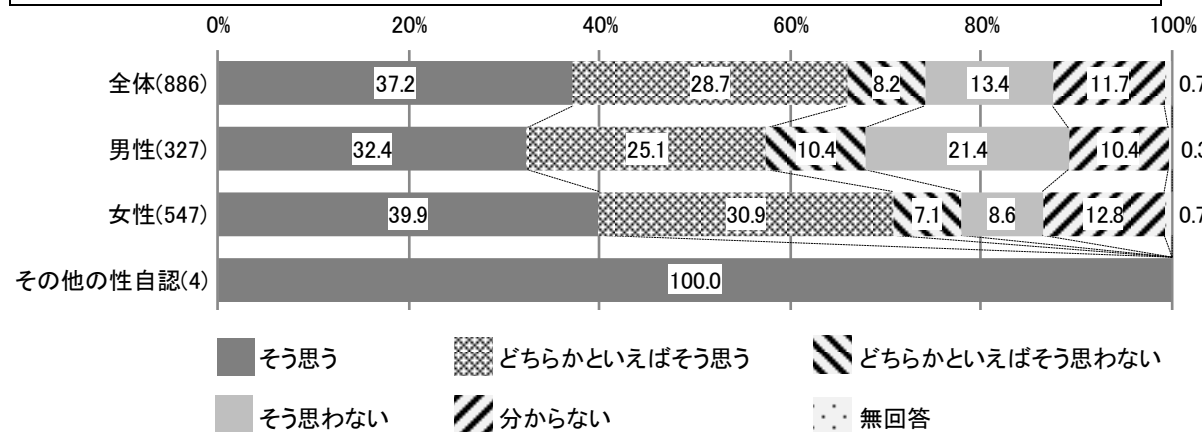


## < 前回調査との比較 >

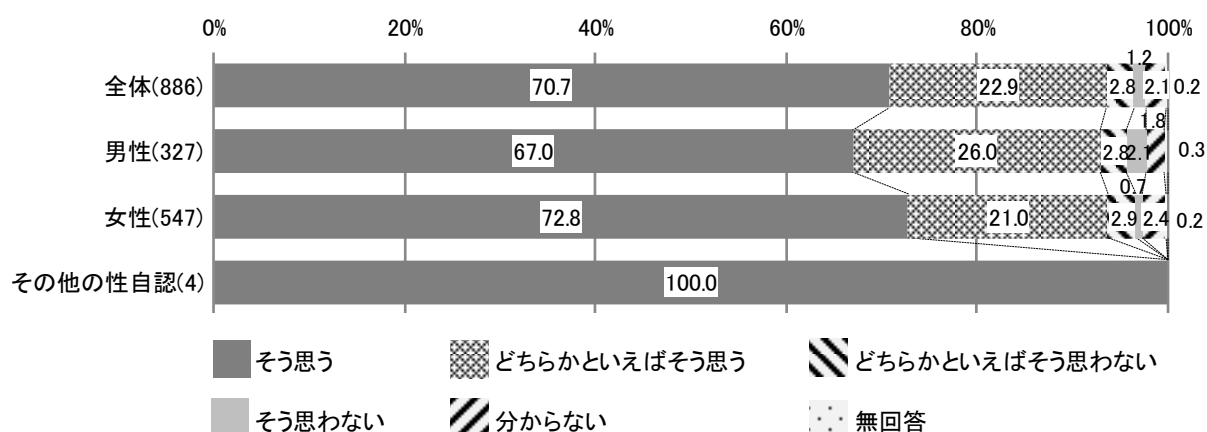
### 問3. 考え方「工. 同性同士のカップルを尊重する」

	全体	そう思う	どちらかとい えばそう思う	どちらかとい えばそう思わ ない	そう思わない	分からない	無回答
今回調査	100.0	41.9	29.9	8.7	10.3	8.8	0.5
前回調査	100.0	38.4	28.3	8.8	8.5	11.1	4.8

# オ. 同性同士のカップルであっても、異性同士のカップルと同様の法律上の権利が認められるべきだ



### カ. 結婚生活に問題があれば離婚してもよい

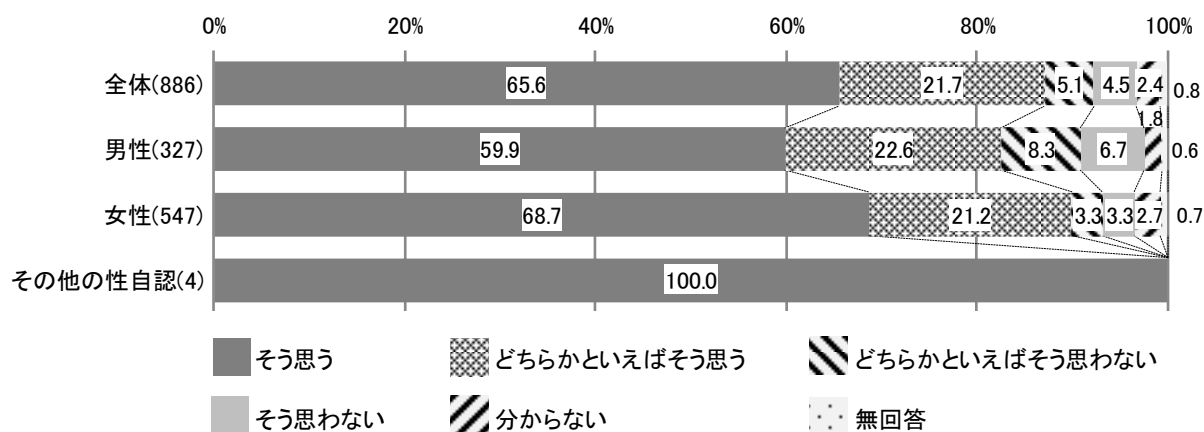


#### <前回調査との比較>

問3. 考え方「カ. 結婚生活に問題があれば離婚してもよい」

	全体	そう思う	どちらかとい えばそう思う	どちらかとい えばそう思わ ない	そう思わない	分からない	無回答
今回調査	100.0	70.7	22.9	2.8	1.2	2.1	0.2
前回調査	100.0	56.3	28.0	5.0	2.4	3.4	4.8

### キ. 「結婚しても子どもは持たない」というのも選択の一つだ

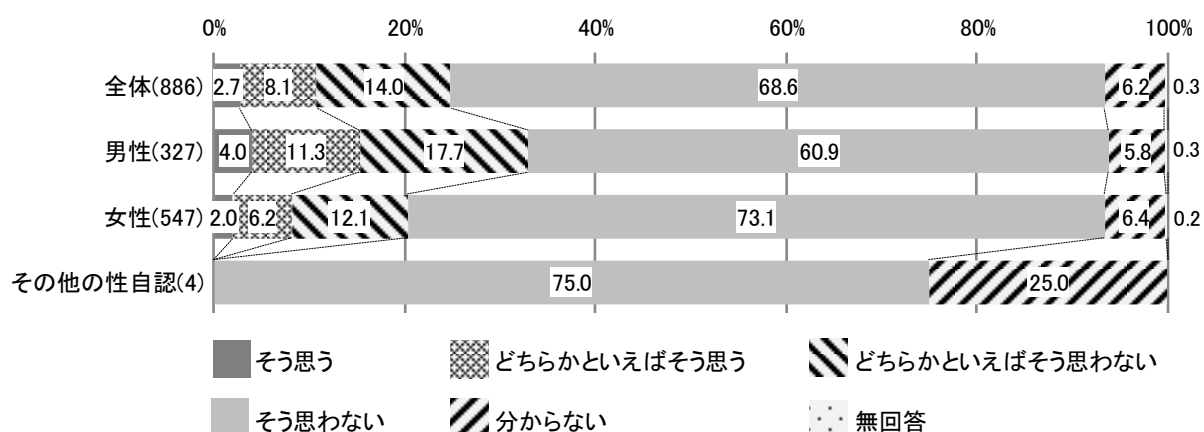


#### <前回調査との比較>

問3. 考え方「キ. 「結婚しても子どもは持たない」というのも選択の一つだ」

	全体	そう思う	どちらかとい えばそう思う	どちらかとい えばそう思わ ない	そう思わない	分からない	無回答
今回調査	100.0	65.6	21.7	5.1	4.5	2.4	0.8
前回調査	100.0	56.5	21.1	7.7	6.1	3.8	4.8

## ク.「男は仕事、女は家庭」という考え方には共感する

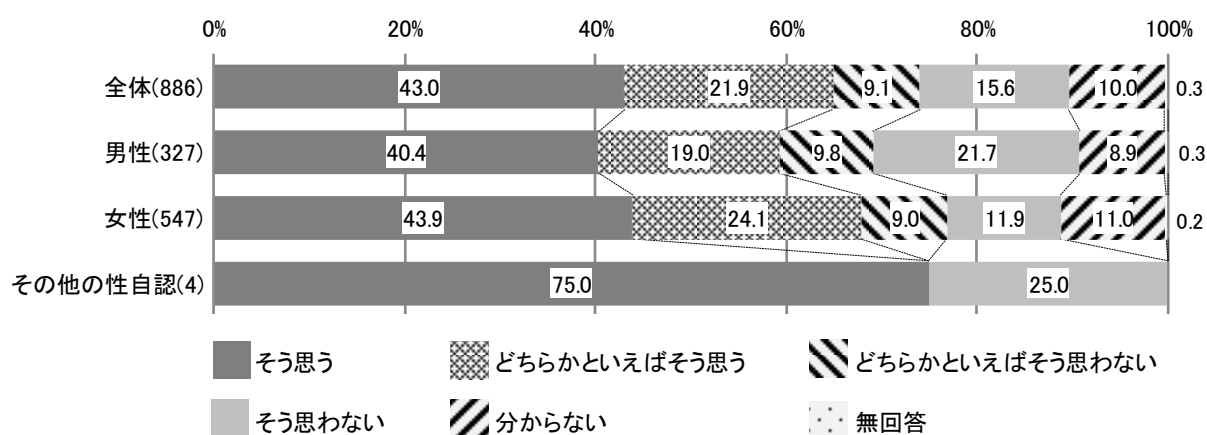


## &lt; 前回調査との比較 &gt;

問3. 考え方「ク.「男は仕事、女は家庭」という考え方には共感する」

	全体	そう思う	どちらかとい えばそう思う	どちらかとい えばそう思わ ない	そう思わない	分からない	無回答
今回調査	100.0	2.7	8.1	14.0	68.6	6.2	0.3
前回調査	100.0	2.9	9.0	15.8	63.9	3.6	4.8

## ケ. 選択的夫婦別姓制度について賛成である



## &lt; 前回調査との比較 &gt;

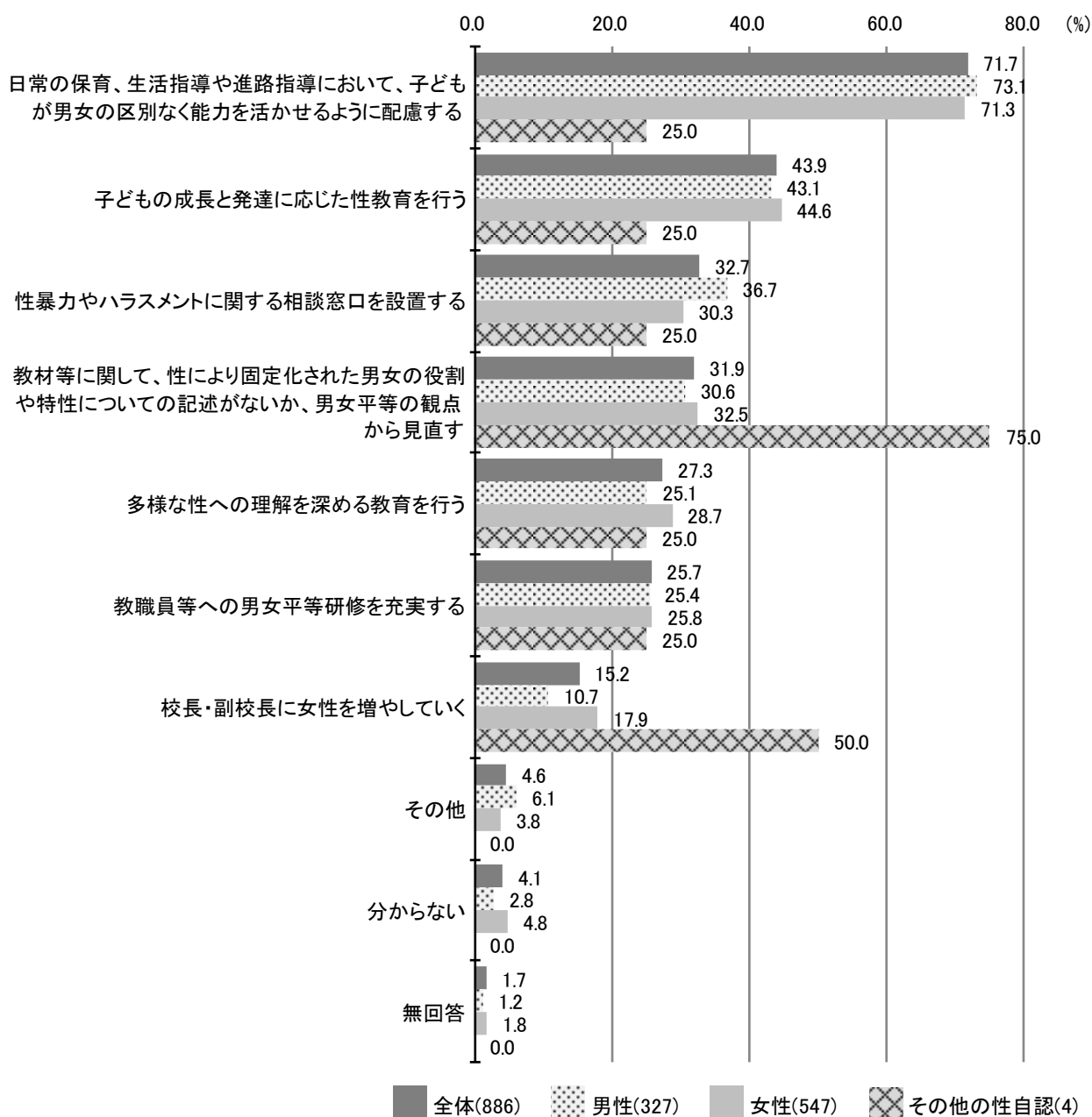
問3. 考え方「ケ. 選択的夫婦別姓制度について賛成である」

	全体	そう思う	どちらかとい えばそう思う	どちらかとい えばそう思わ ない	そう思わない	分からない	無回答
今回調査	100.0	43.0	21.9	9.1	15.6	10.0	0.3
前回調査	100.0	40.0	22.8	10.8	10.8	11.0	4.8

## Ⅱ. 保育・教育について

■ <問4> 区立の保育園・幼稚園・小学校・中学校の保育や教育の現場において、男女平等参画を推進するためにはどのようなことに力を入れればよいと思いますか。【3つまで○】

「日常の保育、生活指導や進路指導において、子どもが男女の区別なく能力を活かせるように配慮する」が71.7%と最も高く、次いで「子どもの成長と発達に応じた性教育を行う」が43.9%となっている。



## &lt;前回調査との比較&gt;

## 問4. 保育や教育の現場で力を入れればよいと思うこと

	全体	日常の保育、生活指導や進路指導において、子どもが男女の区別なく能力を活かせるように配慮する	教材等に関して、性により固定化された男女の役割や特性についての記述がないか、男女平等の観点から見直す	子どもの成長と発達に応じた性教育を行う	多様な性への理解を深める教育を行う	教職員等への男女平等研修を充実する	性暴力やハラスメントに関する相談窓口を設置する
今回調査	100.0	71.7	31.9	43.9	27.3	25.7	32.7
前回調査	100.0	64.9	28.5	41.9	33.9	25.2	25.0

校長・副校長に女性を増やしていく	その他	分からない	無回答
15.2	4.6	4.1	1.7
19.2	4.2	4.4	3.8

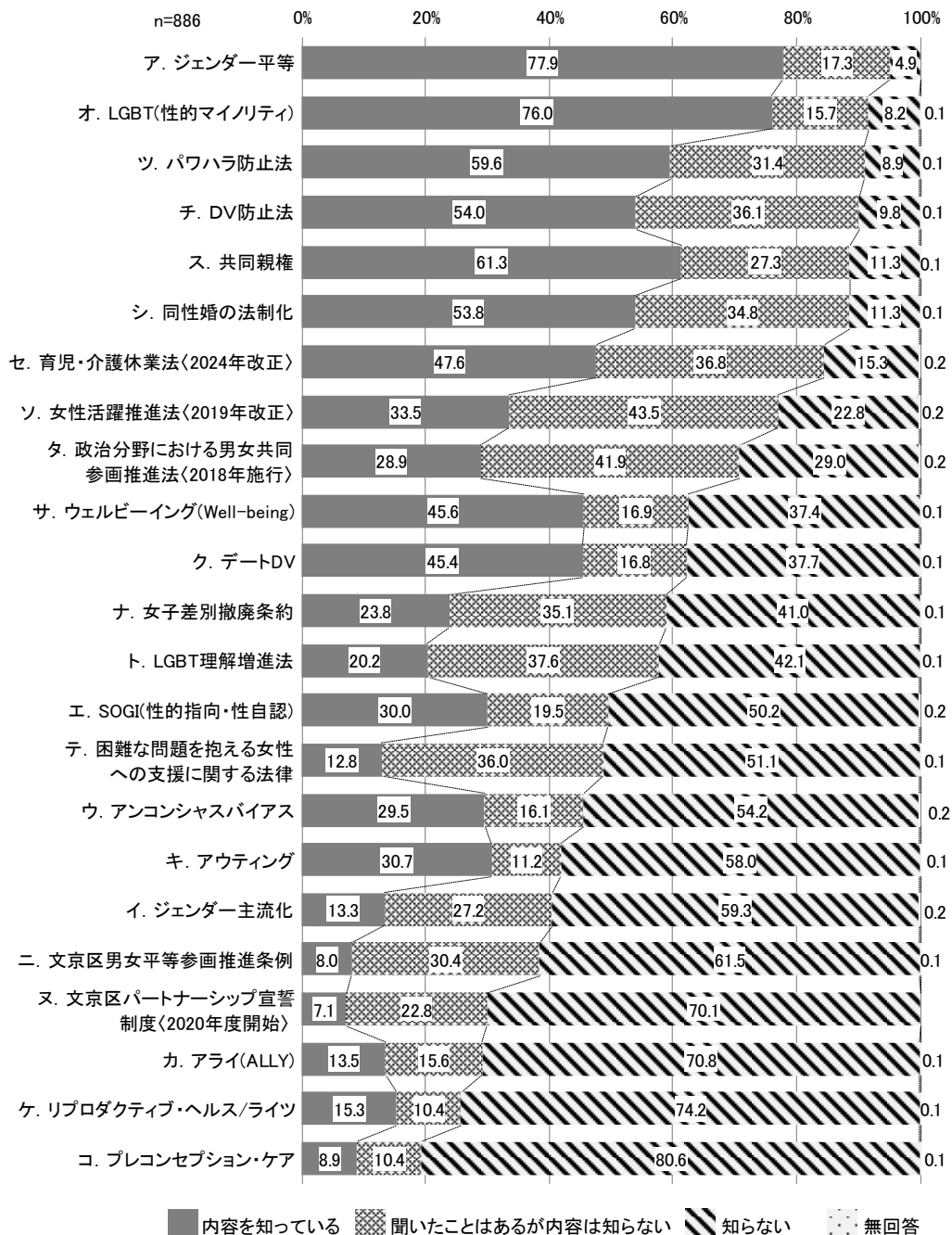
### Ⅲ. 男女平等への関心と意識について

■ <問5>あなたは、次にあげる言葉を知っていますか。ア～ヌのそれぞれにつき一つずつ「○」をしてください。

「内容を知っている」割合は、「ジェンダー平等」が77.9%で最も高く、次いで「LGBT(性的マイノリティ)」が76.0%、「共同親権」が61.3%、「パワハラ防止法」が59.6%となっている。

一方、「知らない」割合は、「プレコンセプション・ケア」が80.6%で最も高く、また、「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」(74.2%)、「アライ(ALLY)」(70.8%)、「文京区パートナーシップ宣誓制度(2020年度開始)」(70.1%)が7割以上となっている。

前回調査と比較すると、「ジェンダー平等」について「内容を知っている」人の割合が14.5ポイント上昇している。





## &lt;前回調査との比較&gt;

「ジェンダー主流化」、「アンコンシャスバイアス」、「アライ(ALLY)」、「プレコンセプション・ケア」、「ウェルビーイング(Well-being)」、「同性婚の法制化」、「共同親権」、「育児・介護休業法」、「DV 防止法」、「パワハラ防止法」、「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」、「LGBT 理解増進法」は、今回からの新規項目のため掲載なし。

## 問5. 言葉の認知度「ジェンダー平等」

	全体	内容を知っている	聞いたことはあるが内容は知らない	知らない	無回答
今回調査	100.0	77.9	17.3	4.9	0.0
前回調査	100.0	63.4	18.8	14.5	3.3

## 問5. 言葉の認知度「SOGI(性的指向・性自認)」

	全体	内容を知っている	聞いたことはあるが内容は知らない	知らない	無回答
今回調査	100.0	30.0	19.5	50.2	0.2
前回調査	100.0	21.5	19.8	55.1	3.6

## 問5. 言葉の認知度「LGBT(性的マイノリティ)」

	全体	内容を知っている	聞いたことはあるが内容は知らない	知らない	無回答
今回調査	100.0	76.0	15.7	8.2	0.1
前回調査	100.0	70.6	13.6	12.3	3.5

## 問5. 言葉の認知度「アウティング」

	全体	内容を知っている	聞いたことはあるが内容は知らない	知らない	無回答
今回調査	100.0	30.7	11.2	58.0	0.1
前回調査	100.0	24.0	11.1	60.3	4.7

## 問5. 言葉の認知度「デートDV」

	全体	内容を知っている	聞いたことはあるが内容は知らない	知らない	無回答
今回調査	100.0	45.4	16.8	37.7	0.1
前回調査	100.0	41.1	15.2	39.9	3.8

## 問5. 言葉の認知度「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」

	全体	内容を知っている	聞いたことはあるが内容は知らない	知らない	無回答
今回調査	100.0	15.3	10.4	74.2	0.1
前回調査	100.0	10.9	11.7	73.7	3.7

## 問5. 言葉の認知度「女性活躍推進法(2019 年改正)」

	全体	内容を知っている	聞いたことはあるが内容は知らない	知らない	無回答
今回調査	100.0	33.5	43.5	22.8	0.2
前回調査	100.0	28.0	45.1	23.5	3.4

## 問5.言葉の認知度「政治分野における男女共同参画推進法〈2018 年施行〉」

	全体	内容を知っている	聞いたことはあるが内容は知らない	知らない	無回答
今回調査	100.0	28.9	41.9	29.0	0.2
前回調査	100.0	22.6	40.7	33.1	3.6

## 問5. 言葉の認知度「女子差別撤廃条約」

	全体	内容を知っている	聞いたことはあるが内容は知らない	知らない	無回答
今回調査	100.0	23.8	35.1	41.0	0.1
前回調査	100.0	25.8	35.4	35.4	3.4

## 問5. 言葉の認知度「文京区男女平等参画推進条例」

	全体	内容を知っている	聞いたことはあるが内容は知らない	知らない	無回答
今回調査	100.0	8.0	30.4	61.5	0.1
前回調査	100.0	7.3	24.2	65.6	3.0

## 問5. 言葉の認知度「文京区パートナーシップ宣誓制度〈2020 年度開始〉」

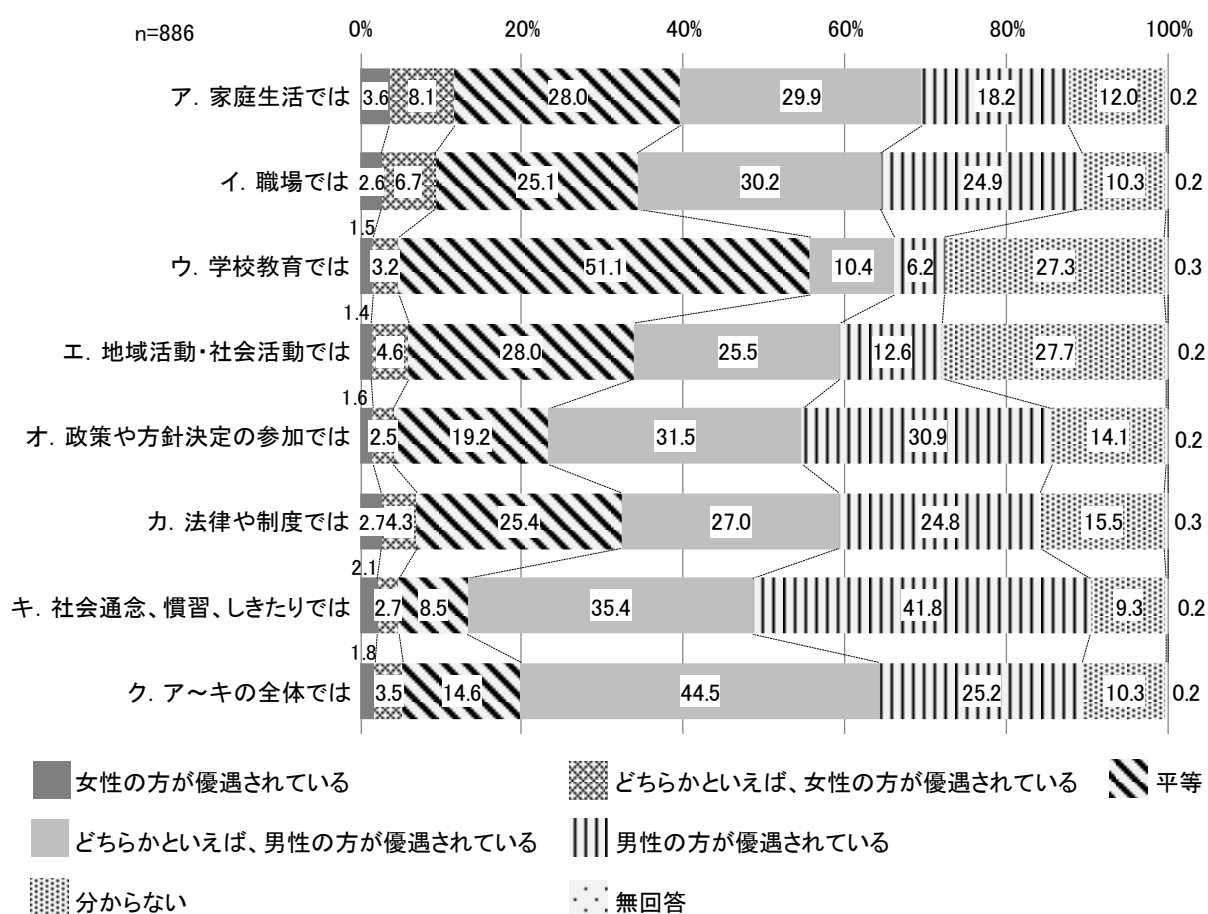
	全体	内容を知っている	聞いたことはあるが内容は知らない	知らない	無回答
今回調査	100.0	7.1	22.8	70.1	0.0
前回調査	100.0	5.0	16.0	75.8	3.1

■ <問6> あなたは、以下の面で女性と男性が平等になっていると思いますか。ア～クのそれぞれにつき、あなたの感じ方に最も近いもの一つずつに「○」をしてください。

全体では「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば、男性の方が優遇されている」の合計(以下、『男性優遇』)が 69.7%で、「女性の方が優遇されている」と「どちらかといえば、女性の方が優遇されている」の合計(以下、『女性優遇』)は 5.3%にとどまる。

学校教育では「平等」が半数(51.1%)を占め、『男性優遇』と『女性優遇』の差も 11.9 ポイントと小さくなっている。

その他の場面では、『男性優遇』が『女性優遇』を 30 ポイント以上上回っており、特に、社会通念、慣習、しきたりについては『男性優遇』が 77.2%、政策や方針決定の参加については 62.4%となっている。



## &lt;前回調査との比較&gt;

## 問6. 各分野における男女の地位の平等感「ア. 家庭生活では」

	全体	女性の方が 優遇されている	どちらかとい えば、女性の方 が優遇されてい る	平等	どちらかとい えば、男性の方 が優遇されてい る	男性の方が 優遇されている	分からない	無回答
今回調査	100.0	3.6	8.1	28.0	29.9	18.2	12.0	0.2
前回調査	100.0	2.2	8.1	26.2	30.5	17.7	10.9	4.5

## 問6. 各分野における男女の地位の平等感「イ. 職場では」

	全体	女性の方が 優遇されている	どちらかとい えば、女性の方 が優遇されてい る	平等	どちらかとい えば、男性の方 が優遇されてい る	男性の方が 優遇されている	分からない	無回答
今回調査	100.0	2.6	6.7	25.1	30.2	24.9	10.3	0.2
前回調査	100.0	1.4	6.3	19.4	35.4	25.3	7.3	4.9

## 問6. 各分野における男女の地位の平等感「ウ. 学校教育では」

	全体	女性の方が 優遇されている	どちらかとい えば、女性の方 が優遇されてい る	平等	どちらかとい えば、男性の方 が優遇されてい る	男性の方が 優遇されている	分からない	無回答
今回調査	100.0	1.5	3.2	51.1	10.4	6.2	27.3	0.3
前回調査	100.0	1.0	2.3	50.0	12.5	5.1	24.1	4.9

## 問6. 各分野における男女の地位の平等感「エ. 地域活動・社会活動では」

	全体	女性の方が 優遇されている	どちらかとい えば、女性の方 が優遇されてい る	平等	どちらかとい えば、男性の方 が優遇されてい る	男性の方が 優遇されている	分からない	無回答
今回調査	100.0	1.4	4.6	28.0	25.5	12.6	27.7	0.2
前回調査	100.0	0.8	4.4	25.8	23.7	12.5	28.2	4.7

## 問6. 各分野における男女の地位の平等感「オ. 政策や方針決定の参加では」

	全体	女性の方が 優遇されている	どちらかとい えば、女性の方 が優遇されてい る	平等	どちらかとい えば、男性の方 が優遇されてい る	男性の方が 優遇されている	分からない	無回答
今回調査	100.0	1.6	2.5	19.2	31.5	30.9	14.1	0.2
前回調査	100.0	0.3	2.4	14.3	33.7	32.1	12.4	4.8

## 問6. 各分野における男女の地位の平等感「カ. 法律や制度では」

	全体	女性の方が 優遇されている	どちらかとい えば、女性の方 が優遇されてい る	平等	どちらかとい えば、男性の方 が優遇されてい る	男性の方が 優遇されている	分からない	無回答
今回調査	100.0	2.7	4.3	25.4	27.0	24.8	15.5	0.3
前回調査	100.0	0.8	4.9	23.5	29.6	22.2	14.5	4.6

## 問6. 各分野における男女の地位の平等感「キ. 社会通念、慣習、しきたりでは」

	全体	女性の方が 優遇されている	どちらかとい えば、女性の方 が優遇されてい る	平等	どちらかとい えば、男性の方 が優遇されてい る	男性の方が 優遇されている	分からない	無回答
今回調査	100.0	2.1	2.7	8.5	35.4	41.8	9.3	0.2
前回調査	100.0	0.5	2.5	8.0	40.2	38.5	6.0	4.4

## 問6. 各分野における男女の地位の平等感「ク. ア～キの全体では」

	全体	女性の方が 優遇されている	どちらかとい えば、女性の方 が優遇されてい る	平等	どちらかとい えば、男性の方 が優遇されてい る	男性の方が 優遇されている	分からない	無回答
今回調査	100.0	1.8	3.5	14.6	44.5	25.2	10.3	0.2
前回調査	100.0	0.3	2.2	13.4	50.0	21.8	7.6	4.7

## IV. 就労・職場について

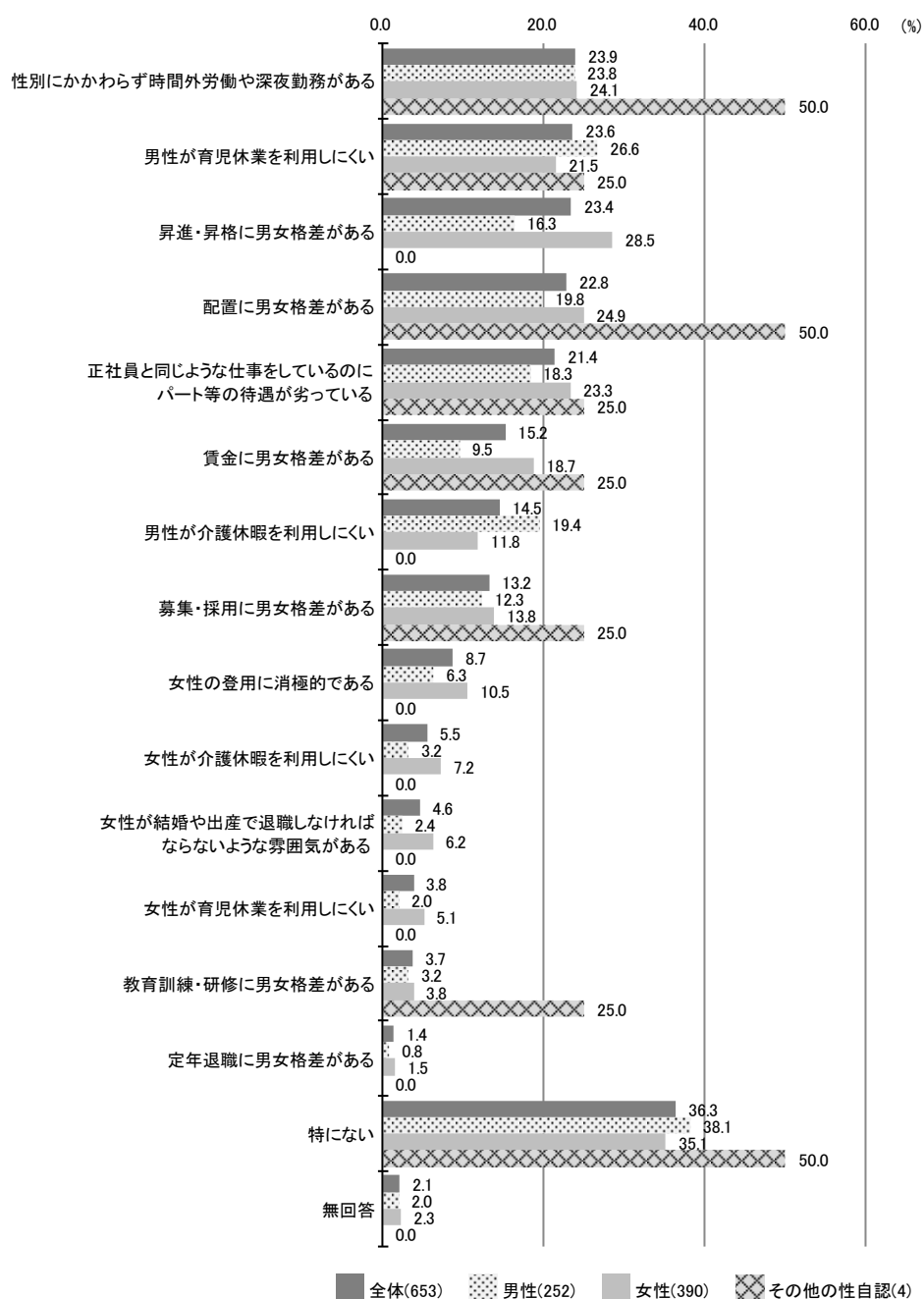
■ <問7-1> あなたの職場では性別により次のような待遇の格差等があると感じますか。【○はいくつでも】

「特にない」が 36.3% で最も多い。

待遇の格差等があると感じる場合は、「性別にかかわらず時間外労働や深夜勤務がある」が 23.9% で最も多い。また、「男性が育児休業を利用しにくい」(23.6%)、「昇進・昇格に男女格差がある」(23.4%)、「配置に男女格差がある」(22.8%)、「正社員と同じような仕事をしているのに、パート等の待遇が劣っている」(21.4%) が2割以上となっている。

性別で見ると、女性では「昇進・昇格に男女格差がある」が 28.5% で最も多い。また、「賃金に男女格差がある」は女性で 18.7% であり、男性を 9.2 ポイント上回る。

前回調査と比較すると、「男性が育児休業を利用しにくい」が 11.1 ポイント減少している。



## &lt; 前回調査との比較 &gt;

## 問7-1.職場における(仕事内容や待遇面での)性別による違い

	全体	募集・採用に 男女格差が ある	賃金に男女 格差がある	昇進・昇格に 男女格差が ある	配置に男女 格差がある	教育訓練・研 修に男女格 差がある	定年退職に 男女格差が ある	女性が結婚 や出産で退 職しなければ ならないよう な雰囲気があ る	男性が育児 休業を利用し にくい
今回調査	100.0	13.2	15.2	23.4	22.8	3.7	1.4	4.6	23.6
前回調査	100.0	13.8	11.5	23.6	21.6	3.8	2.0	3.4	34.7

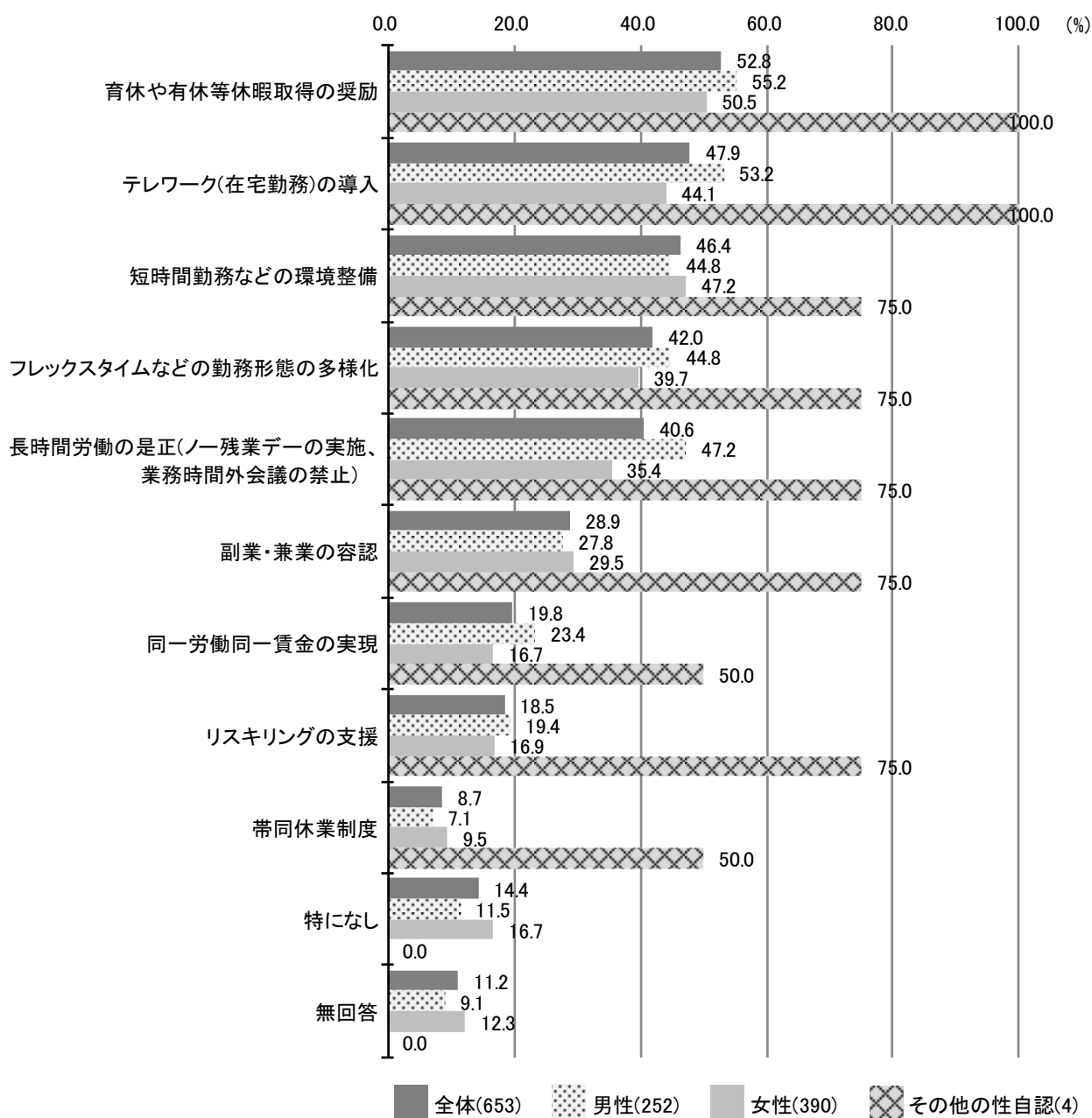
男性が介護 休業を利用し にくい	女性が育児 休業を利用し にくい	女性が介護 休業を利用し にくい	正社員と同じ ような仕事を しているのに、パート等 の待遇が劣っている	女性の登用 に消極的であ る	性別にかか わらず、時間 外労働や深夜勤務があ る	特にない	無回答
14.5	3.8	5.5	21.4	8.7	23.9	36.3	2.1
20.6	3.6	6.3	15.9	9.2	28.9	31.5	3.5

■ <問7-2>【現在就業している(問7で「1」～「5」のいずれかに「○」をした)方にお聞きします。】次の勤務形態や取組のうち、あなたの職場で現在行われているものはありますか。また、今後行ってほしいものはありますか。

現在行われているものとしては、「育休や有休等休暇取得の奨励」が 52.8%で最も多く、次いで、「テレワーク(在宅勤務)の導入」(47.9%)、「短時間勤務などの環境整備」(46.4%)となっている。

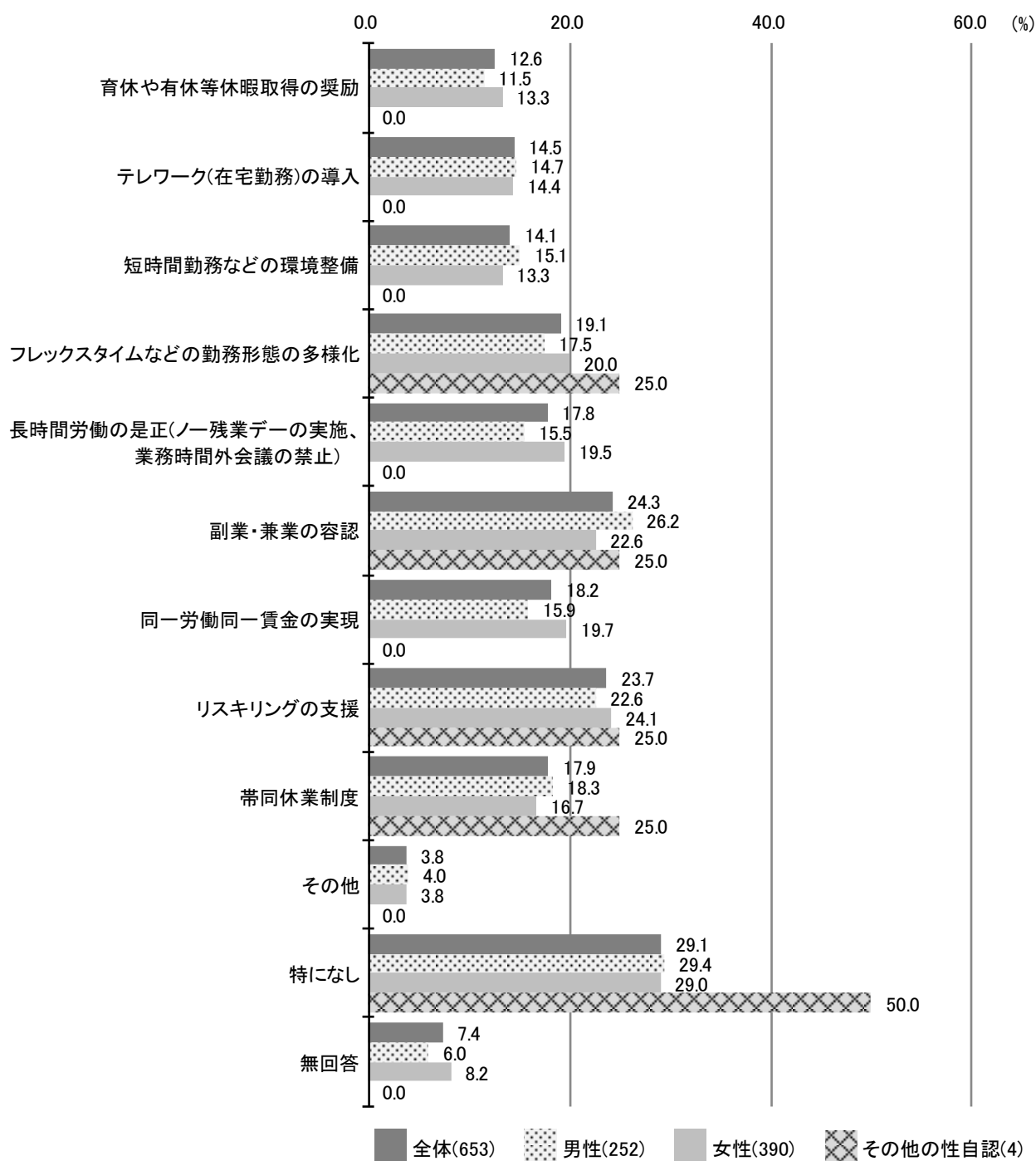
今後行ってほしいものとしては、「副業・兼業の容認」が 24.3%、「リスクリングの支援」が 23.7%となっている。また、「特になし」という人も3割(29.1%)となっている。

### ①現在行われているもの





## ②今後行ってほしいもの



## &lt;前回調査との比較&gt;

## 問7-2. 職場で実施されている勤務形態や取組&lt;&lt;①現在行われているもの&gt;&gt;

	全体	長時間労働の是正(ノ残業デーの実施、業務時間外会議の禁止)	育休や有休等休暇取得の奨励	短時間勤務などの環境整備	テレワーク(在宅勤務)の導入	フレックスタイムなどの勤務形態の多様化	同一労働同一賃金の実現	副業・兼業の容認
今回調査	100.0	40.6	52.8	46.4	47.9	42.0	19.8	28.9
前回調査	100.0	47.1	56.1	39.7	54.5	43.3	16.8	17.1

帯同休業制度	リスクリングの支援	特になし	無回答
8.7	18.5	14.4	11.2
-	-	10.5	8.7

※ 今回調査では選択肢「帯同休業制度」、「リスクリングの支援」を追加

## 問7-2. 職場で実施されている勤務形態や取組&lt;&lt;②今後行ってほしいもの&gt;&gt;

	全体	長時間労働の是正(ノ残業デーの実施、業務時間外会議の禁止)	育休や有休等休暇取得の奨励	短時間勤務などの環境整備	テレワーク(在宅勤務)の導入	フレックスタイムなどの勤務形態の多様化	同一労働同一賃金の実現	副業・兼業の容認
今回調査	100.0	17.8	12.6	14.1	14.5	19.1	18.2	24.3
前回調査	100.0	18.8	17.5	17.1	15.2	22.0	14.9	30.5

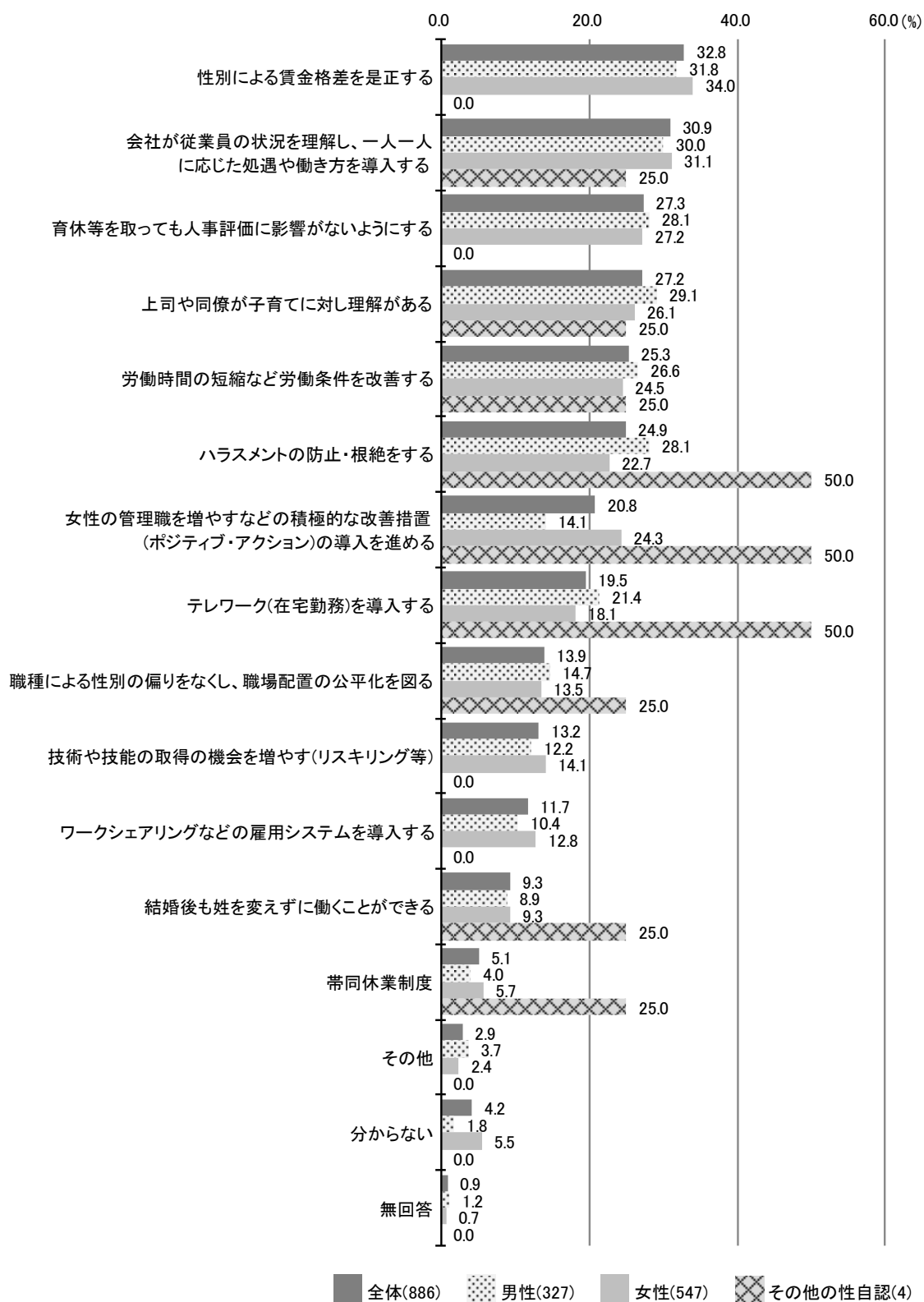
帯同休業制度	リスクリングの支援	その他	特になし	無回答
17.9	23.7	3.8	29.1	7.4
-	-	6.0	24.2	9.2

※ 今回調査では選択肢「帯同休業制度」、「リスクリングの支援」を追加

■ <問8>あなたは、性別にかかわらず働きやすい職場環境をつくるために、どのようなことが重要だと思いますか。【3つまで○】

「性別による賃金格差を是正する」が32.8%で最も多く、次いで、「会社が従業員の状況を理解し、一人一人に応じた処遇や働き方を導入する」(30.9%)、「育休等を取っても人事評価に影響がないようにする」(27.3%)、「上司や同僚が子育てに対し理解がある」(27.2%)となっている。

性別で見ると、「女性の管理職を増やすなどの積極的な改善措置(ポジティブ・アクション)の導入を進める」は女性では24.3%であり、男性(14.1%)を大きく上回っている。



## &lt;前回調査との比較&gt;

## 問8. 性別にかかわらず働きやすい職場環境をつくるために必要なこと

	全体	性別による賃金格差を是正する	女性の管理職を増やすなどの積極的な改善措置(ポジティブ・アクション)の導入を進める	労働時間の短縮など労働条件を改善する	ワークシェアリングなどの雇用システムを導入する	テレワーク(在宅勤務)を導入する	職種による性別の偏りをなくし、職場配置の公平化を図る	育休等を取っても人事評価に影響がないようにする	帯同休業制度
今回調査	100.0	32.8	20.8	25.3	11.7	19.5	13.9	27.3	5.1
前回調査	100.0	27.8	19.5	24.0	17.2	14.0	14.0	26.8	—

技術や技能の取得の機会を増やす(リスキリング等)	上司や同僚が子育てに対し理解がある	会社が従業員の状況を理解し、一人一人に応じた処遇や働き方を導入する	ハラスメントの防止・根絶をする	結婚後も姓を変えずに働くことができる	その他	分からない	無回答
13.2	27.2	30.9	24.9	9.3	2.9	4.2	0.9
11.5	21.8	26.7	18.6	—	3.4	3.3	12.9

※ 今回調査では選択肢「帯同休業制度」、「結婚後も姓を変えずに働くことができる」を追加

## V. 女性の活躍について

### まとめ

女性が男性と対等に仕事をするということについては7割の人が肯定的に捉えている一方で、女性の半数は、仕事と家庭の両立のために女性の負担が増えていると考えている。

そして、雇用分野における女性の参加を促す支援策として、育休・介護休暇の取得率向上を始めとした男性の働き方の見直しや女性の家事、育児、介護等の負担の軽減、上司や同僚等の子育てへの理解、女性が安心して働き続けるための相談体制の充実などを求める声が多くなっている。

■ <問9> あなたは、女性が仕事を持って働き続けることについて、どのように感じていますか。

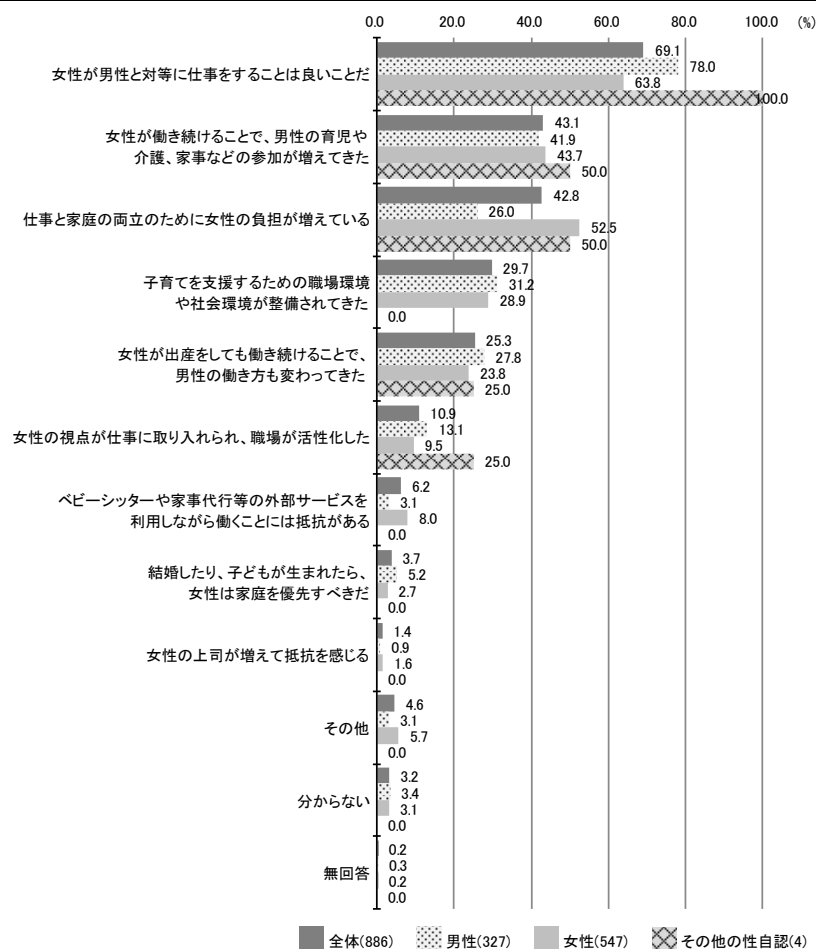
【3つまで○】

「女性が男性と対等に仕事をすることは良いことだ」が 69.1%で最も多く、次いで、「女性が働き続けることで、男性の育児や介護、家事などの参加が増えてきた」(43.1%)、「仕事と家庭の両立のために女性の負担が増えている」(42.8%)となっている。

性別で見ると、「女性が男性と対等に仕事をすることは良いことだ」は男性で 78.0%であり、女性(63.8%)を上回っている。

「仕事と家庭の両立のために女性の負担が増えている」は女性では半数(52.5%)を占めており、男性(26.0%)を大きく上回る。

前回調査と比較すると、「女性が働き続けることで、男性の育児や介護、家事などの参加が増えてきた」が 9.2 ポイントの増加となっている。



## &lt;前回調査との比較&gt;

## 問9. 女性が仕事を持って働き続けることに対する意識

	全体	女性が男性と対等に仕事をすることは良いことだ	女性が出産をしても働き続けることで、男性の働き方も変わってきた	女性が働き続けることで、男性の育児や介護、家事などの参加が増えてきた	子育てを支援するための職場環境や社会環境が整備されてきた	女性の視点が仕事に取り入れられ、職場が活性化した	女性の上司が増えて抵抗を感じる
今回調査	100.0	69.1	25.3	43.1	29.7	10.9	1.4
前回調査	100.0	65.3	22.5	33.9	24.5	11.3	0.9

仕事と家庭の両立のために女性の負担が増えている	ベビーシッターや家事代行等の外部サービスを利用しながら働くことには抵抗がある	結婚したり、子どもが生まれたら、女性は家庭を優先すべきだ	その他	分からない	無回答
42.8	6.2	3.7	4.6	3.2	0.2
47.1	—	5.8	4.9	3.1	5.0

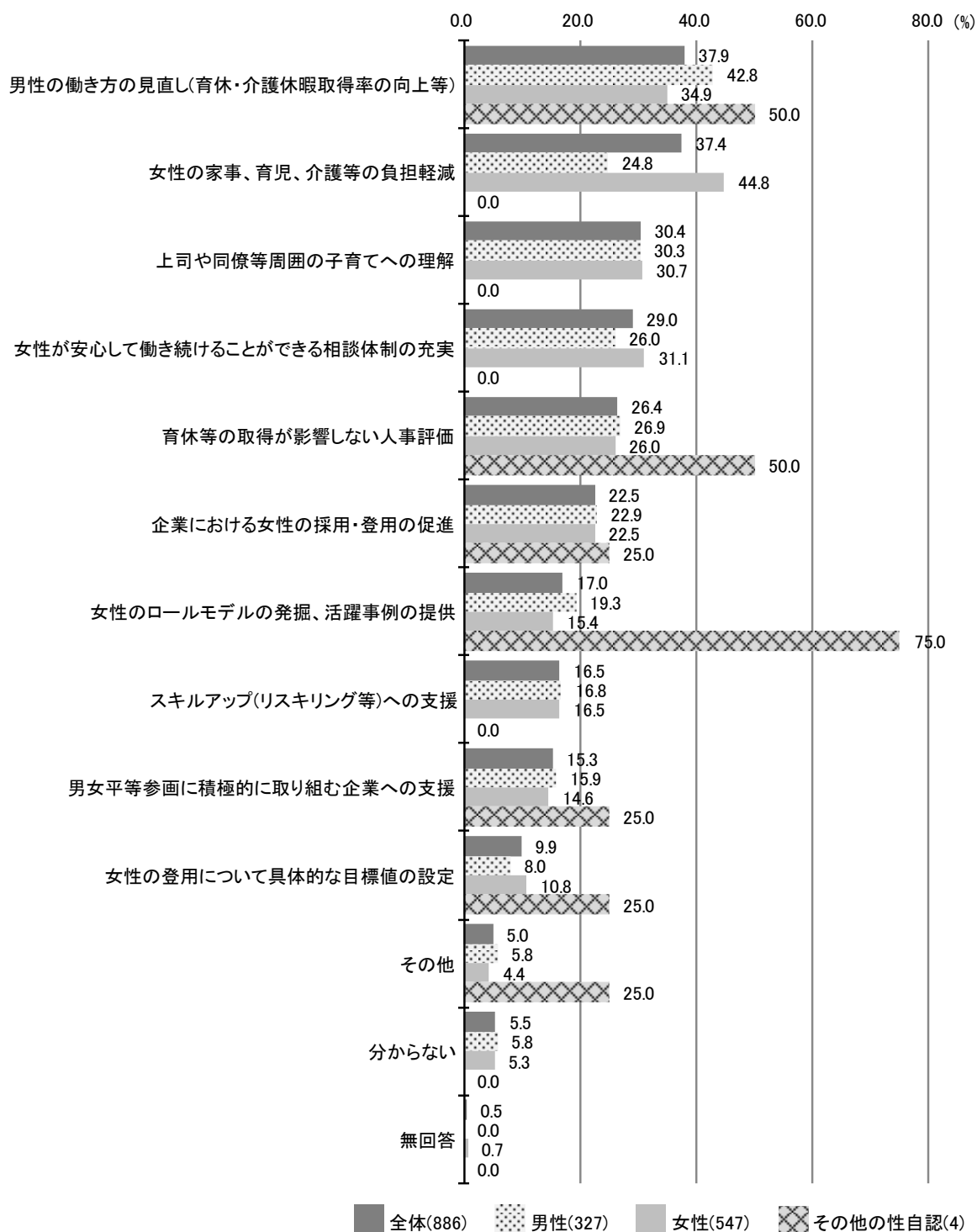
※ 今回調査では選択肢「ベビーシッターや家事代行等の外部サービスを利用しながら働くことには抵抗がある」を追加

※ 今回調査では選択肢「女性の感性や発想が仕事に取り入れられ、職場が活性化した」の「感性や発想」を「視点」に変更

■ <問 10> あなたは、雇用分野における女性の管理職の登用など、女性の参画を促すには、どのような支援が必要だと思いますか。【3つまで○】

「男性の働き方の見直し(育休・介護休暇取得率の向上等)」(37.9%)、「女性の家事、育児、介護等の負担軽減」(37.4%)が多くなっている。そのほか、「上司や同僚等周囲の子育てへの理解」(30.4%)、「女性が安心して働き続けることができる相談体制の充実」(29.0%)が3割となっている。

性別で見ると、女性では、「女性の家事、育児、介護等の負担軽減」が44.8%で最も多く、男性(24.8%)を大きく上回っている。



## &lt;前回調査との比較&gt;

## 問 10. 女性の管理職の登用など参画を促すために必要な支援

	全体	企業における女性の採用・登用の促進	女性の登用について具体的な目標値の設定	女性のロールモデルの発掘・活躍事例の提供	女性が安心して働き続けたいことのできる相談体制の充実	男女平等参画に積極的に取り組む企業への支援	スキルアップ(リスキリング等)への支援	女性の管理職への支援
今回調査	100.0	22.5	9.9	17.0	29.0	15.3	16.5	-
前回調査	100.0	28.4	11.8	15.4	28.4	19.7	-	14.0

男性の働き方の見直し(育休・介護休暇取得率の向上等)	育休等の取得が影響しない人事評価	上司や同僚等周囲の子育てへの理解	女性の家事、育児、介護等の負担軽減	その他	分からない	無回答
37.9	26.4	30.4	37.4	5.0	5.5	0.5
41.0	28.3	32.8	-	6.4	5.2	6.2

※ 今回調査では選択肢「スキルアップ(リスキリング等)への支援」、「女性の家事、育児、介護等の負担軽減」を追加し、「女性の管理職への支援」を削除



## VI. 家庭生活と社会生活の両立について

■ <問 11> ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)についての考え方で、あなたの①希望と②現実(現状)に最も近いもの一つずつに「○」をしてください。

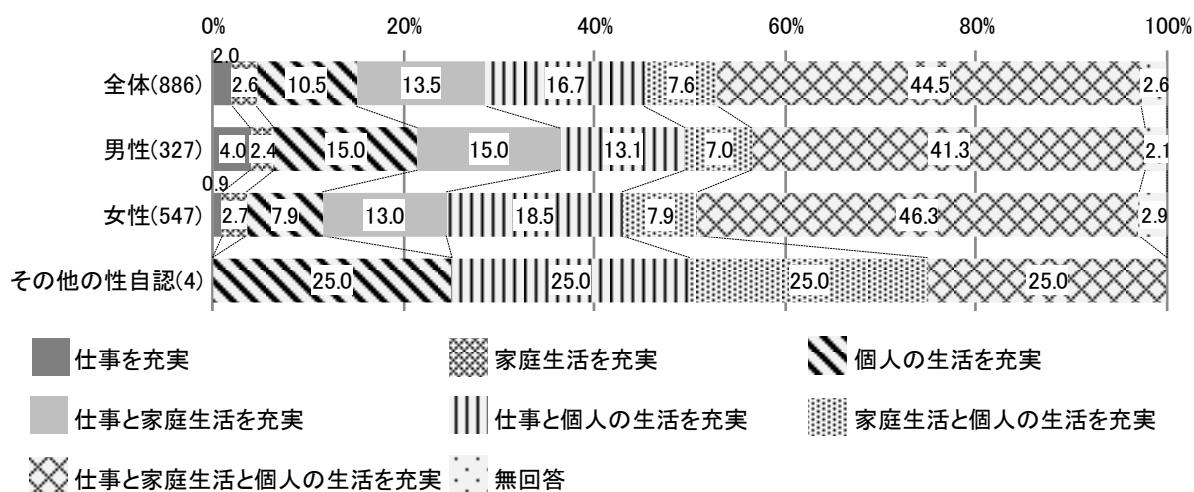
希望としては、「仕事と家庭生活と個人の生活を充実」が 44.5%で最も多い。

現実(現状)としては、「仕事を充実」が 23.9%で最も多くなっている。

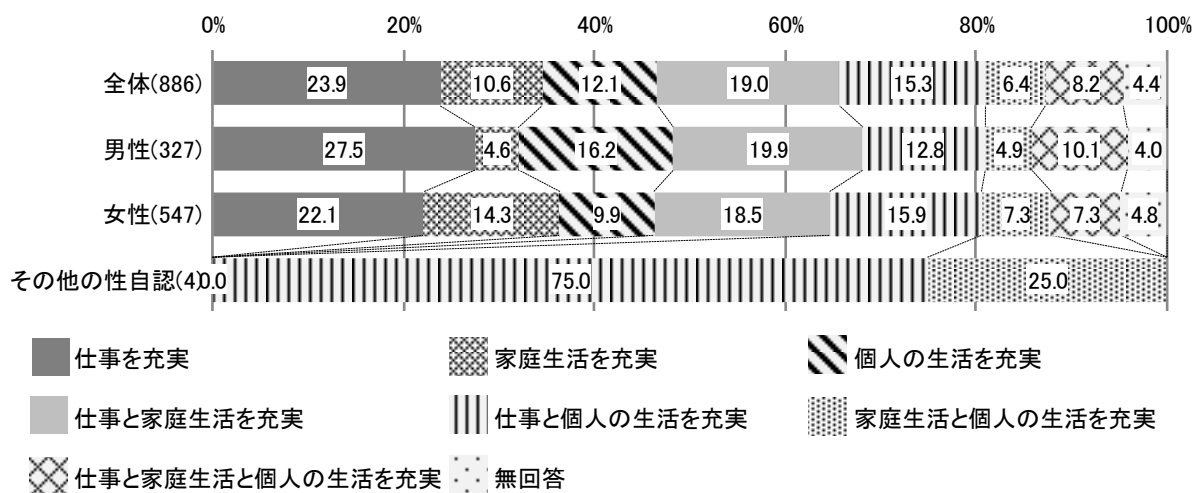
現実(現状)を性別で見ると、「家庭生活を充実」は女性で 14.3%であり、男性(4.6%)を 9.7ポイント上回っている。一方、男性では、「仕事を充実」(27.5%)や「個人の生活を充実」(16.2%)の割合が女性を上回っている。

前回調査と比較すると、「仕事と家庭生活と個人の生活を充実」を希望する人が13.4ポイント増えている。

### ①希望



### ②現実(現状)



## &lt; 前回調査との比較 &gt;

## 問 11. 「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度 &lt;&lt; 希望 &gt;&gt;

	全体	仕事を充実	家庭生活を充実	個人の生活を充実	仕事と家庭生活を充実	仕事と個人の生活を充実	家庭生活と個人の生活を充実	仕事と家庭生活と個人の生活を充実	無回答
今回調査	100.0	2.0	2.6	10.5	13.5	16.7	7.6	44.5	2.6
前回調査	100.0	2.1	5.9	11.6	17.6	15.2	8.8	31.1	7.6

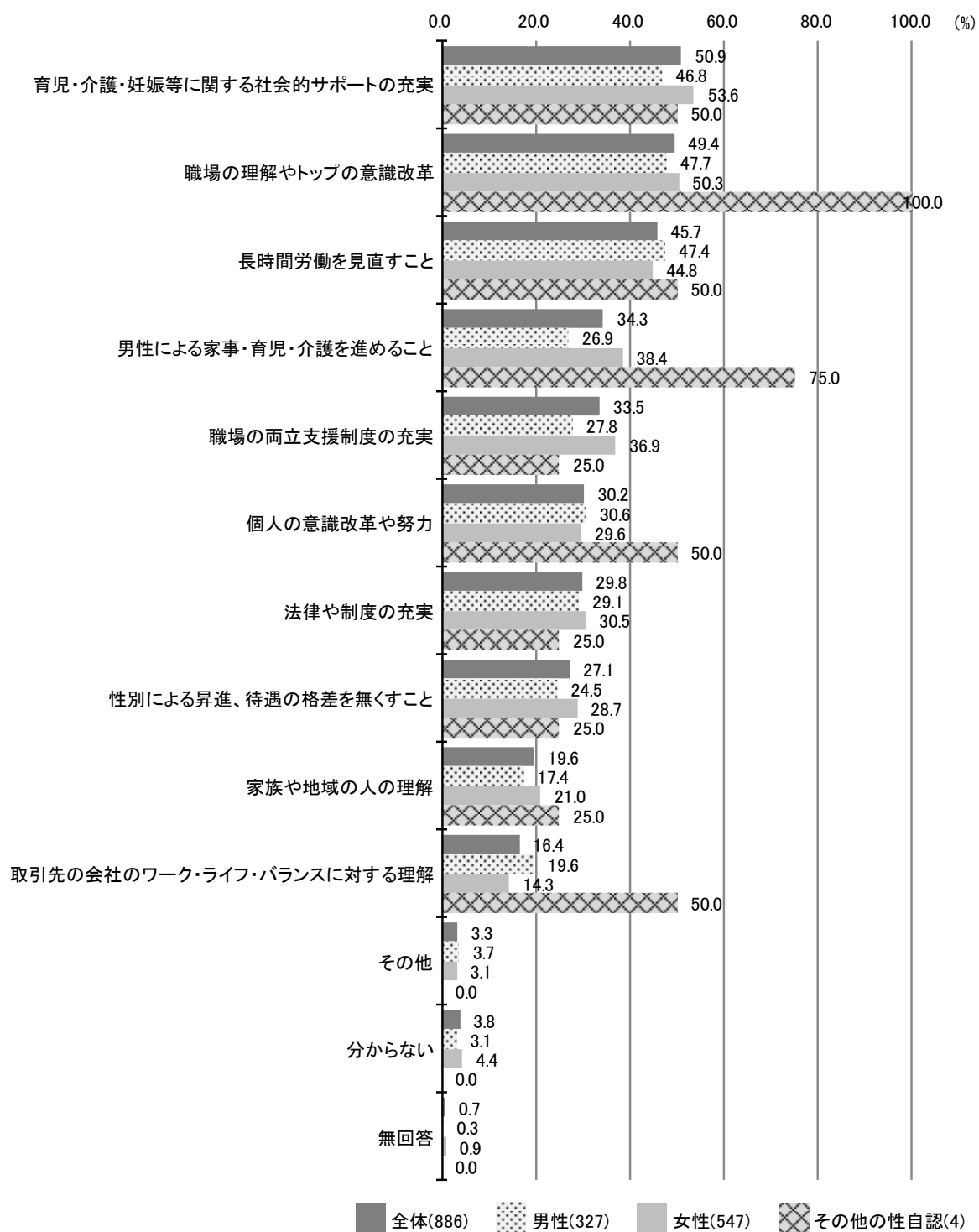
## 問 11. 「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度 &lt;&lt; 現実(現状) &gt;&gt;

	全体	仕事を充実	家庭生活を充実	個人の生活を充実	仕事と家庭生活を充実	仕事と個人の生活を充実	家庭生活と個人の生活を充実	仕事と家庭生活と個人の生活を充実	無回答
今回調査	100.0	23.9	10.6	12.1	19.0	15.3	6.4	8.2	4.4
前回調査	100.0	37.5	11.4	6.5	14.6	9.6	4.3	7.3	8.7

■ <問 12> あなたは、社会全体としてワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)を図る上で、どのようなことが重要だと思いますか。【〇はいくつでも】

「育児・介護・妊娠等に関する社会的サポートの充実」(50.9%)、「職場の理解やトップの意識改革」(49.4%)、「長時間労働を見直すこと」(45.7%)が多くなっている。

性別で見ると、「男性による家事・育児・介護を進めること」は女性では 38.4%となっており、男性(26.9%)を 11.5 ポイント上回っている。また、「職場の両立支援制度の充実」も女性では 36.9%であり、男性(27.8%)を 9.1 ポイント上回っている。



## &lt;前回調査との比較&gt;

## 問 12. 社会全体としてワーク・ライフ・バランスを推進するために必要なこと

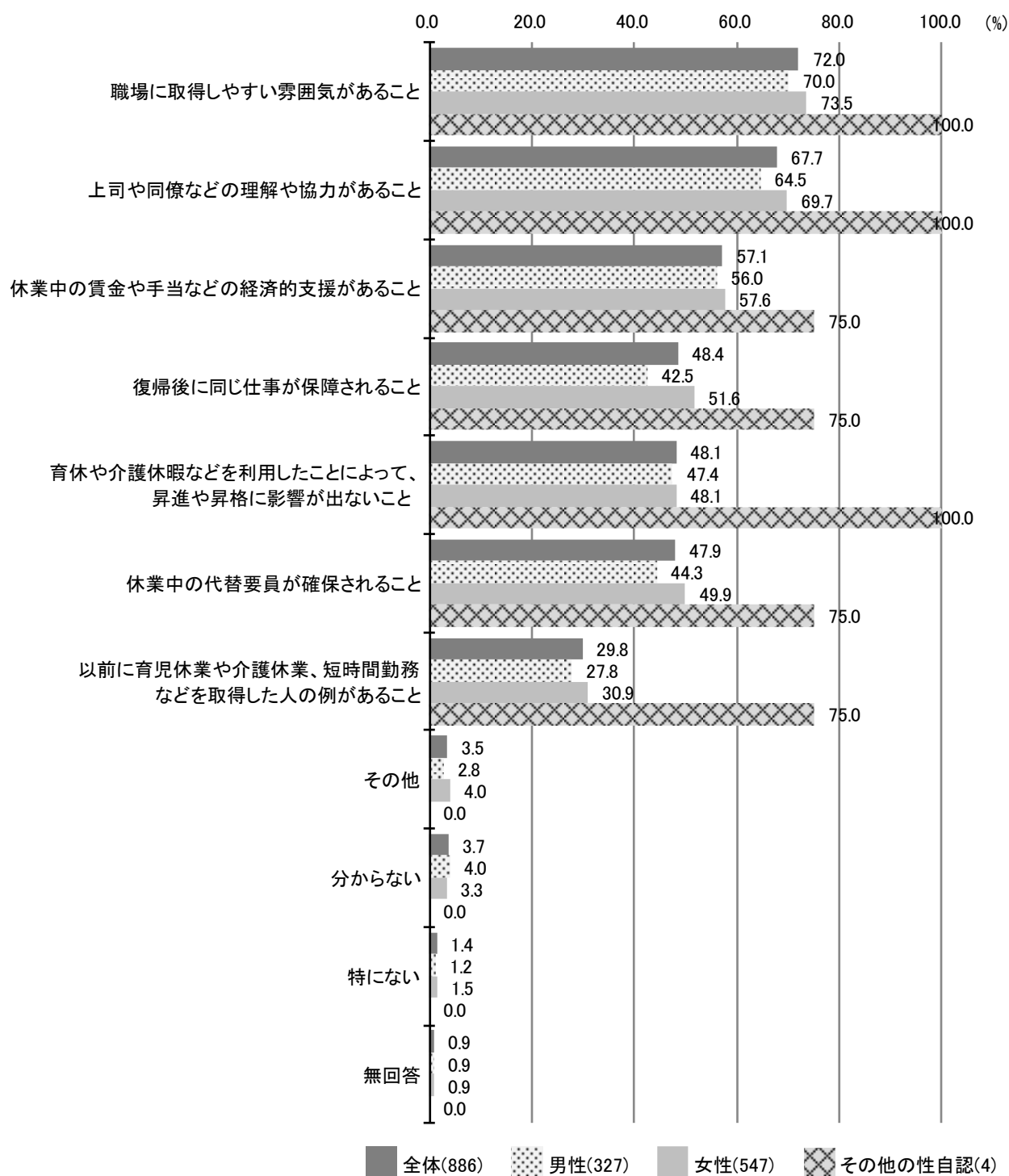
	全体	育児・介護・妊娠等に関する社会的サポートの充実	職場の両立支援制度の充実	長時間労働を見直すこと	法律や制度の充実	性別による昇進、待遇の格差を無くすこと	男性による家事・育児・介護を進めること	個人の意識改革や努力
今回調査	100.0	50.9	33.5	45.7	29.8	27.1	34.3	30.2
前回調査	100.0	54.0	33.7	45.0	32.5	26.0	29.9	28.6

職場の理解やトップの意識改革	家族や地域の人の理解	取引先の会社のワーク・ライフ・バランスに対する理解	その他	分からない	無回答
49.4	19.6	16.4	3.3	3.8	0.7
49.8	17.3	15.9	3.6	3.3	5.4

※ 前回調査時の選択肢「育児・介護に関する社会的サポートの充実」を「育児・介護・妊娠等に関する社会的サポートの充実」に変更

■ <問13> あなたは、育児や介護における休業・休暇等を取得しやすくするために、どのようなことが必要だと思いますか。【〇はいくつでも】

「職場に取得しやすい雰囲気があること」が72.0%で最も多く、次いで、「上司や同僚などの理解や協力があること」が67.7%となっている。



## &lt;前回調査との比較&gt;

## 問 13. 育児休業、介護休業等を取得しやすくするために必要なこと

	全体	職場に取得しやすい雰囲気があること	以前に育児休業や介護休業、短時間勤務などを取得した人の例があること	上司や同僚などの理解や協力があること	休業中の賃金や手当などの経済的支援があること	育児休業や介護休業などを利用したことによって、昇進や昇格に影響が出ないこと	休業中の代替要員が確保されること	復帰後に同じ仕事が保障されること
今回調査	100.0	72.0	29.8	67.7	57.1	48.1	47.9	48.4
前回調査	100.0	71.8	25.5	63.6	53.7	46.7	40.6	48.8

その他	分からない	特にない	無回答
3.5	3.7	1.4	0.9
2.5	2.8	1.3	6.3

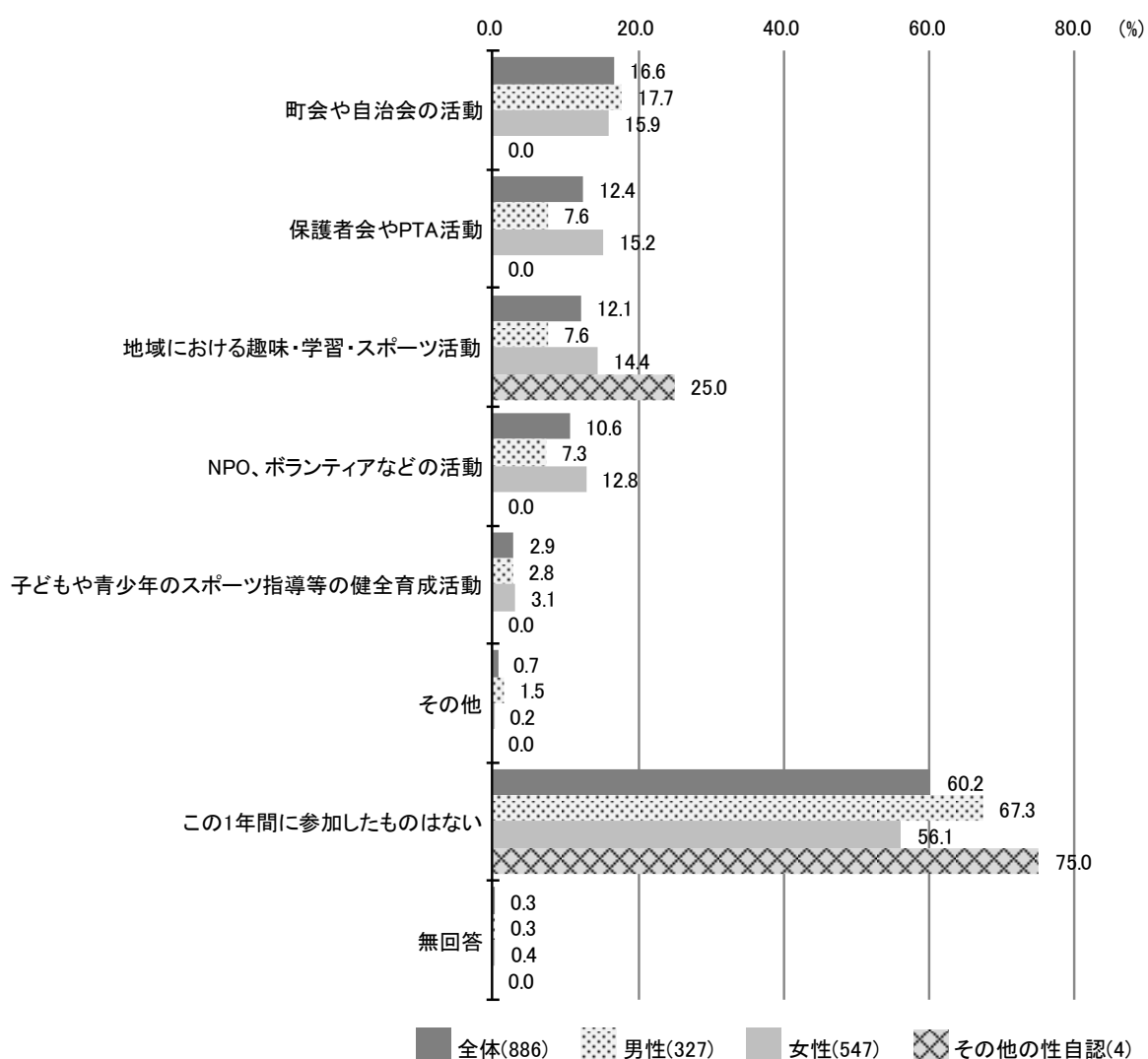
## VII. 地域活動、社会活動への参画について

■ <問 15> あなたは、この1年間にどのような地域活動や社会活動に参加しましたか。【〇はいくつでも】

「この1年間に参加したものはなし」が 6 割(60.2%)を占めている。

参加している場合は、「町会や自治会の活動」が 16.6%で最も多く、次いで、「保護者会やPTA活動」(12.4%)、「地域における趣味・学習・スポーツ活動」(12.1%)、「NPO、ボランティアなどの活動」(10.6%)となっている。

性別で見ると、「この1年間に参加したものはなし」人の割合は男性(67.3%)が女性(56.1%)を上回っており、女性の方が地域活動・社会活動への参加率が高くなっている。



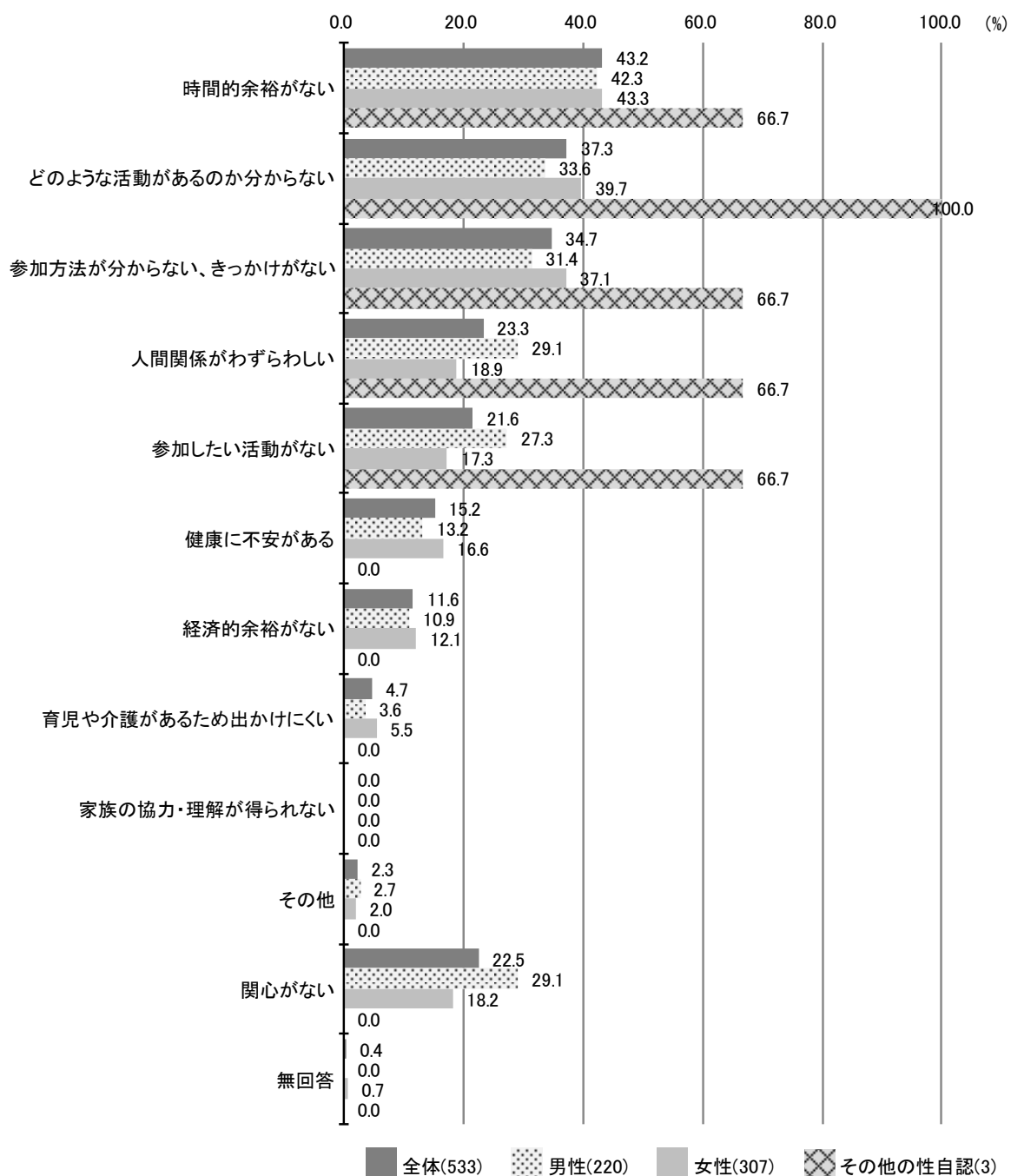
<前回調査との比較>

問 15. この1年間に参加した地域活動や社会活動

	全体	町会や自治会の活動	保護者会やPTA活動	子どもや青少年のスポーツ指導等の健全育成活動	地域における趣味・学習・スポーツ活動	NPO、ボランティアなどの活動	その他	この1年間に参加したものはなし	無回答
今回調査	100.0	16.6	12.4	2.9	12.1	10.6	0.7	60.2	0.3
前回調査	100.0	13.7	11.0	2.6	9.8	8.3	1.6	57.8	7.5

■ <問15-1>【問15で「7. この1年間に参加したものはなし」を選んだ方のみ】あなたが地域活動・社会活動に参加していないのはどうしてですか。【〇はいくつでも】

「時間的余裕がない」が43.2%で最も多く、次いで、「どのような活動があるのか分からない」(37.3%)、「参加方法が分からない、きっかけがない」(34.7%)となっている。また、「関心がない」という人は22.5%である。





## &lt;前回調査との比較&gt;

## 問 15-1. 地域活動・社会活動に参加していない理由

	全体	時間的余裕がない	参加したい活動がない	どのような活動があるのか分からない	参加方法が分からない、きっかけがない	人間関係がわずらわしい	家族の協力・理解が得られない	育児や介護があるため出かけにくい
今回調査	100.0	43.2	21.6	37.3	34.7	23.3	0.0	4.7
前回調査	100.0	42.6	15.1	36.7	27.9	18.5	0.3	2.9

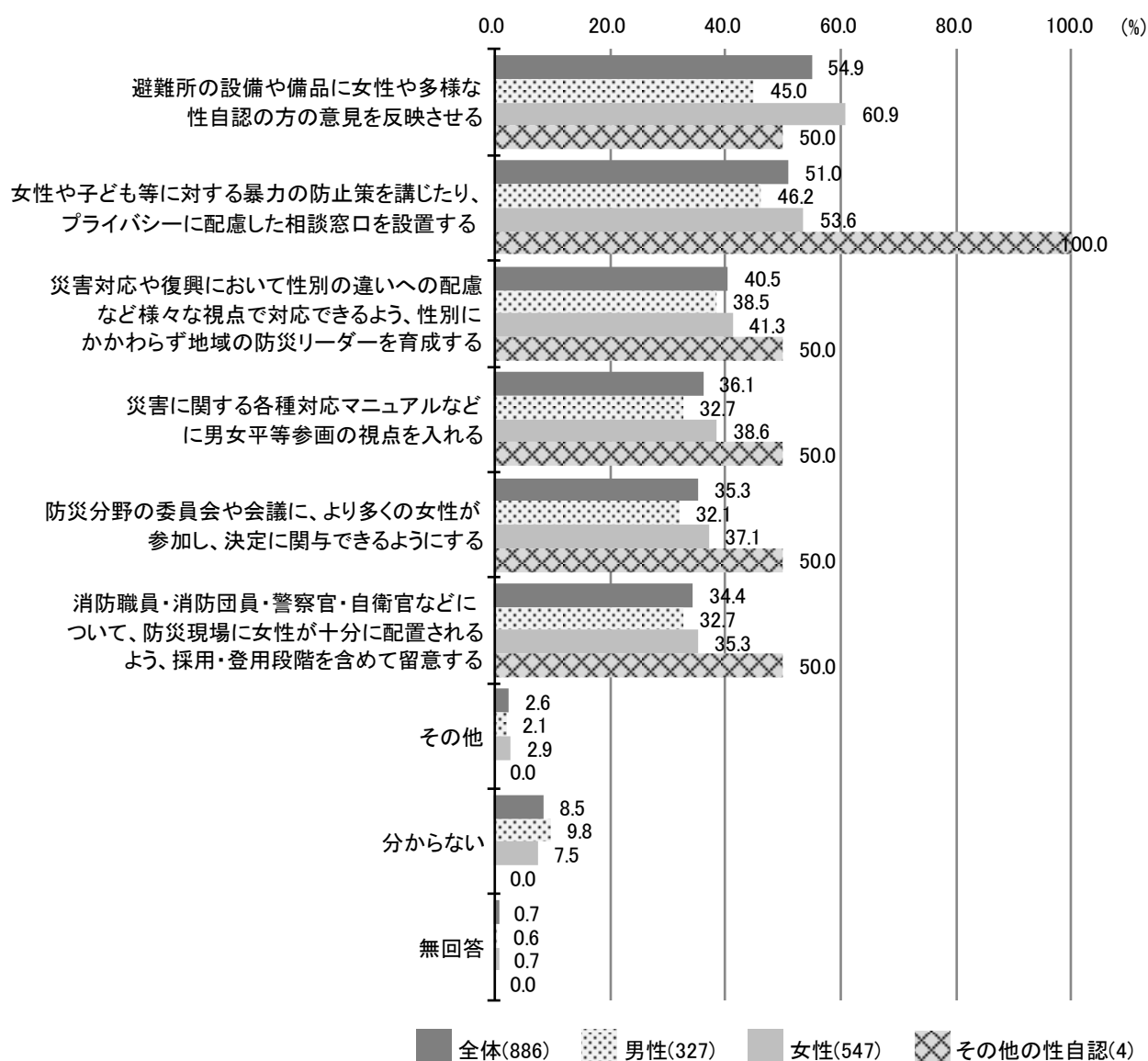
  

健康に不安がある	経済的余裕がない	関心がない	その他	無回答
15.2	11.6	22.5	2.3	0.4
11.4	8.2	21.1	6.7	0.2

■ <問 16> あなたは、災害時に備えた男女や多様な性自認の方の視点を取り入れた防災対応として、どのようなことが重要だと思いますか。【〇はいくつでも】

「避難所の設備や備品に女性や多様な性自認の方の意見を反映させる」(54.9%)、「女性や子ども等に対する暴力の防止策を講じたり、プライバシーに配慮した相談窓口を設置する」(51.0%)が半数程度と多くなっている。

性別で見ると、「避難所の設備や備品に女性や多様な性自認の方の意見を反映させる」は女性では 60.9%を占め、男性(45.0%)を大きく上回っている。



## &lt;前回調査との比較&gt;

## 問 16. 男女や多様な性自認の方の視点を取り入れた防災対応として必要なこと

	全体	女性や子ども等に対する暴力の防止策を講じたり、プライバシーに配慮した相談窓口を設置する	防災分野の委員会や会議に、より多くの女性が参加し、決定に関与できるようにする	災害対応や復興において性別の違いへの配慮など様々な視点で対応できるよう、性別にかかわらず地域の防災リーダーを育成する	災害に関する各種対応マニュアルなどに男女平等参画の視点を入れる	消防職員・消防団員・警察官・自衛官などについて、防災現場に女性が十分に配置されるよう、採用・登用段階を含めて留意する	避難所の設備や備品に女性や多様な性自認の方の意見を反映させる
今回調査	100.0	51.0	35.3	40.5	36.1	34.4	54.9
前回調査	100.0	49.0	28.1	52.1	30.8	31.9	45.9

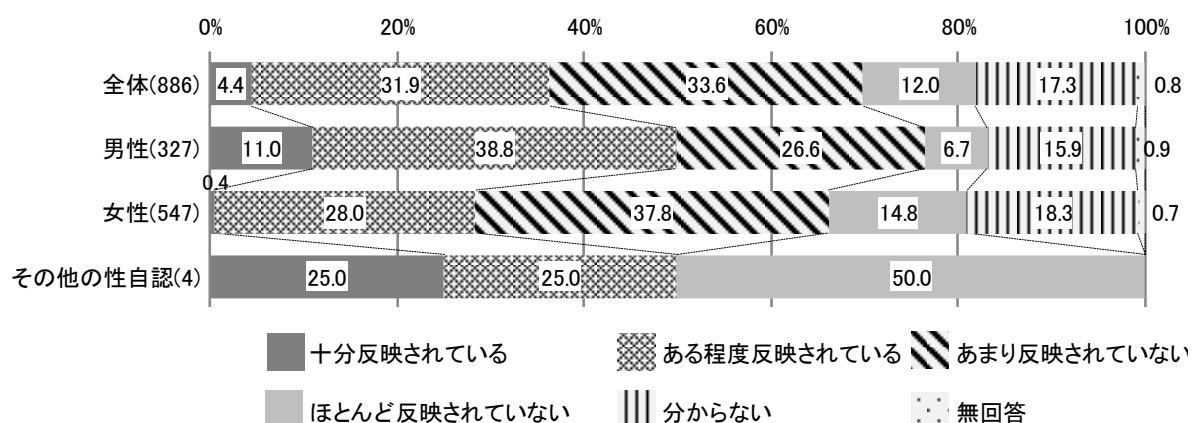
その他	分からない	無回答
2.6	8.5	0.7
1.8	7.2	5.7

※ 前回調査時の選択肢「防災分野の委員会や会議に、より多くの女性が参加できるようにする」を「防災分野の委員会や会議に、より多くの女性が参加し、決定に関与できるようにする」に、「避難所の設備や備品に女性やLGBTQ等の意見を反映させる」を「避難所の設備や備品に女性や多様な性自認の方の意見を反映させる」に変更

## Ⅷ. 政策決定過程への女性の参画について

■ <問 17> あなたは、女性の意見が国や自治体の行政にどの程度反映されていると思いますか。【1つだけ○】

男性では、「十分反映されている」と「ある程度反映されている」の合計（以下、『反映されている』）が半数（49.8％）を占め、「あまり反映されていない」と「ほとんど反映されていない」の合計（以下、『反映されていない』）は 33.3％であるが、一方、女性では『反映されている』は 28.4％であり、『反映されていない』が半数（52.6％）となっている。



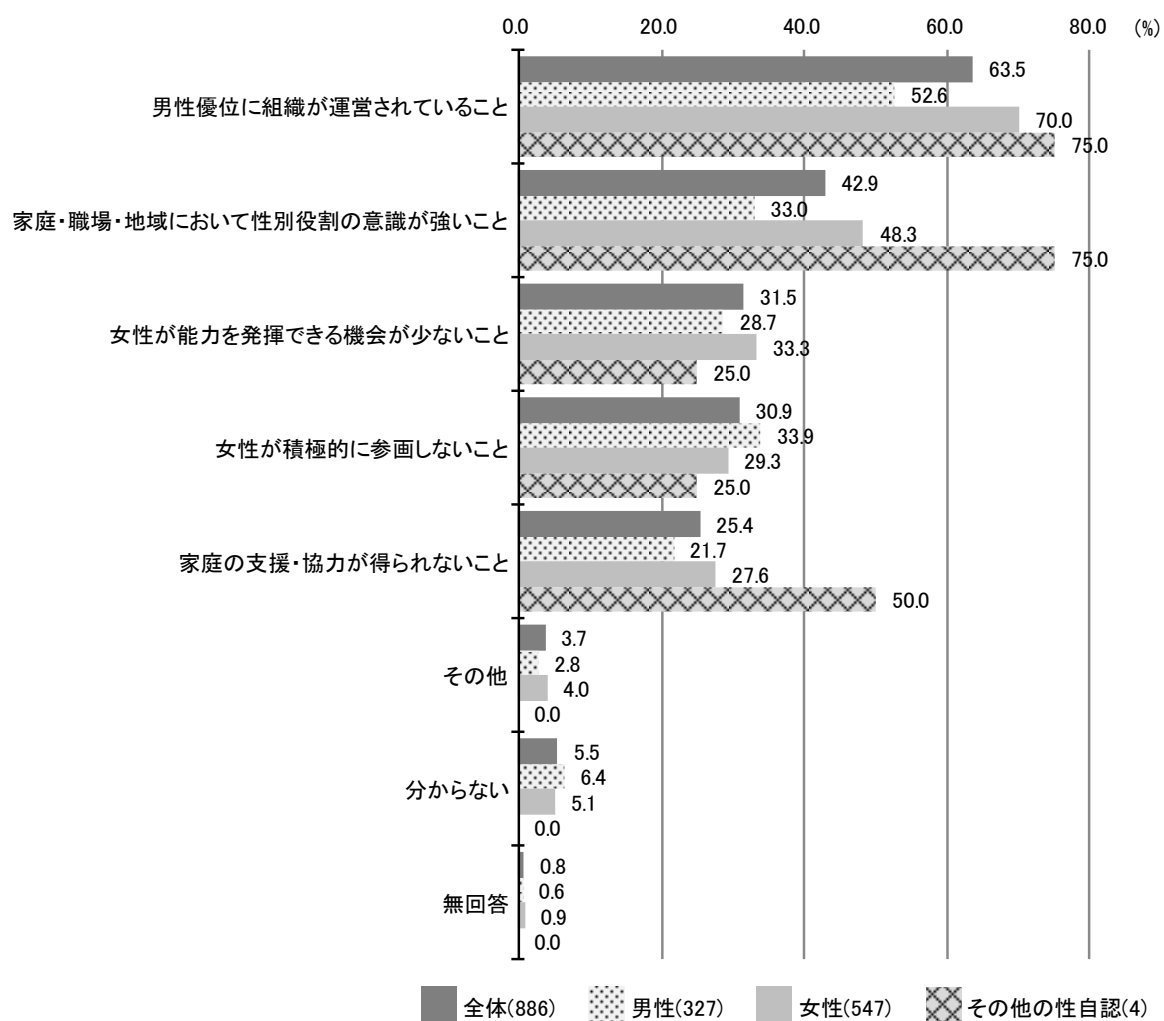
## &lt;前回調査との比較&gt;

## 問 17. 女性の意見が行政にどの程度反映されているか

	全体	十分反映されている	ある程度反映されている	あまり反映されていない	ほとんど反映されていない	分からない	無回答
今回調査	100.0	4.4	31.9	33.6	12.0	17.3	0.8
前回調査	100.0	2.1	27.3	32.7	11.1	21.2	5.6

■ <問 18> あなたは、政治の場や仕事の場において、政策や方針決定の過程に女性があまり進出していない原因は、どのようなことだと思いますか。【〇はいくつでも】

「男性優位に組織が運営されていること」が 63.5%で最も多く、次いで、「家庭・職場・地域において性別役割の意識が強いこと」が 42.9%となっている。いずれも女性の割合が高くなっており、男性を 15 ポイント以上上回っている。



#### <前回調査との比較>

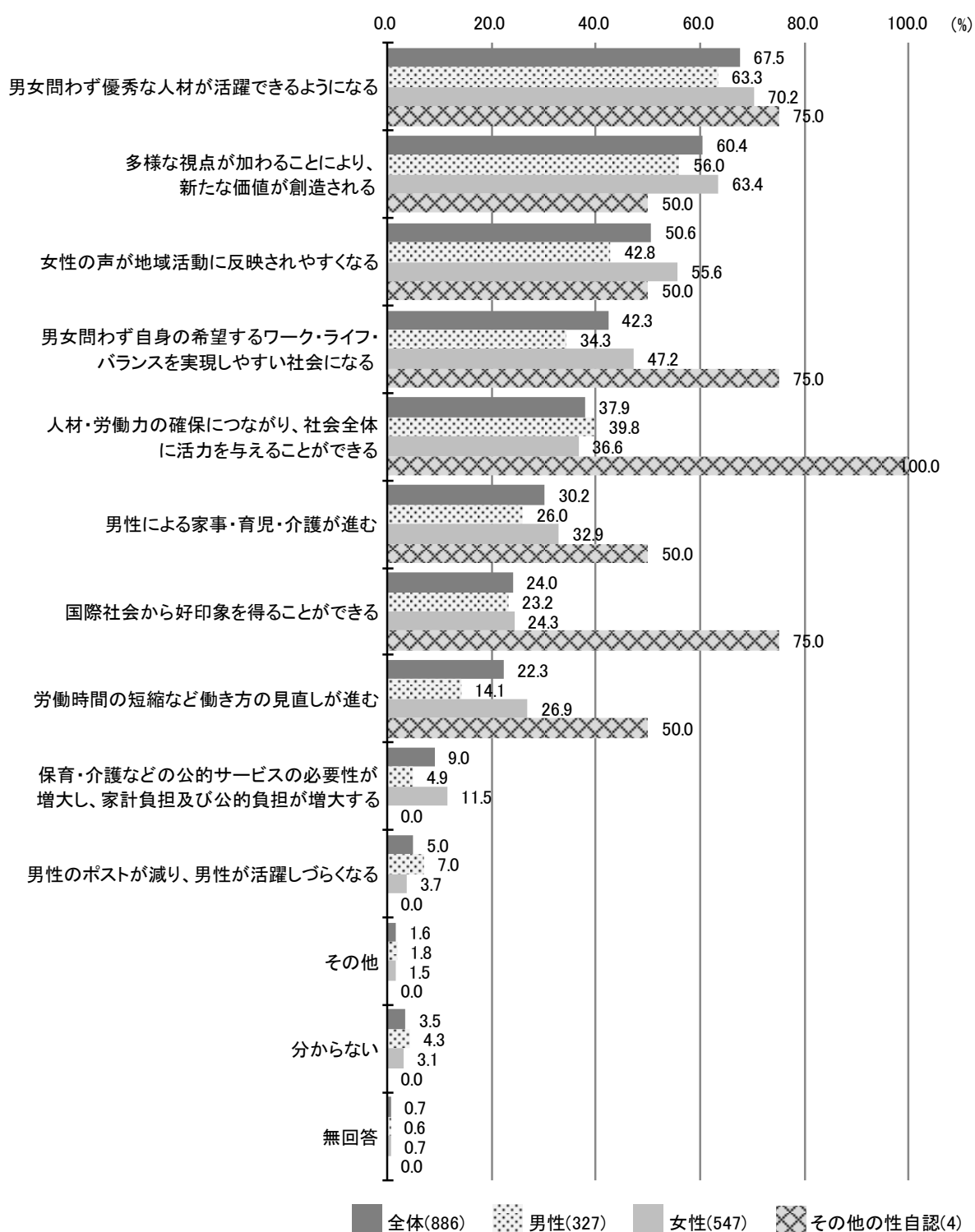
#### 問 18. 政策や方針決定の過程に女性があまり進出していない原因

	全体	家庭・職場・地域において性別役割の意識が強いこと	男性優位に組織が運営されていること	家庭の支援・協力が得られないこと	女性が能力を発揮できる機会が少ないこと	女性が積極的に参画しないこと	その他	分からない	無回答
今回調査	100.0	42.9	63.5	25.4	31.5	30.9	3.7	5.5	0.8
前回調査	100.0	39.7	59.0	26.0	30.8	28.7	5.0	6.5	6.5

■ <問 20> 政治・経済・地域などの各分野で女性参加が進み、女性のリーダーが増えるなどのような影響があると思いますか。【〇はいくつでも】

「男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる」が 67.5%で最も多く、次いで、「多様な視点が加わることにより、新たな価値が創造される」(60.4%)、「女性の声が地域活動に反映されやすくなる」(50.6%)となっている。

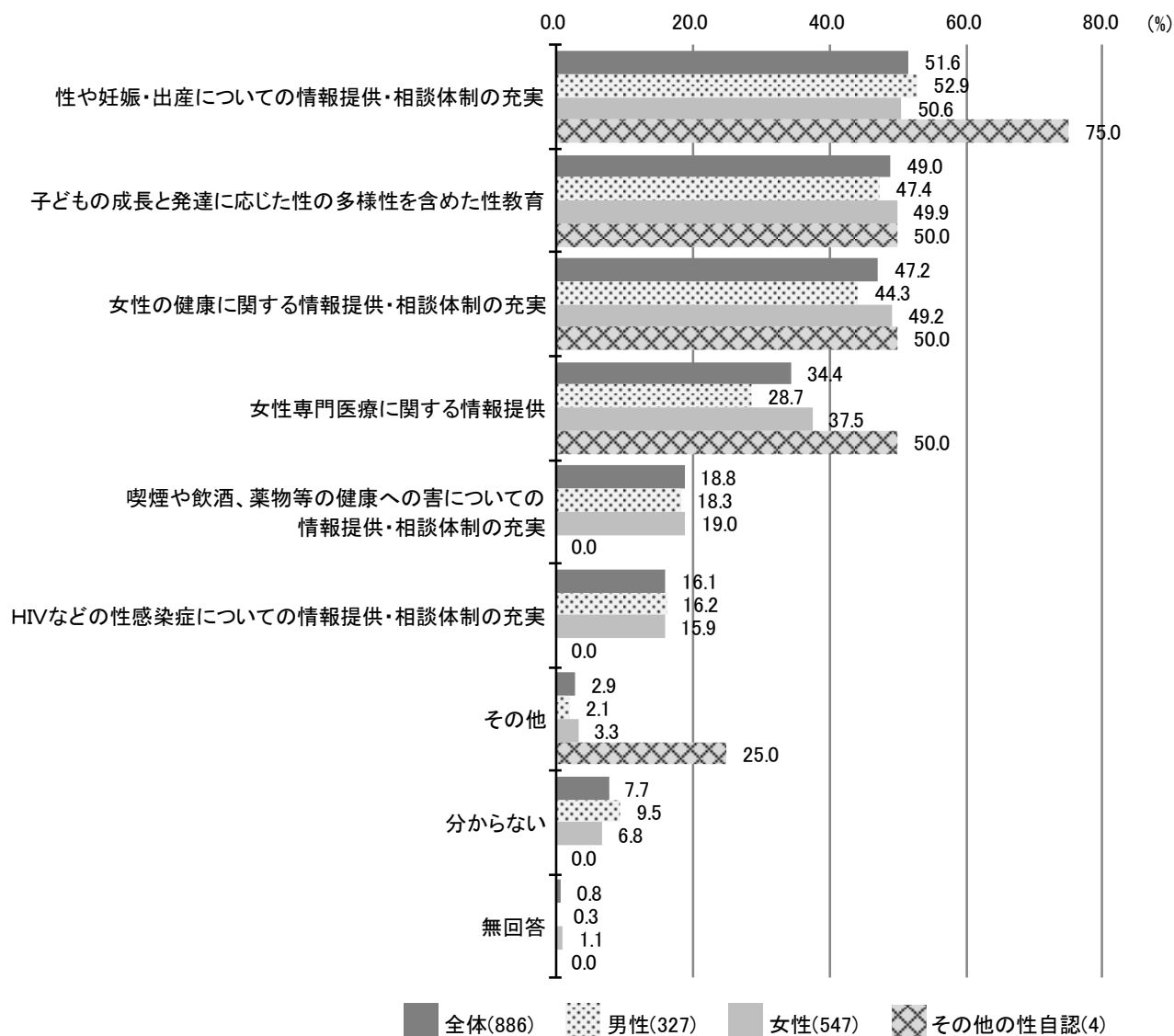
性別で見ると、「女性の声が地域活動に反映されやすくなる」、「男女問わず自身の希望するワーク・ライフ・バランスを実現しやすい社会になる」、「労働時間の短縮など働き方の見直しが進む」は女性の方が男性よりも 10 ポイント以上高くなっている。



## IX. 健康について

■ <問 21> 女性が自分の健康を守り、性や妊娠・出産に関することを自分の意志で決める上で、あなたはどのようなことが必要だと思いますか。【3つまで○】

「性や妊娠・出産についての情報提供・相談体制の充実」(51.6%)、「子どもの成長と発達に応じた性の多様性を含めた性教育」(49.0%)、「女性の健康に関する情報提供・相談体制の充実」(47.2%)が多くなっている。



## &lt;前回調査との比較&gt;

問 21. 女性が性や妊娠・出産に関して決める上で必要なこと

	全体	子どもの成長と発達に応じた性の多様性を含めた性教育	性や妊娠・出産についての情報提供・相談体制の充実	喫煙や飲酒、薬物等の健康への害についての情報提供・相談体制の充実	HIVなどの性感染症についての情報提供・相談体制の充実	女性の健康に関する情報提供・相談体制の充実	女性専門医療に関する情報提供	その他	分からない	無回答
今回調査	100.0	49.0	51.6	18.8	16.1	47.2	34.4	2.9	7.7	0.8
前回調査	100.0	45.1	47.0	19.5	13.1	41.3	31.3	3.2	8.1	6.5

## X. 人権問題について

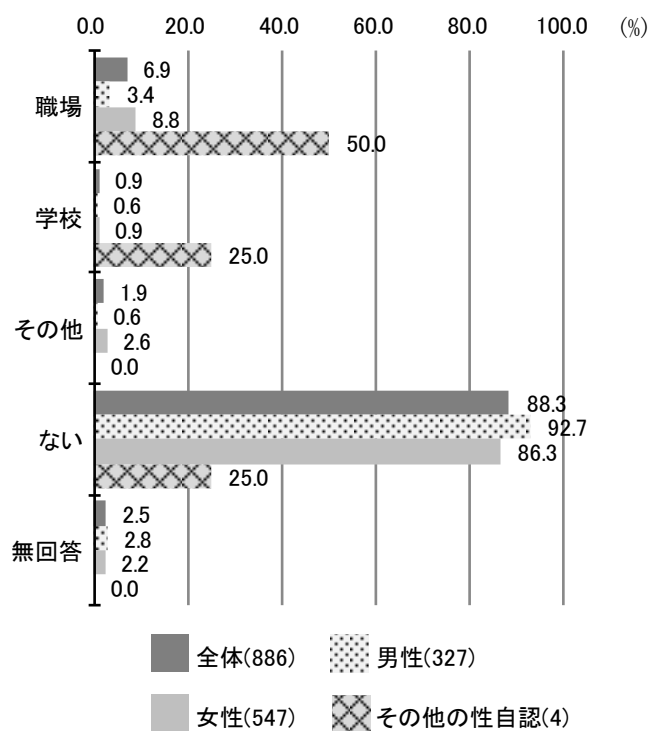
## まとめ

パワー・ハラスメントやセクシュアル・ハラスメント等は職場で多く発生しており、特にパワー・ハラスメントを受けたことがあるという人は2割となっている。ただし、それらのハラスメントを受けた人のうち、6割の人が相談につなげておらず、その理由を「相談しても無駄だと思った」、「相談することで不利益な扱いをされると思った」等と回答している。各種の相談窓口について周知をし、気軽に相談につなげられるようにしていくと共に、職場におけるハラスメント防止策を充実していくことが重要である。

■ <問22> あなたは、ここ3年以内に次の①～⑦のハラスメントを受けたことがありますか。

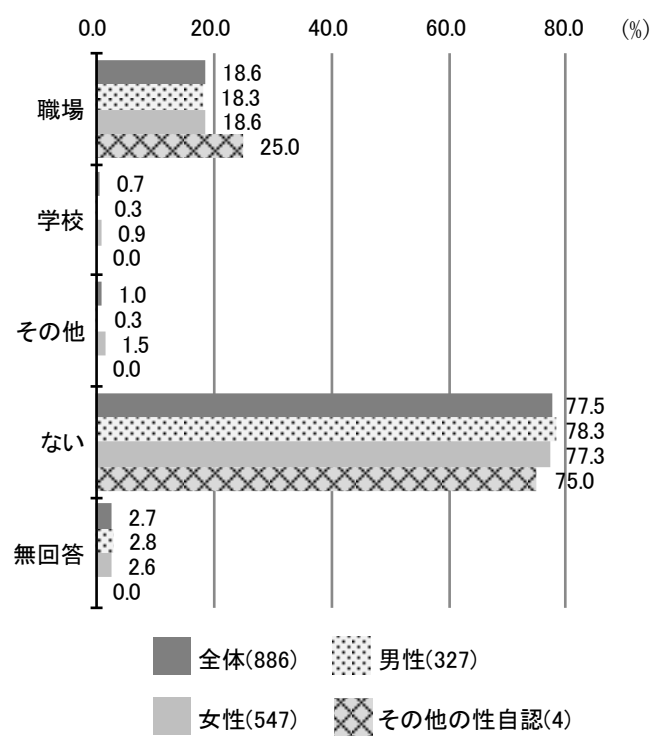
職場でハラスメントを受けたという人が比較的多く、「パワー・ハラスメント」が 18.6%、「モラル・ハラスメント」が 10.0%、「セクシュアル・ハラスメント」が 6.9%となっている。性別で見ると「セクシュアル・ハラスメント」を受けたという人は女性で 8.8%であり、男性(3.4%)を 5.4 ポイント上回る。

## ①セクシュアル・ハラスメント

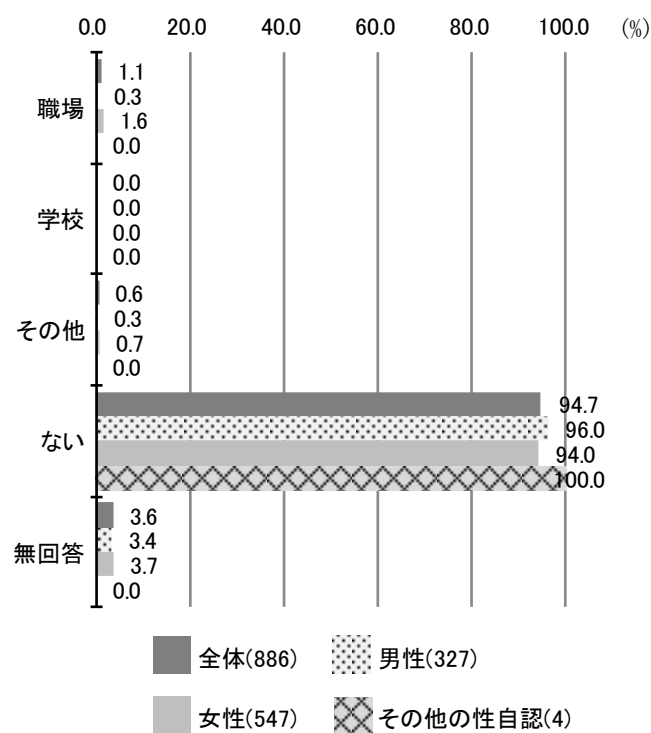




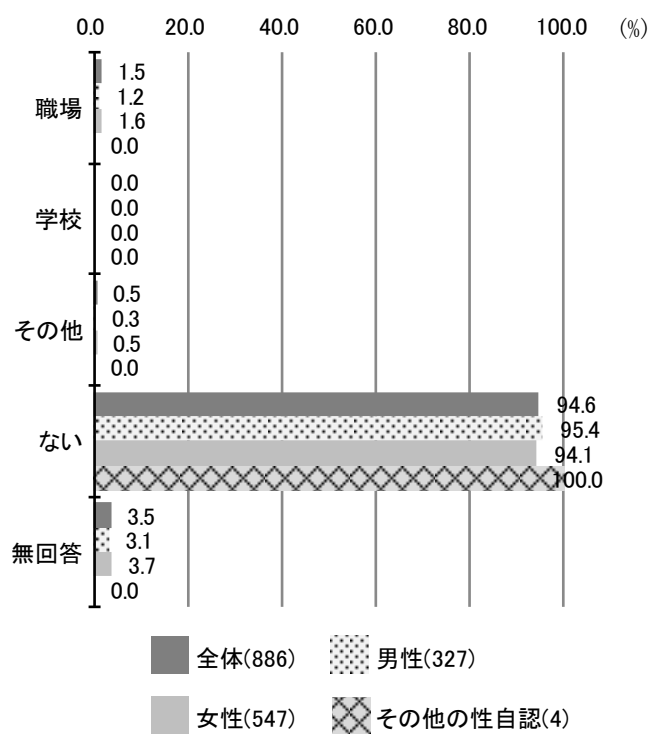
## ②パワー・ハラスメント



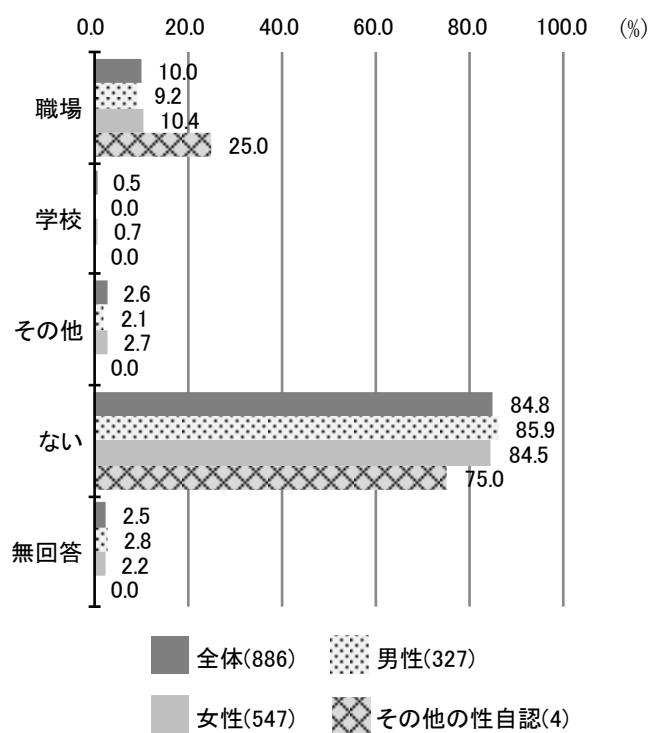
## ③マタニティ・ハラスメント、パタニティ・ハラスメント



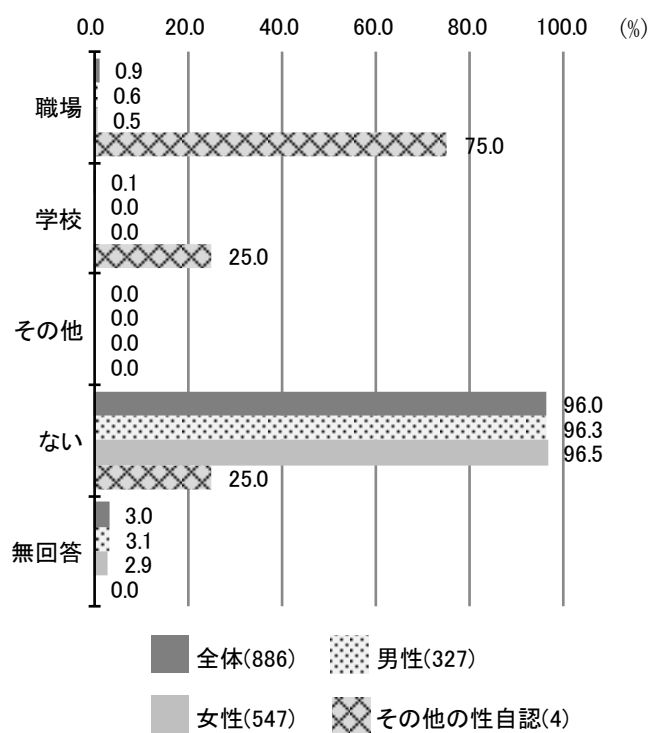
## ④育児休業、介護休暇に係るハラスメント



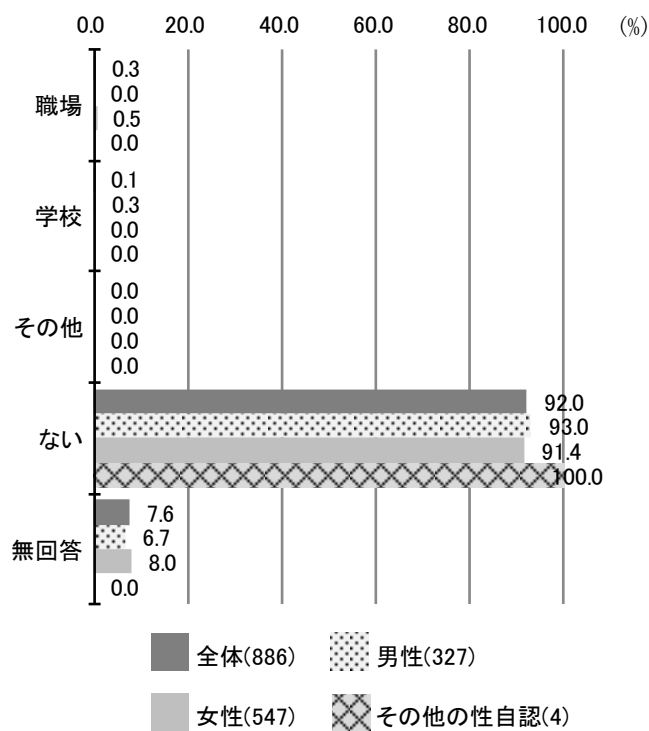
## ⑤モラル・ハラスメント



## ⑥SOGI(性的指向・性自認)ハラスメント



## ⑦その他



## &lt;前回調査との比較&gt;

問 22. ここ3年以内に受けたことがあるハラスメント「①セクシャル・ハラスメント」

	全体	ある			ない	無回答
		学校	職場	その他		
今回調査	100.0	0.9	6.9	1.9	88.3	2.5
前回調査	100.0	0.5	4.8	1.9	77.7	15.5

問 22. ここ3年以内に受けたことがあるハラスメント「②パワー・ハラスメント」

	全体	ある			ない	無回答
		学校	職場	その他		
今回調査	100.0	0.7	18.6	1.0	77.5	2.7
前回調査	100.0	0.9	15.2	1.6	68.6	14.4

問 22. ここ3年以内に受けたことがあるハラスメント「③マタニティ・ハラスメント、パタニティ・ハラスメント」

	全体	ある			ない	無回答
		学校	職場	その他		
今回調査	100.0	0.0	1.1	0.6	94.7	3.6
前回調査	100.0	0.2	0.9	0.8	81.7	16.7

問 22. ここ3年以内に受けたことがあるハラスメント「④育児休業、介護休暇に係るハラスメント」

	全体	ある			ない	無回答
		学校	職場	その他		
今回調査	100.0	0.0	1.5	0.5	94.6	3.5
前回調査	100.0	0.3	1.0	0.3	81.8	16.7

問 22. ここ3年以内に受けたことがあるハラスメント「⑤モラル・ハラスメント」

	全体	ある			ない	無回答
		学校	職場	その他		
今回調査	100.0	0.5	10.0	2.6	84.8	2.5
前回調査	100.0	0.8	8.1	2.4	73.7	15.5

問 22. ここ3年以内に受けたことがあるハラスメント「⑥SOGI(性的指向・性自認)ハラスメント」

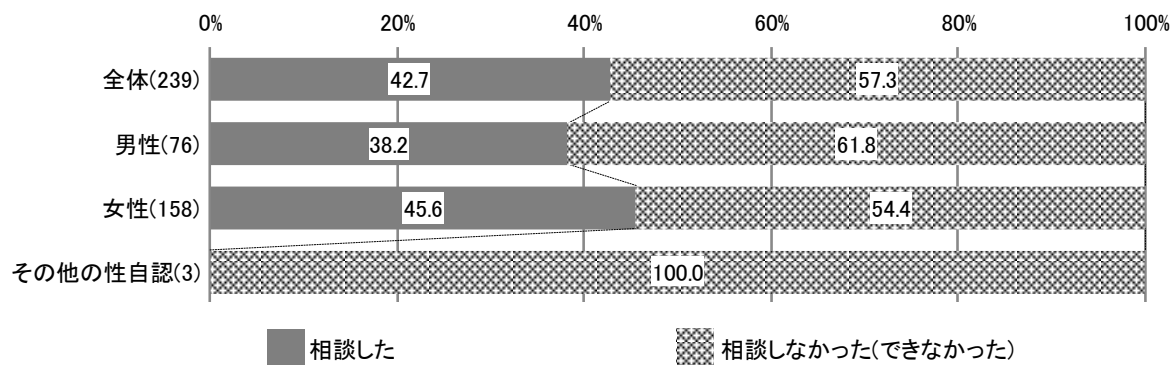
	全体	ある			ない	無回答
		学校	職場	その他		
今回調査	100.0	0.1	0.9	0.0	96.0	3.0
前回調査	100.0	0.4	0.5	0.2	82.4	16.5

問 22. ここ3年以内に受けたことがあるハラスメント「⑦その他」

	全体	ある			ない	無回答
		学校	職場	その他		
今回調査	100.0	0.1	0.3	0.0	92.0	7.6
前回調査	100.0	0.3	0.6	0.8	70.0	28.4

■ <問 22-1>【問 22 のいずれかのハラスメントを受けたことがある方のみ】あなたが受けたハラスメントについて、どなたかに相談しましたか。【1つだけ○】

「相談した」人が 42.7%、「相談しなかった(できなかった)」人が 57.3%である。



#### <前回調査との比較>

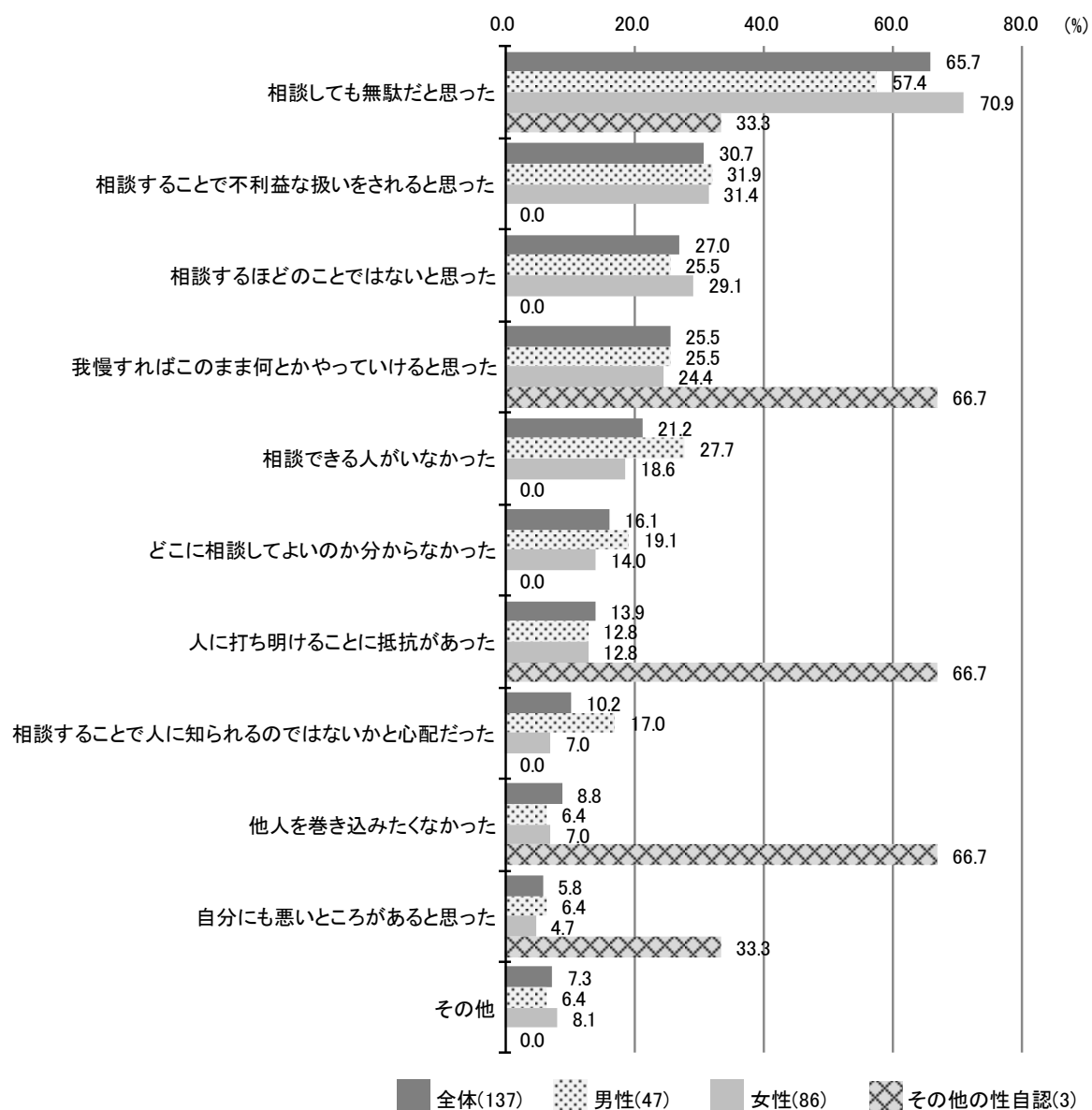
##### 問 22-1. ハラスメントを受けた際に誰かに相談したか

	全体	相談した	相談しなかった(できなかった)	無回答
今回調査	100.0	42.7	57.3	0.0
前回調査	100.0	43.0	53.3	3.7

■ <問 22-1-2>【問 22-1 で「2. 相談しなかった(できなかった)」と答えた方のみ】相談しなかった(できなかった)のはなぜですか。【〇はいくつでも】

「相談しても無駄だと思った」が 65.7%で最も多く、次いで、「相談することで不利益な扱いをされると思った」が 30.7%となっている。

性別で見ると、「相談しても無駄だと思った」は、女性の方が男性よりも 13.5 ポイント高くなっている。



## &lt;前回調査との比較&gt;

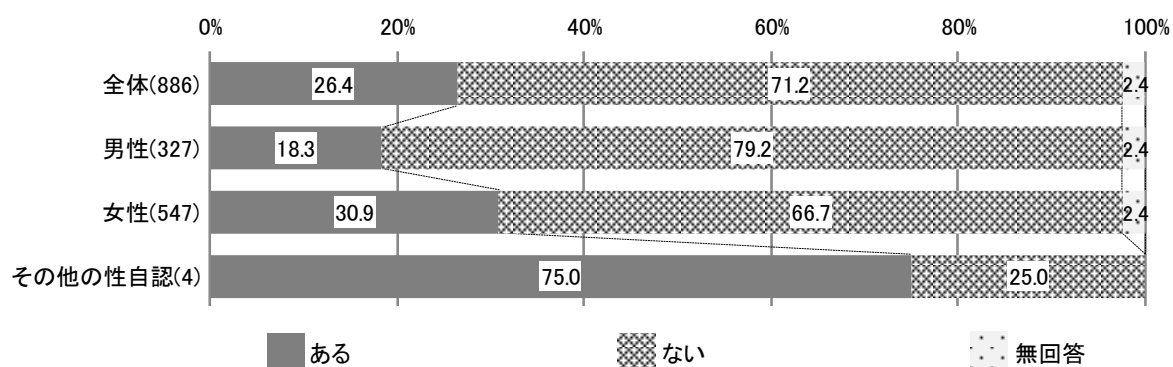
## 問 22-1-2. ハラスメントを相談しなかった(できなかった)理由

	全体	相談できる人がいなかった	どこに相談してよいのかわからなかった	相談することで人に知られるのではないかと心配だった	相談することで不利益な扱いをされると思った	人に打ち明けることに抵抗があった	相談しても無駄だと思った
今回調査	100.0	21.2	16.1	10.2	30.7	13.9	65.7
前回調査	100.0	28.7	15.5	10.9	32.6	10.9	59.7

我慢すればこのまま何とかやっていけると思った	自分にも悪いところがあると思った	他人を巻き込みたくなかった	相談するほどのことではないと思った	その他
25.5	5.8	8.8	27.0	7.3
38.0	9.3	6.2	27.1	7.0

■ <問23> あなたは、これまでの生活の中で、「女らしくしなさい」、「男はこうすべきだ」等といった性別役割(ジェンダー含む)について悩んだり、疑問を感じたり、嫌な思いをしたことや身近な人が悩んでいる場面にあったことがありますか。【1つだけ○】

「ある」という人は女性では3割(30.9%)となっており、男性(18.3%)を12.6ポイント上回っている。



#### <前回調査との比較>

##### 問 23. 性別による役割分担に悩んだ経験の有無

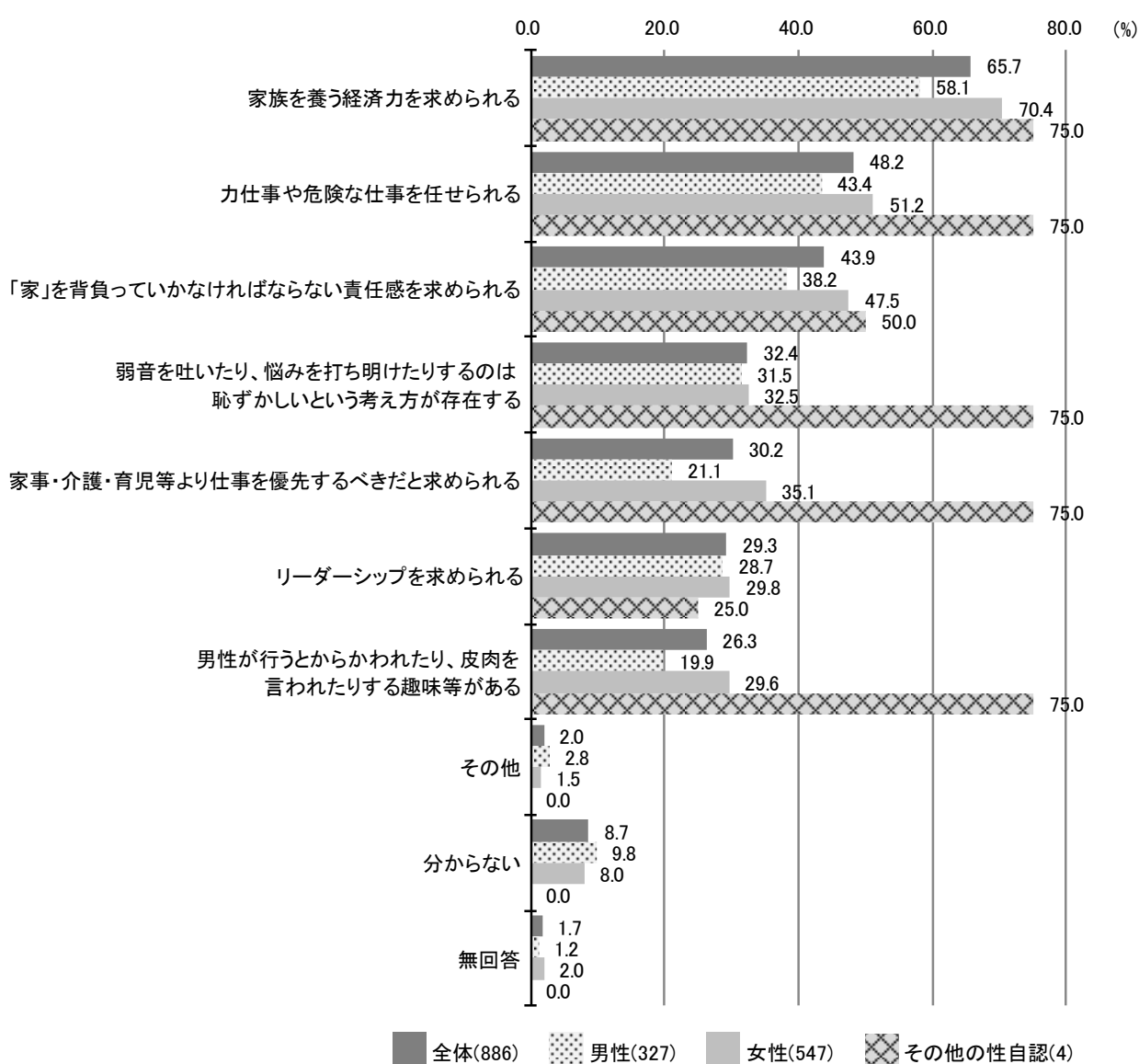
	全体	ある	ない	無回答
今回調査	100.0	26.4	71.2	2.4
前回調査	100.0	25.9	64.8	9.3



■ <問 24> 日本社会において「男性である」がゆえに生じる男性特有の負担感や生きづらさとしては、どのようなものがあると思いますか。(どの性別の方もお答えください。)(【〇はいくつでも】)

「家族を養う経済力を求められる」が 65.7%で最も多く、次いで、「力仕事や危険な仕事を任せられる」(48.2%)、「家」を背負っていかなければならない責任感を求められる」(43.9%)となっている。

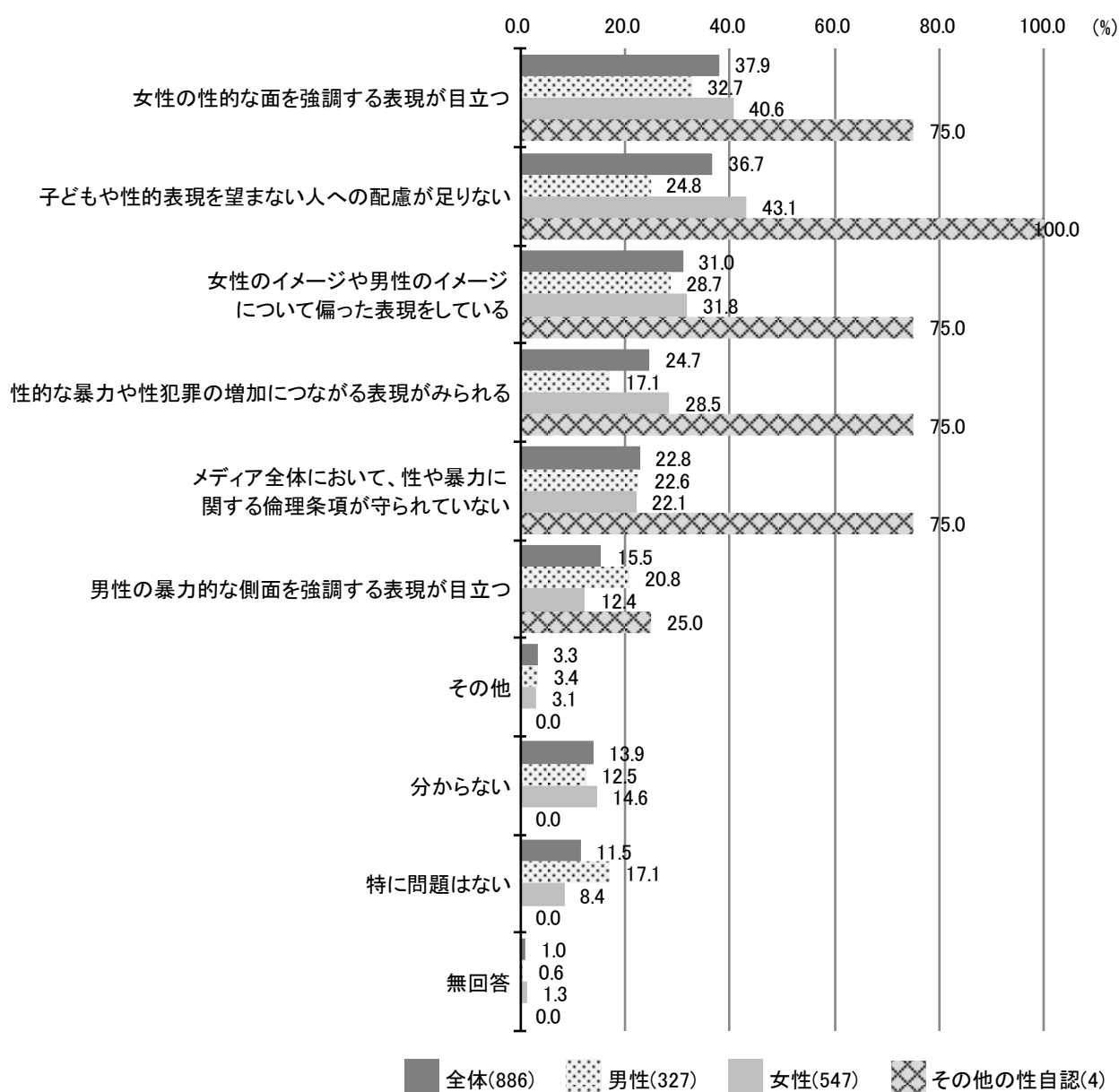
性別で見ると、「家事・介護・育児等より仕事を優先するべきだと求められる」は女性の方が男性よりも 14.0 ポイント高くなっている。そのほか、女性の方が「家族を養う経済力を求められる」で 12.3 ポイント、「男性が行うとからかわれたり、皮肉を言われたりする趣味等がある」で 9.7 ポイント、「家」を背負っていかなければならない責任感を求められる」で 9.3 ポイント男性より高くなっている。



■ <問 25> テレビ、ラジオ、インターネット、雑誌、広告などのメディアにおける性や暴力表現について、あなたはどのように感じていますか。【〇はいくつでも】

「女性の性的な面を強調する表現が目立つ」が 37.9%、「子どもや性的表現を望まない人への配慮が足りない」が 36.7%で多くなっている。そのほか、「女性のイメージや男性のイメージについて偏った表現をしている」が 31.0%となっている。

性別で見ると、女性では「子どもや性的表現を望まない人への配慮が足りない」が 43.1%で最も多く、男性(24.8%)を 18.3 ポイント上回る。また、「性的な暴力や性犯罪の増加につながる表現がみられる」も女性は 28.5%で、男性(17.1%)を 11.4 ポイント上回っている。



## &lt;前回調査との比較&gt;

## 問 25. メディアにおける性や暴力表現についての考え方

	全体	女性のイメージや男性のイメージについて偏った表現をしている	女性の性的な面を強調する表現が目立つ	男性の暴力的な側面を強調する表現が目立つ	性的な暴力や性犯罪の増加につながる表現がみられる	子どもや性的表現を望まない人への配慮が足りない	メディア全体において、性や暴力に関する倫理条項が守られていない
今回調査	100.0	31.0	37.9	15.5	24.7	36.7	22.8
前回調査	100.0	33.3	33.3	13.9	20.8	35.8	20.2

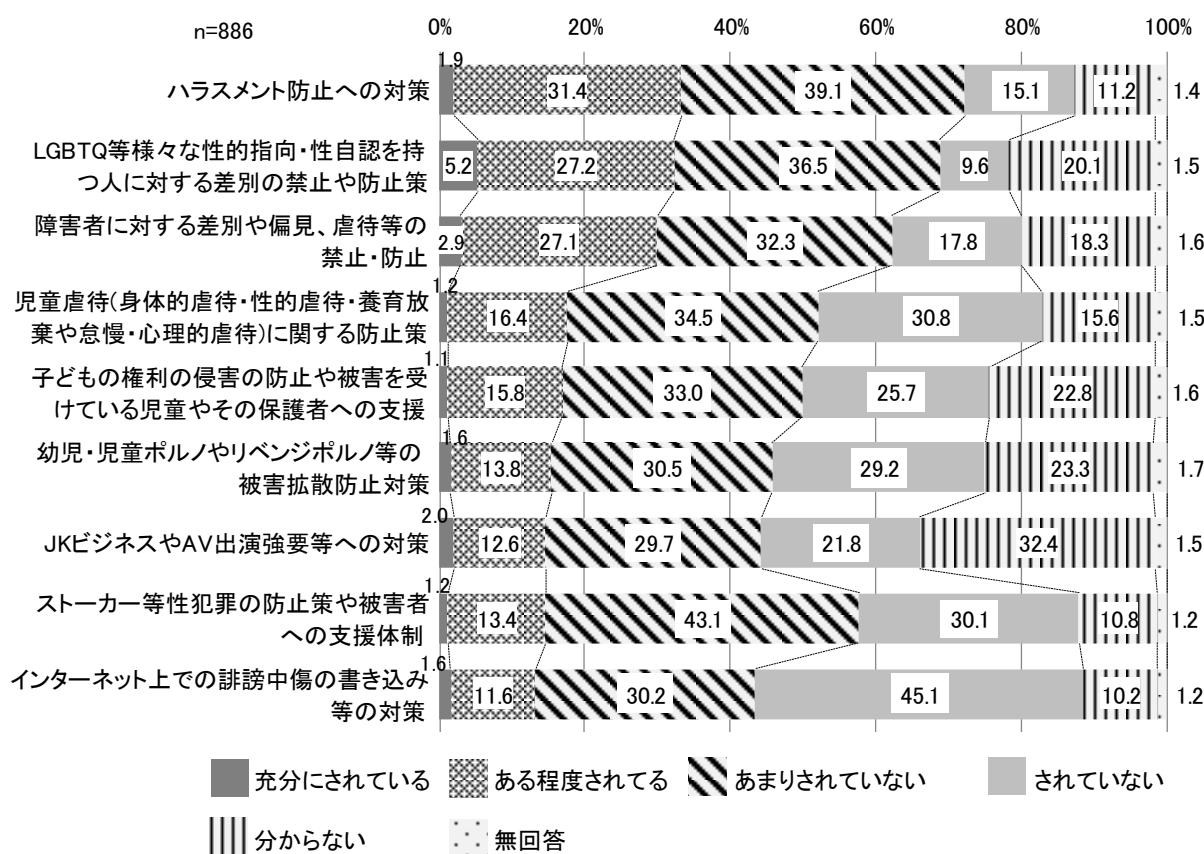
その他	分からない	特に問題はない	無回答
3.3	13.9	11.5	1.0
3.9	14.3	10.8	8.1

■ <問 26> あなたは、日本の社会における人権及び人権に関わる問題について、どの程度人権が尊重され、支援や防止対策がされていると思いますか。ア～ケのそれぞれにつき一つずつ「○」をしてください。

「ハラスメント防止への対策」(33.3%)、「LGBTQ 等様々な性的指向・性自認を持つ人に対する差別の禁止や防止策」(32.4%)、「障害者に対する差別や偏見、虐待等の禁止・防止」(30.0%)については「十分にされている」と「ある程度されてる」の合計(以下、『されている』)が3割以上となっているが、それ以外については『されている』は2割未満となっている。

特に、「インターネット上での誹謗中傷の書き込み等の対策」(75.3%)、「ストーカー等性犯罪の防止策や被害者への支援体制」(73.2%)は「あまりされていない」と「されていない」の合計が7割以上を占めている。

前回調査と比較すると、「ハラスメント防止への対策」は『されている』が 10.8 ポイントの増加となっている。



## &lt; 前回調査との比較 &gt;

「LGBTQ 等様々な性的指向・性自認を持つ人に対する差別の禁止や防止策」、「障害者に対する差別や偏見、虐待等の禁止・防止」、「子どもの権利の侵害の防止や被害を受けている児童やその保護者への支援」、「ストーカー等性犯罪の防止策や被害者への支援体制」は、今回からの新規項目のため掲載なし。

## 問 26. 社会における人権問題の対応状況についての考え方「ハラスメント防止への対策」

	全体	十分にされている	ある程度されている	あまりされていない	されていない	分からない	無回答
今回調査	100.0	1.9	31.4	39.1	15.1	11.2	1.4
前回調査	100.0	1.2	21.3	34.3	18.8	15.3	9.0

## 問 26. 社会における人権問題の対応状況についての考え方「児童虐待(身体的虐待・性的虐待・養育放棄や怠慢・心理的虐待)に関する防止策」

	全体	十分にされている	ある程度されている	あまりされていない	されていない	分からない	無回答
今回調査	100.0	1.2	16.4	34.5	30.8	15.6	1.5
前回調査	100.0	1.4	10.5	31.1	33.5	15.0	8.5

## 問 26. 社会における人権問題の対応状況についての考え方「幼児・児童ポルノやリベンジポルノ等の被害拡散防止対策」

	全体	十分にされている	ある程度されている	あまりされていない	されていない	分からない	無回答
今回調査	100.0	1.6	13.8	30.5	29.2	23.3	1.7
前回調査	100.0	1.6	10.0	28.2	26.7	24.6	8.9

## 問 26. 社会における人権問題の対応状況についての考え方「JK ビジネスや AV 出演強要等への対策」

	全体	十分にされている	ある程度されている	あまりされていない	されていない	分からない	無回答
今回調査	100.0	2.0	12.6	29.7	21.8	32.4	1.5
前回調査	100.0	1.1	9.6	27.3	22.5	30.5	9.1

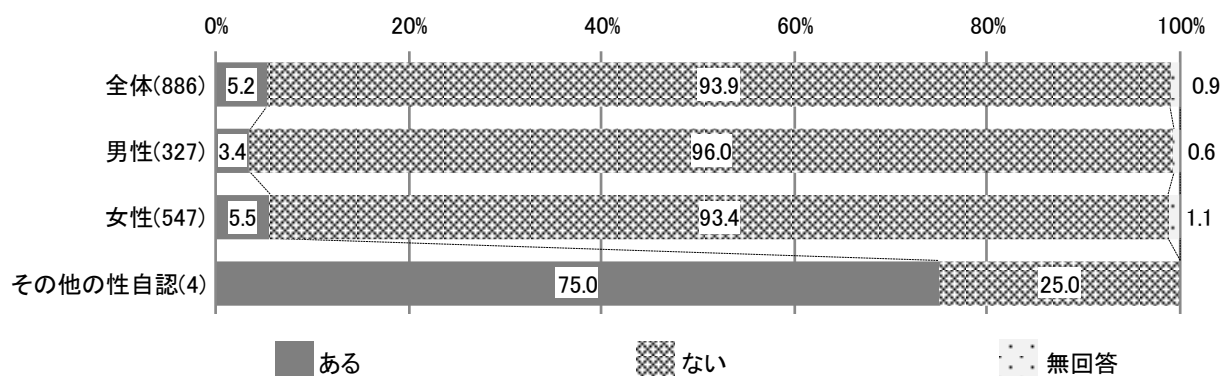
## 問 26. 社会における人権問題の対応状況についての考え方「インターネット上での誹謗中傷の書き込み等の対策」

	全体	十分にされている	ある程度されている	あまりされていない	されていない	分からない	無回答
今回調査	100.0	1.6	11.6	30.2	45.1	10.2	1.2
前回調査	100.0	1.2	5.9	27.5	45.6	11.3	8.5

## XI. 性の多様性について

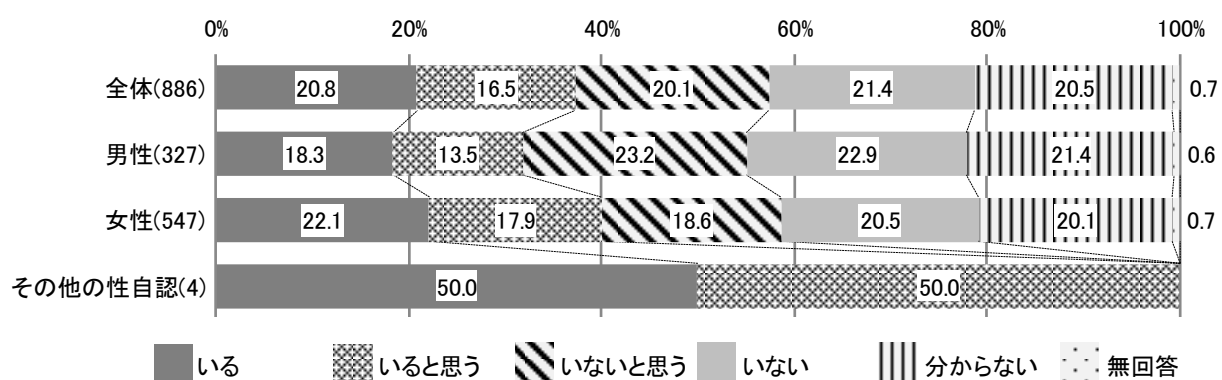
■ <問 27> あなたは、今までに自分の性別(性自認)や恋愛対象の性(性的指向)について悩んだことはありますか。【1つだけ○】

「ある」と回答した人は、5.2%である。



■ <問 28> あなたの身近な人(職場の同僚、友人、親戚や家族、近所の知人)に LGBTQ 等の人はいますか。【1つだけ○】

「いる」が 20.8%、「いると思う」が 16.5%となっている。



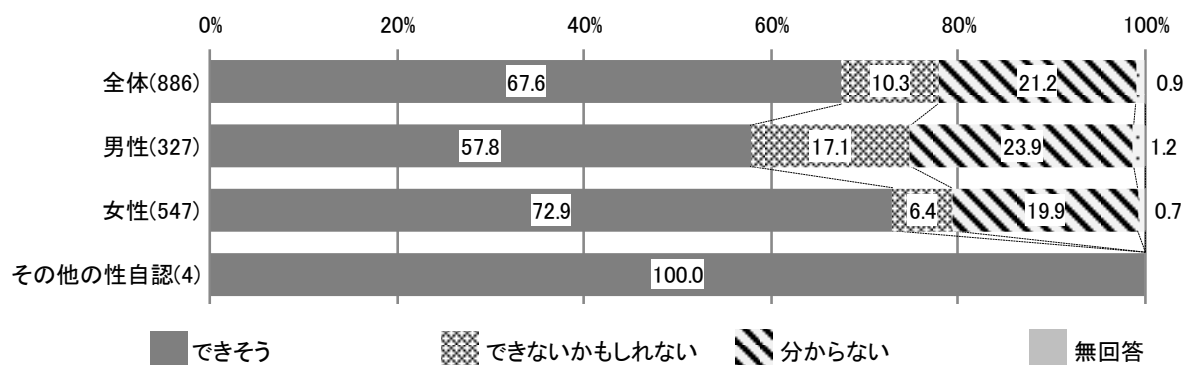
## &lt;前回調査との比較&gt;

## 問 28. 身近に LGBTQ 等の人はいるか

	全体	いる	いると思う	いないと思う	いない	分からない	無回答
今回調査	100.0	20.8	16.5	20.1	21.4	20.5	0.7
前回調査	100.0	18.1	12.6	27.1	17.1	18.4	6.7

■ <問 29> あなたは、身近な人から LGBTQ 等であることを打ち明けられた場合、これまでと  
 変わりなく接することができそうですか。【1つだけ○】

「できそう」と回答した人は、女性は 72.9%、男性は 57.8%であり、男性が女性より 15.1 ポ  
 イント低い。



#### <前回調査との比較>

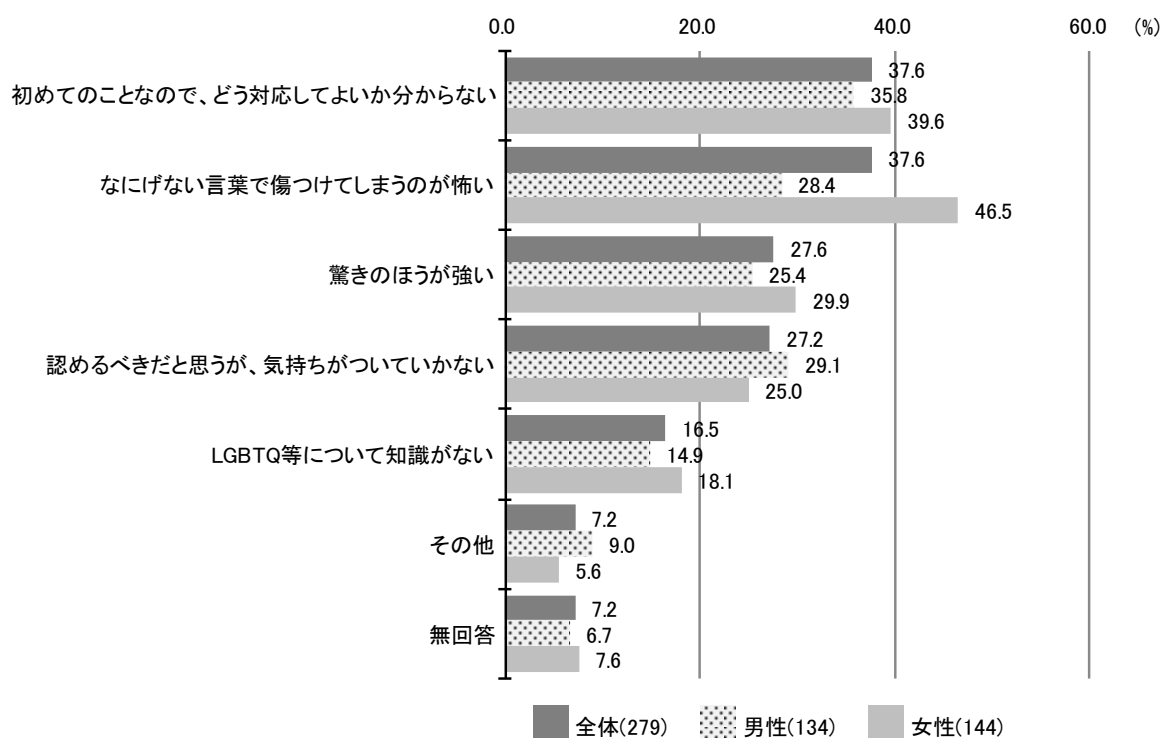
問 29. 身近な人から LGBTQ 等であることを打ち明けられた際にこれまでと変わりなく接すること  
 ができるか

	全体	できそう	できないかもし れない	分からない	無回答
今回調査	100.0	67.6	10.3	21.2	0.9
前回調査	100.0	62.1	10.8	19.8	7.4

■ <問 29-1>【問 29 で「2. できないかもしれない」「3. 分からない」と答えた方のみ】  
それはどうしてですか。【〇はいくつでも】

「初めてのことなので、どう対応してよいかわからない」(37.6%)、「なにげない言葉で傷つけてしまうのが怖い」(37.6%)が多くなっている。

性別で見ると、女性では「なにげない言葉で傷つけてしまうのが怖い」が 46.5%で最も多くなっており、男性(28.4%)を 18.1 ポイントと大幅に上回っている。



#### < 前回調査との比較 >

問 29-1. 変わりなく接することができないかもしれない・分からない理由

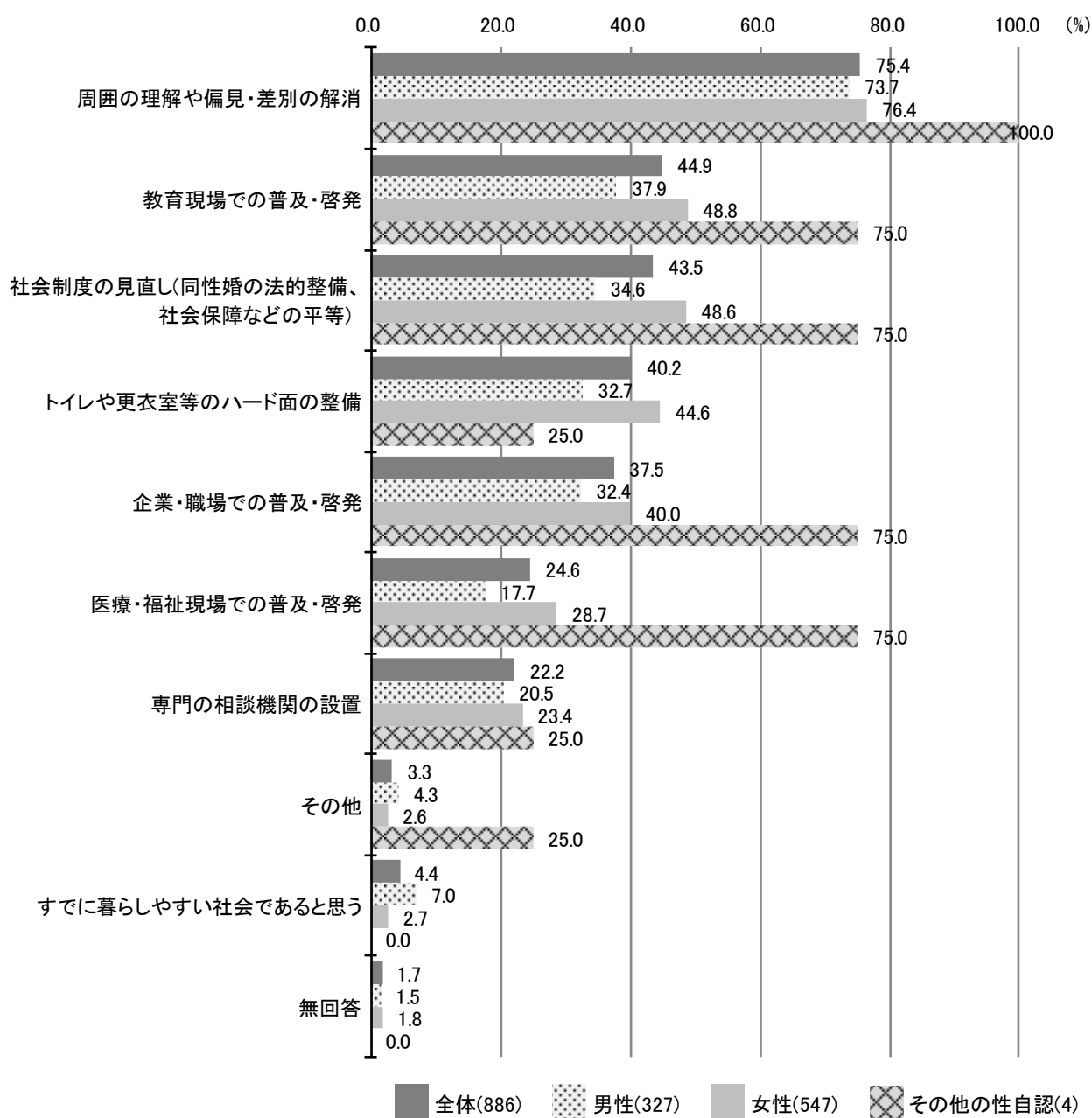
	全体	LGBTQ等について知識がない	初めてのことなので、どう対応してよいかわからない	驚きのほうが強い	なにげない言葉で傷つけてしまうのが怖い	認めるべきだと思うが、気持ちがついていかない	その他	無回答
今回調査	100.0	16.5	37.6	27.6	37.6	27.2	7.2	7.2
前回調査	100.0	21.0	41.0	22.2	39.7	28.6	8.3	5.1



■ <問 30> あなたは、LGBTQ 等の方が暮らしやすい社会になるために何が必要だと思いますか。【〇はいくつでも】

「周囲の理解や偏見・差別の解消」が 75.4%で最も多く、次いで、「教育現場での普及・啓発」(44.9%)、「社会制度の見直し(同性婚の法的整備、社会保障などの平等)」(43.5%)、「トイレや更衣室等のハード面の整備」(40.2%)となっている。

性別で見ると、「教育現場での普及・啓発」、「社会制度の見直し(同性婚の法的整備、社会保障などの平等)」、「トイレや更衣室等のハード面の整備」、「医療・福祉現場での普及・啓発」と回答した人は女性が男性を 10 ポイント以上上回っている。



## XII. 暴力の廃止について

### まとめ

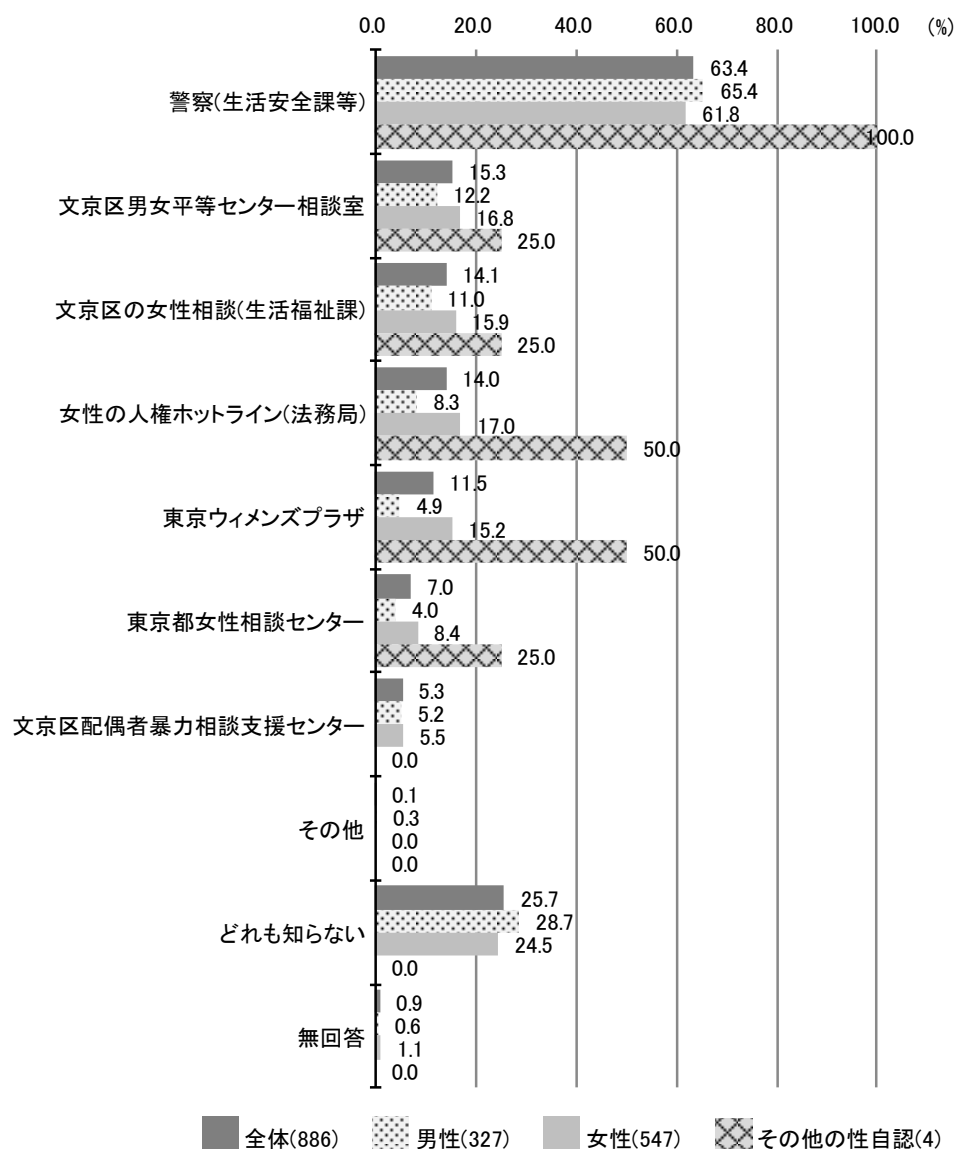
DVを受けたことがあるという人は女性では1～2割程度であり、特に心理的攻撃を受けたという人が多い。しかしながら、その際、相談するほどではないと思ったり、人に打ち明けることに抵抗があったりしたなどで、相談につなげなかった人が大半となっている。公的な相談機関の認知度は警察を除き2割に満たず、どれも知らないという人も4人に1人となっており、気軽に相談できるような相談先の周知が重要である。

DV 防止等の対策としては、暴力防止に係る様々な啓発や緊急避難先としてのシェルターの整備等の充実を求める声が多い。

■ <問31> 配偶者・パートナー又は交際相手などからの暴力(ドメスティック・バイオレンス(DV))  
についての公的な相談機関として、知っているものがありますか。【〇はいくつでも】

「警察(生活安全課等)」が63.4%を占め最も多い。それ以外の相談機関を挙げた人はいずれも2割未満となっている。

また、「どれも知らない」が25.7%となっている。



## &lt;前回調査との比較&gt;

## 問 31. 認知している公的な DV 相談機関

	全体	文京区の女性相談(生活福祉課)	文京区男女平等センター相談室	文京区配偶者暴力相談支援センター	警察(生活安全課等)	東京都女性相談センター	東京ウィメンズプラザ
今回調査	100.0	14.1	15.3	5.3	63.4	7.0	11.5
前回調査	100.0	10.8	12.2	4.6	58.5	5.9	9.1

女性の人権ホットライン(法務局)	その他	どれも知らない	無回答
14.0	0.1	25.7	0.9
12.8	0.7	26.7	7.8

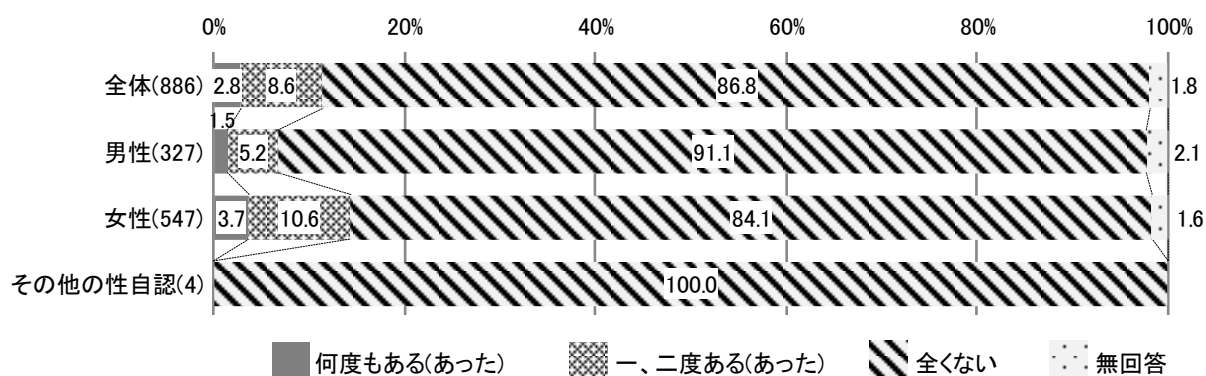
■ <問 32> あなたは、配偶者・パートナー又は交際相手などとの間で、次のような行為を受けたり、行為をしたことがありますか。

「何度もある(あった)」と「一、二度ある(あった)」を合計した行為を受けたことがある人は、女性では、心理的攻撃が18.6%、身体的暴行が14.3%、経済的圧迫が10.3%、性的強要が8.3%となっており、いずれも男性で行為を受けたことがある人よりも6～9ポイント高くなっている。

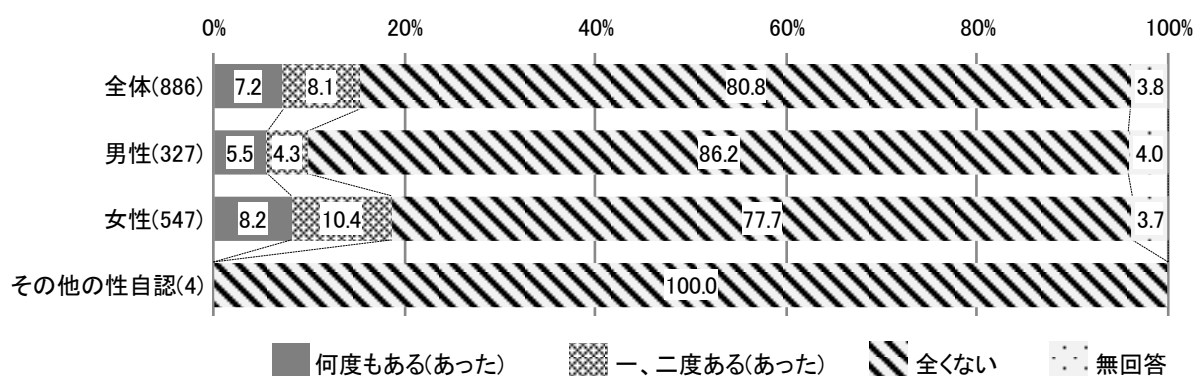
行為をしたことがあると回答した人は、心理的攻撃で 9.7%、身体的暴行で 7.3%、経済的圧迫で 2.0%、性的強要で 1.7%であり、性別による差は見られなかった。

## ①行為を受けた

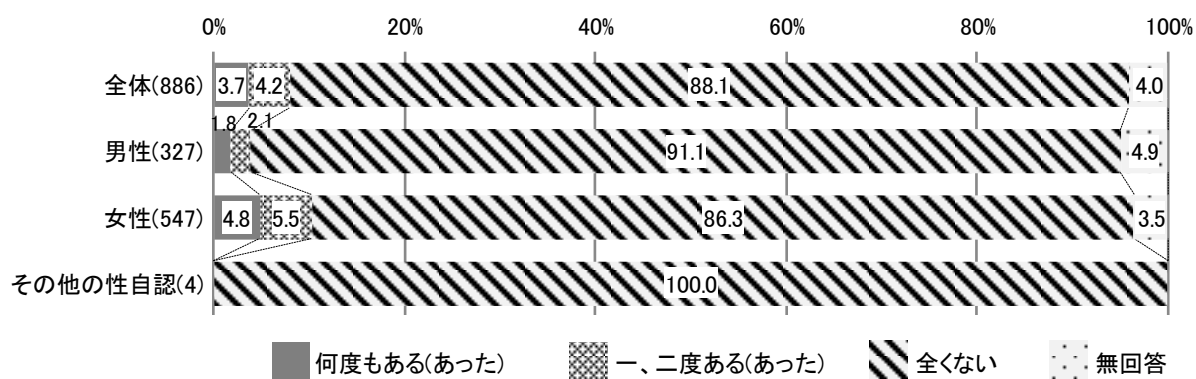
### ア. 身体的暴行を受けた



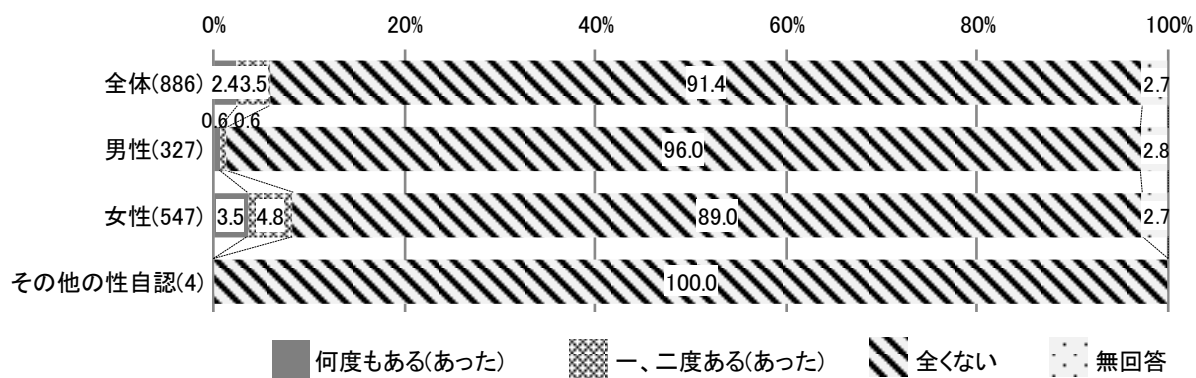
### イ. 心理的攻撃を受けた



## ウ. 経済的圧迫を受けた



## エ. 性的強要を受けた



## &lt;前回調査との比較&gt;

## 問 32. 配偶者・パートナー、恋人等から被害を受けた経験「ア. 身体的暴行」

	全体	何度もある (あった)	1、2度ある (あった)	全くない	無回答
今回調査	100.0	2.8	8.6	86.8	1.8
前回調査	100.0	1.6	7.1	67.0	24.3

## 問 32. 配偶者・パートナー、恋人等から被害を受けた経験「イ. 心理的攻撃」

	全体	何度もある (あった)	1、2度ある (あった)	全くない	無回答
今回調査	100.0	7.2	8.1	80.8	3.8
前回調査	100.0	5.7	8.6	61.6	24.1

## 問 32. 配偶者・パートナー、恋人等から被害を受けた経験「ウ. 経済的圧迫」

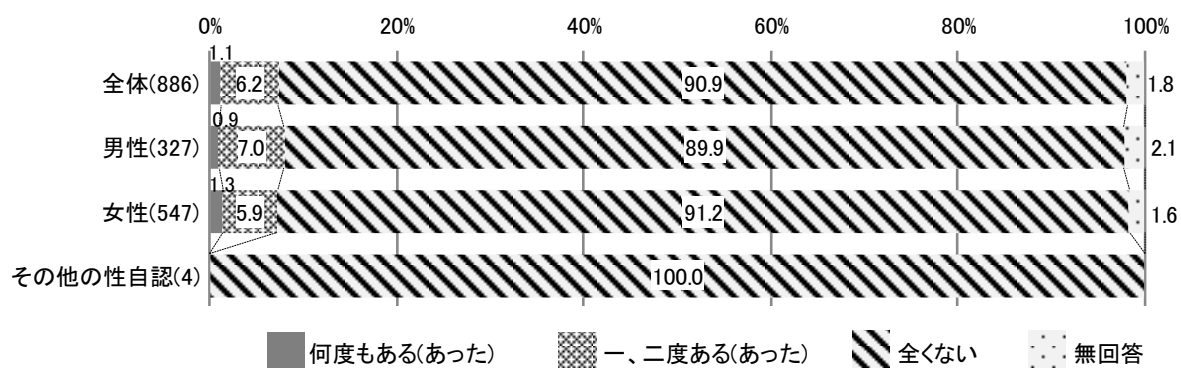
	全体	何度もある (あった)	1、2度ある (あった)	全くない	無回答
今回調査	100.0	3.7	4.2	88.1	4.0
前回調査	100.0	1.8	3.2	69.9	25.0

## 問 32. 配偶者・パートナー、恋人等から被害を受けた経験「エ. 性的強要」

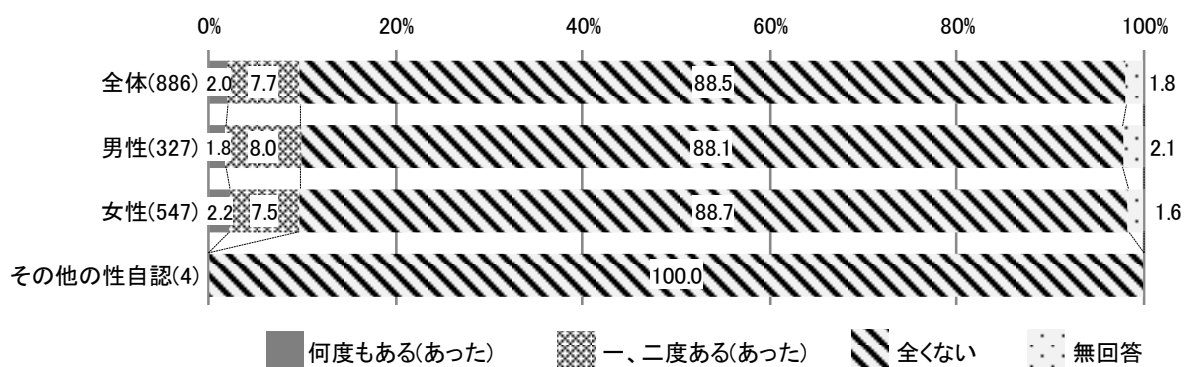
	全体	何度もある (あった)	1、2度ある (あった)	全くない	無回答
今回調査	100.0	2.4	3.5	91.4	2.7
前回調査	100.0	1.6	4.3	69.6	24.5

## ②行為をした

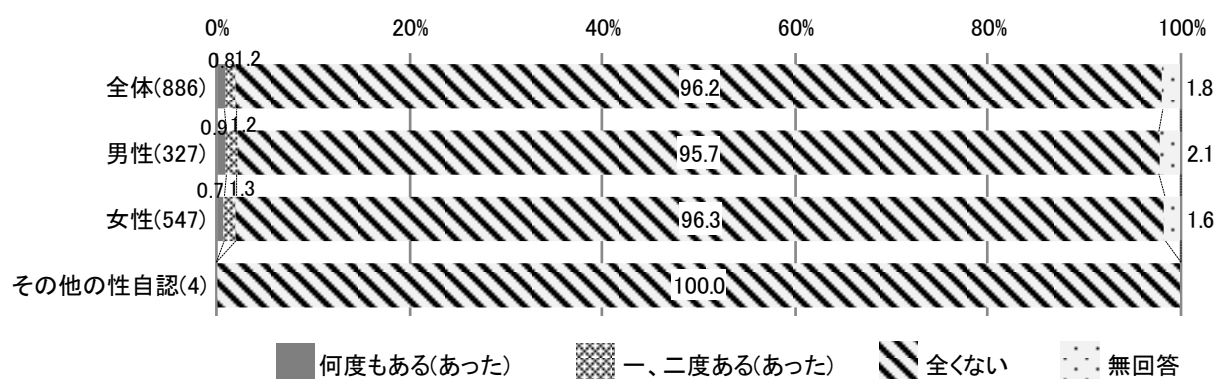
## ア. 身体的暴行をした



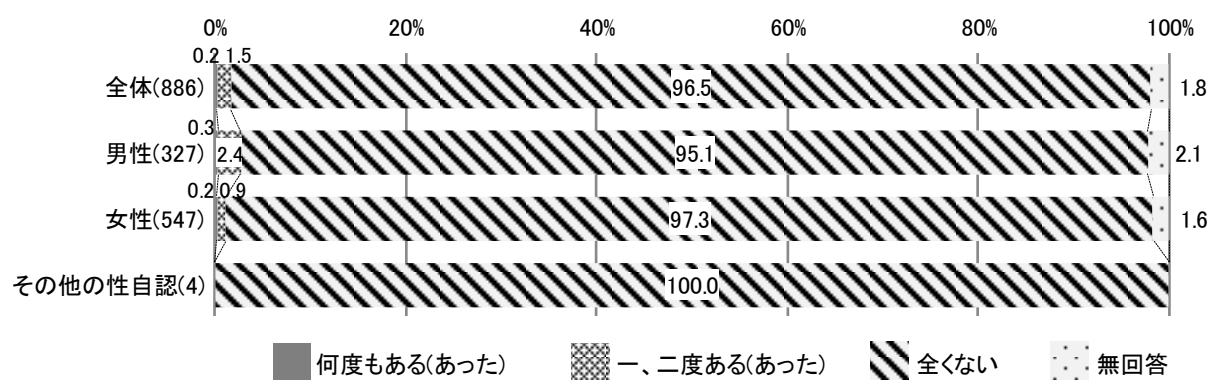
## イ. 心理的攻撃をした



## ウ. 経済的圧迫をした



## エ. 性的強要をした





## &lt;前回調査との比較&gt;

## 問 32. 配偶者・パートナー、恋人等への加害経験「ア. 身体的暴行」

	全体	何度もある (あった)	1、2度ある (あった)	全くない	無回答
今回調査	100.0	1.1	6.2	90.9	1.8
前回調査	100.0	0.5	5.0	77.5	17.0

## 問 32. 配偶者・パートナー、恋人等への加害経験「イ. 心理的攻撃」

	全体	何度もある (あった)	1、2度ある (あった)	全くない	無回答
今回調査	100.0	2.0	7.7	88.5	1.8
前回調査	100.0	1.1	6.0	75.2	17.7

## 問 32. 配偶者・パートナー、恋人等への加害経験「ウ. 経済的圧迫」

	全体	何度もある (あった)	1、2度ある (あった)	全くない	無回答
今回調査	100.0	0.8	1.2	96.2	1.8
前回調査	100.0	0.4	0.3	82.3	17.0

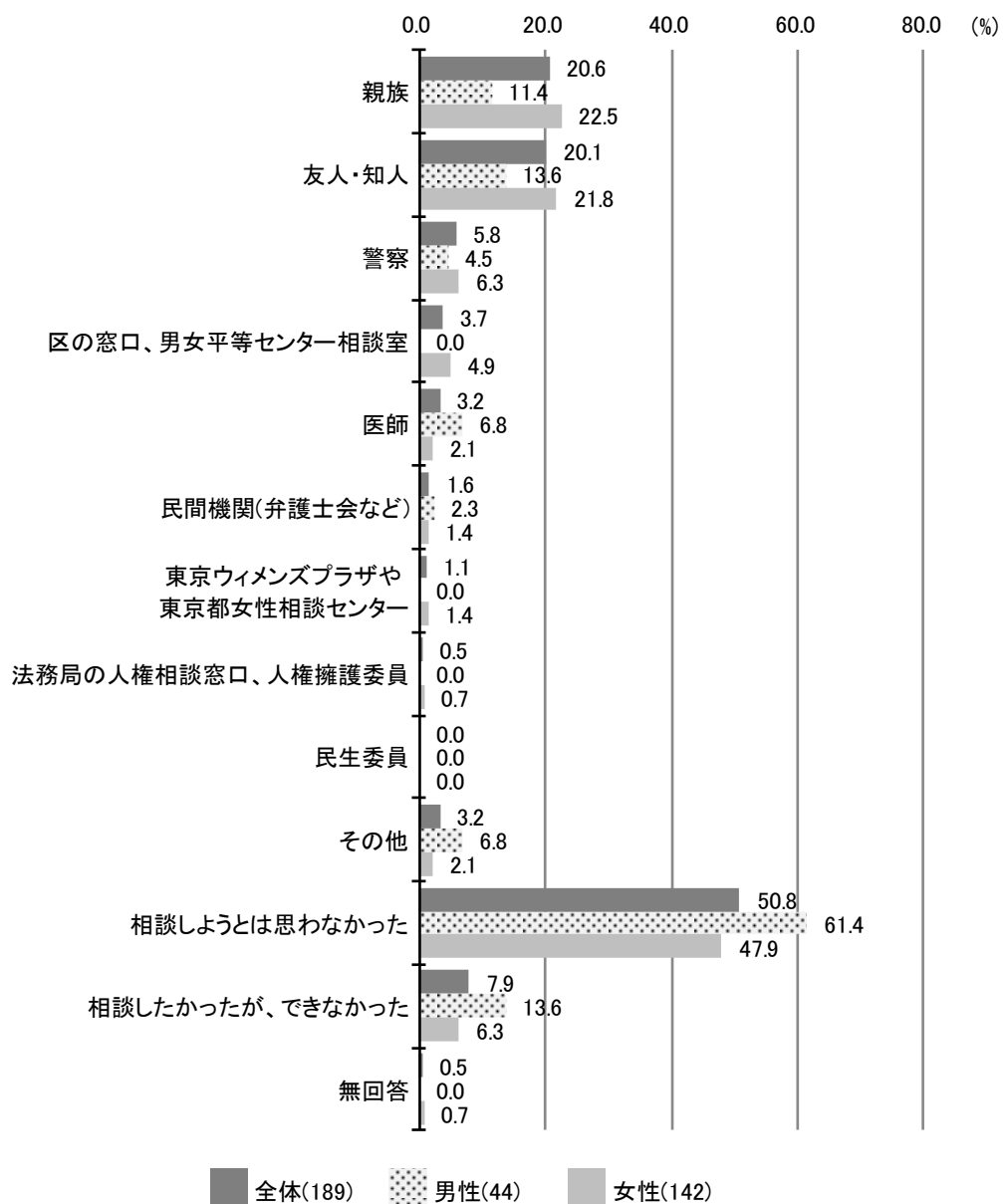
## 問 32. 配偶者・パートナー、恋人等への加害経験「エ. 性的強要」

	全体	何度もある (あった)	1、2度ある (あった)	全くない	無回答
今回調査	100.0	0.2	1.5	96.5	1.8
前回調査	100.0	0.0	0.7	82.3	17.0

■ <問 32-1>【問 32 のいずれかの行為を配偶者などから受けたことがある方のみ】あなたが受けた暴力について、どなたかに相談しましたか。【〇はいくつでも】

「相談しようとは思わなかった」が 50.8%となっており、特に、男性では 61.4%を占め、女性(47.9%)を大きく上回る。また、「相談したかったが、できなかった」という人は 7.9%である。

相談をした場合は、「親族」(20.6%)、「友人・知人」(20.1%)に相談をした人がそれぞれ2割となっている。



## &lt;前回調査との比較&gt;

## 問 32-1. 相談した相手(場所)

	全体	警察	法務局の人権相談窓口、人権擁護委員	東京ウイメンズプラザや東京都女性相談センター	区の窓口、男女平等センター相談室	民生委員	民間機関(弁護士会など)	医師
今回調査	100.0	5.8	0.5	1.1	3.7	0.0	1.6	3.2
前回調査	100.0	2.0	0.5	0.5	2.0	0.0	1.5	3.5

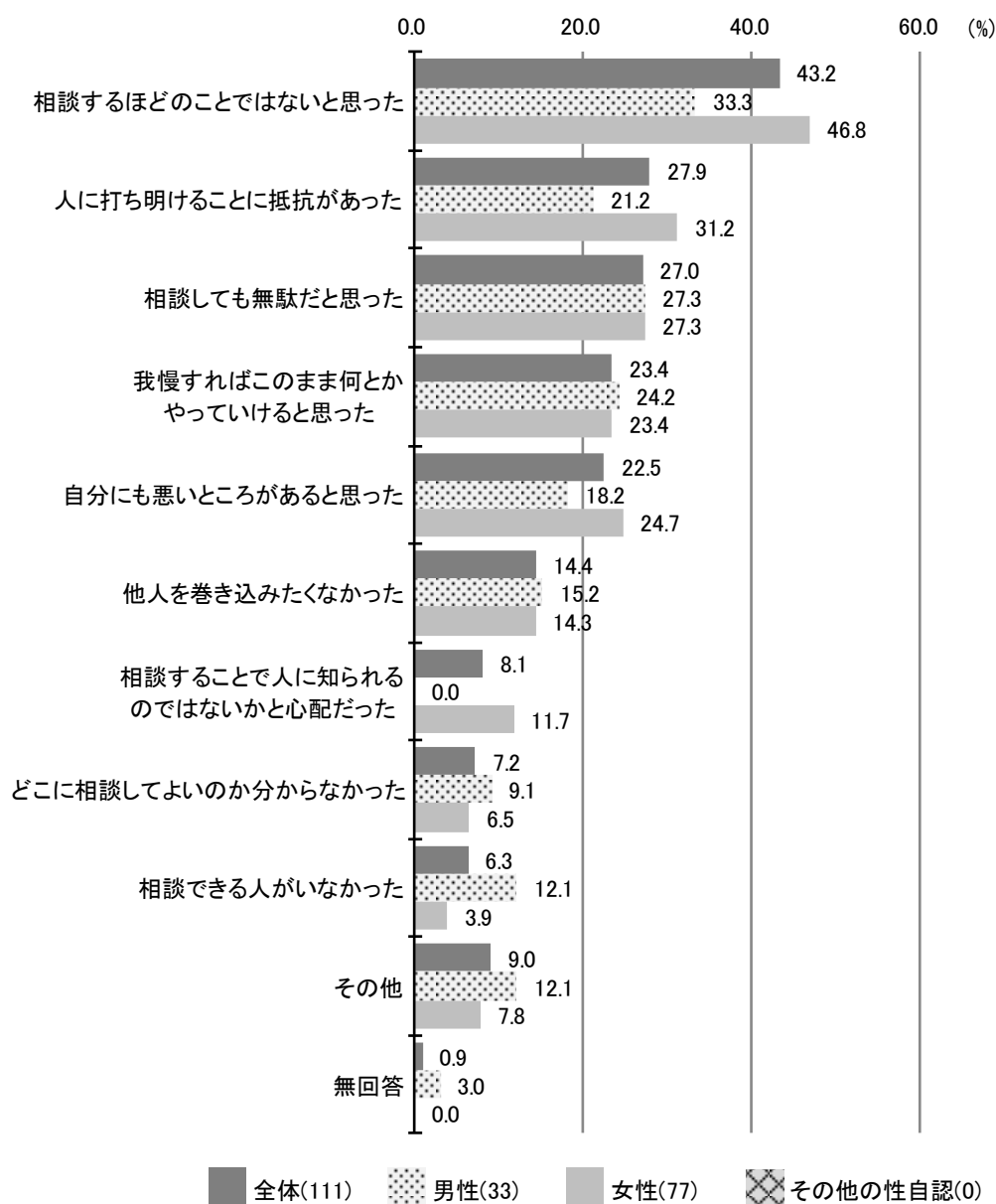
  

親族	友人・知人	その他	相談しようとは思わなかった	相談したが、できなかった	無回答
20.6	20.1	3.2	50.8	7.9	0.5
19.5	23.0	2.5	48.5	10.5	4.0

■ <問 32-1-1>【問 32-1 で「11. 相談したかったが、できなかった」「12. 相談しようとは思わなかった」を選んだ方のみ】相談できなかった又は相談しなかったのはなぜですか。【○はいくつでも】

「相談するほどのことではないと思った」が 43.2%で最も多くなっている。次いで、「人に打ち明けることに抵抗があった」(27.9%)、「相談しても無駄だと思った」(27.0%)となっている。

性別で見ると、「相談するほどのことではないと思った」、「人に打ち明けることに抵抗があった」は、女性の方が男性より 10 ポイント以上高くなっている。



## &lt;前回調査との比較&gt;

## 問 32-1-1. 相談しなかった理由

	全体	相談できる人 がいなかった	どこに相談し てよいのか 分からなかつ た	相談すること で人に知ら れるのでは ないかと心配 だった	人に打ち明 けることに抵 抗があった	相談しても無 駄だと思った	我慢すれば このまま何と かやっていけ ると思った
今回調査	100.0	6.3	7.2	8.1	27.9	27.0	23.4
前回調査	100.0	16.1	11.0	7.6	18.6	23.7	17.8

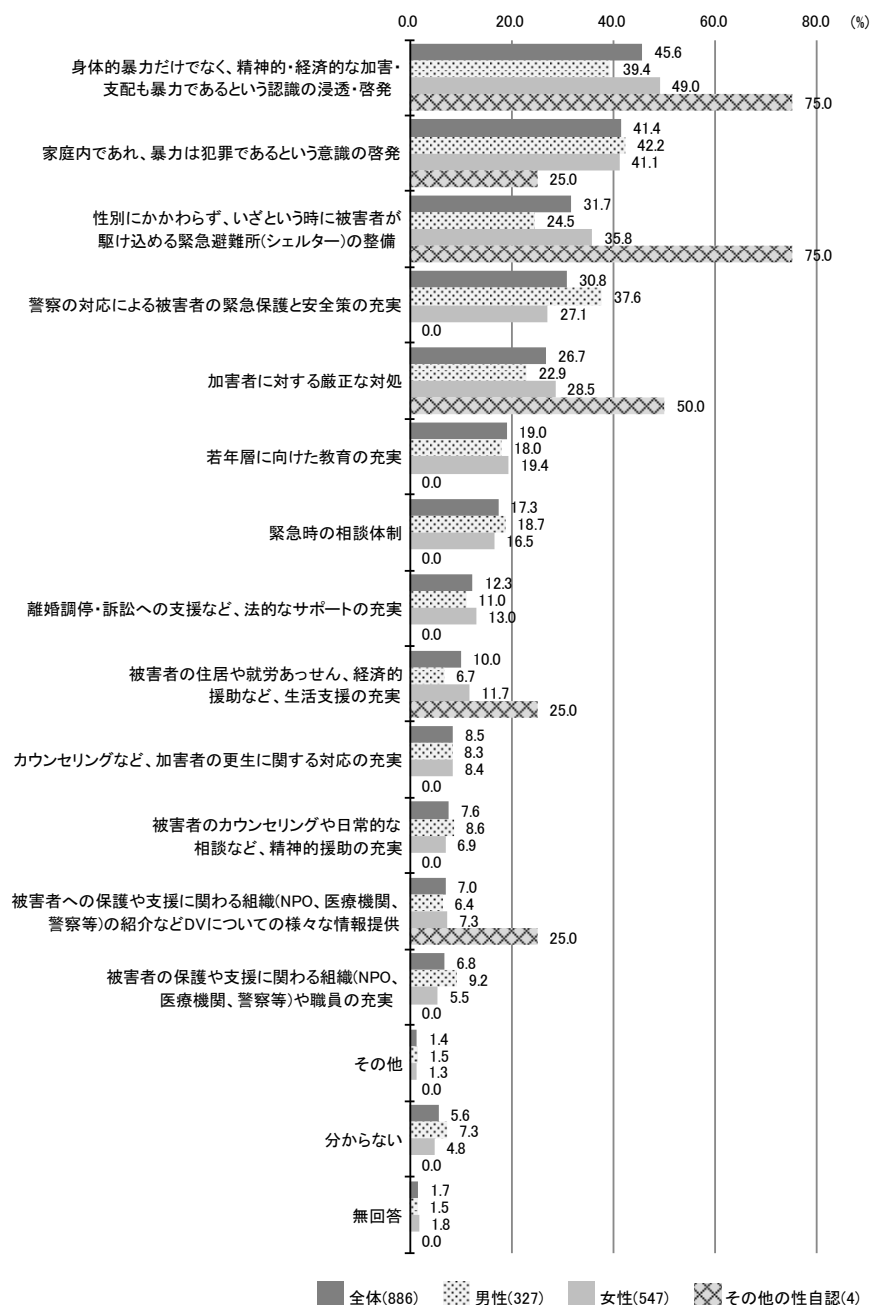
自分にも悪 いところがあ ると思った	他人を巻き 込みたくな かった	相談するほ どのものでは ないと思った	その他	無回答
22.5	14.4	43.2	9.0	0.9
21.2	7.6	48.3	14.4	2.5

■ <問 34> あなたは、配偶者・パートナー又は交際相手からの暴力防止及び被害者支援のためにどのようなことを充実すべきだと思いますか。【3つまで○】

「身体的暴力だけでなく、精神的・経済的な加害・支配も暴力であるという認識の浸透・啓発」が45.6%で最も多い。次いで、「家庭内であれ、暴力は犯罪であるという意識の啓発」(41.4%)、「性別にかかわらず、いざという時に被害者が駆け込める緊急避難所(シェルター)の整備」(31.7%)、「警察の対応による被害者の緊急保護と安全策の充実」(30.8%)、「加害者に対する厳正な対処」(26.7%)となっている。

性別で見ると、「身体的暴力だけでなく、精神的・経済的な加害・支配も暴力であるという認識の浸透・啓発」は女性では49.0%であり、男性(39.4%)を9.6ポイント上回っている。また、「性別にかかわらず、いざという時に被害者が駆け込める緊急避難所(シェルター)の整備」も女性では35.8%で男性(24.5%)を11.3ポイント上回る。

「警察の対応による被害者の緊急保護と安全策の充実」は男性で37.6%であり、女性(27.1%)を10.5ポイント上回っている。



## &lt; 前回調査との比較 &gt;

## 問 34. DVに対する対策や援助として特に充実すべきもの

	全体	家庭内であ れ、暴力は 犯罪である という意識の啓 発	身体的暴力 だけでなく、 精神的・経済 的な加害・支 配も暴力で あるという認 識の浸透・啓 発	若年層に向 けた教育の 充実	被害者への 保護や支援 に関わる組 織(NPO、医 療機関、警 察等)の紹介 などDVにつ いての様々 な情報提供	性別にかか わらず、いざ という時に被 害者が駆け 込める緊急 避難所(シェ ルター)の整 備	警察の対応 による被害 者の緊急保 護と安全策 の充実	緊急時の相 談体制	被害者の住 居や就労 あつせん、経 済的援助な ど、生活支 援の充実
今回調査	100.0	41.4	45.6	19.0	7.0	31.7	30.8	17.3	10.0
前回調査	100.0	41.7	—	20.2	8.9	37.3	26.2	18.6	16.8

被害者のカ ウンセリング や日常的な 相談など、精 神的援助の 充実	被害者の保 護や支援に 関わる組織 (NPO、医療 機関、警察 等)や職員の 充実	離婚調停・訴 訟への支援 など、法的な サポートの充 実	加害者に対 する厳正な 対処	カウンセリングなど、加害 者の更生に 関する対応 の充実	その他	分からない	無回答
7.6	6.8	12.3	26.7	8.5	1.4	5.6	1.7
11.0	8.1	9.8	21.2	8.8	1.8	5.5	10.3

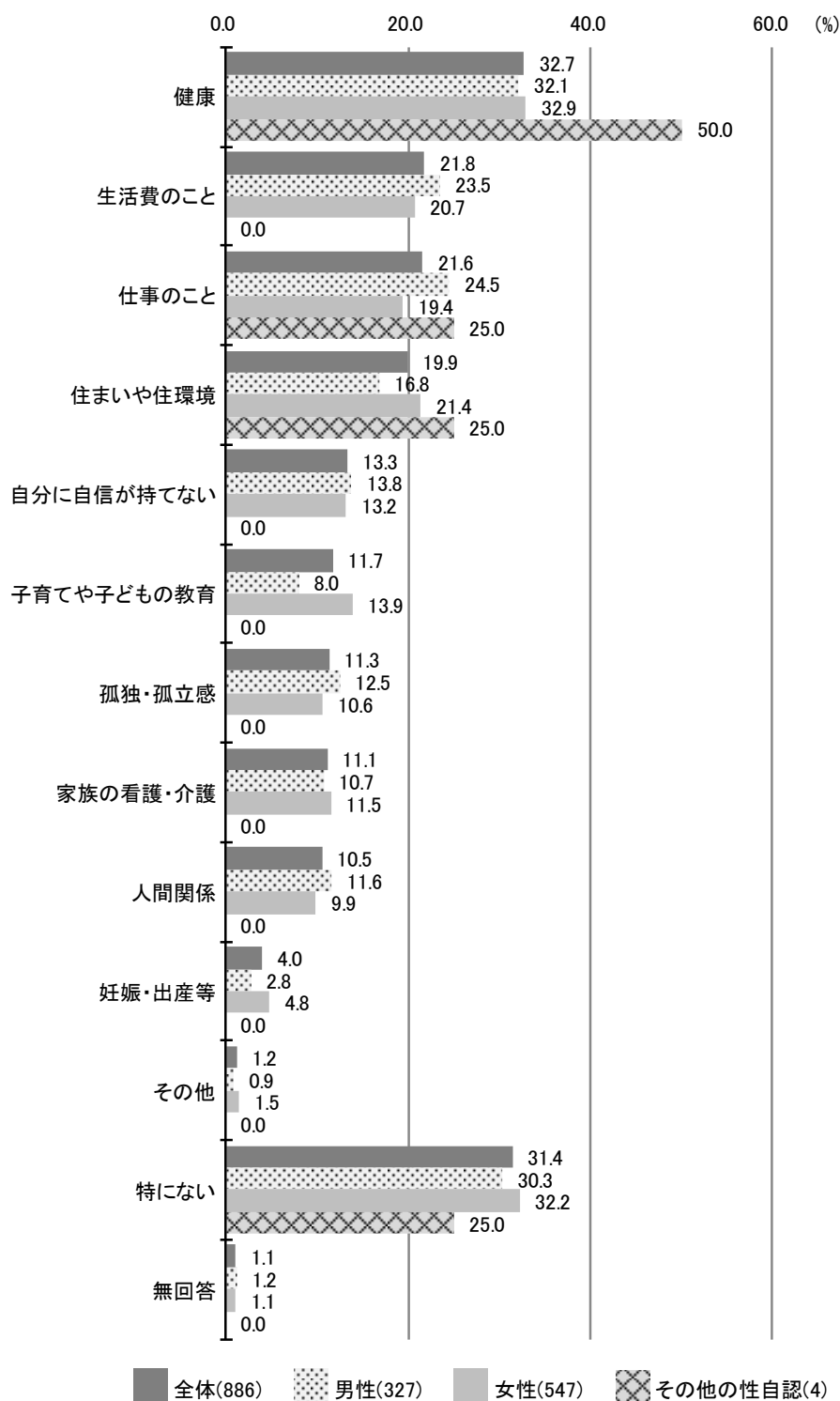
※ 今回調査では選択肢「身体的暴力だけでなく、精神的・経済的な加害・支配も暴力であるという認識の浸透・啓発」を追加

## XⅢ. 生活の悩みや困りごとの相談窓口やサービスについて

■ <問35> 現在、生活での悩みや困りごとなどがありますか。当てはまるもの全てに「○」をしてください。

「健康」が32.7%で最も多く、その他、「生活費のこと」(21.8%)、「仕事のこと」(21.6%)、「住まいや住環境」(19.9%)が2割となっている。

また、「特にない」という人が3割(31.4%)となっている。



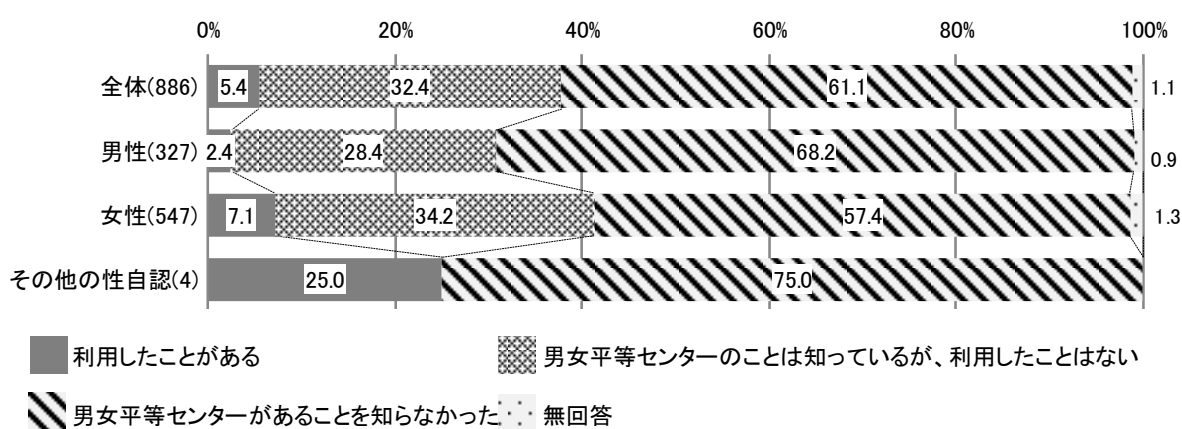


## XIV. 男女平等参画の推進施策・男女平等センターについて

■ <問 38> 文京区には、男女平等参画推進のための拠点施設として「文京区男女平等センター（施設愛称：エガリテ）」（所在地：文京区本郷四丁目、現在休館中、2026（令和8）年6月リニューアルオープン予定）があります。あなたは、文京区男女平等センターを利用したことがありますか。【1つだけ○】

男女平等センターを「利用したことがある」と「知っているが、利用したことはない」という人の合計は女性では4割（41.3%）、男性では3割（30.8%）となっている。

「利用したことがある」人は女性では 7.1%であり、男性では 2.4%となっている。



## &lt;前回調査との比較&gt;

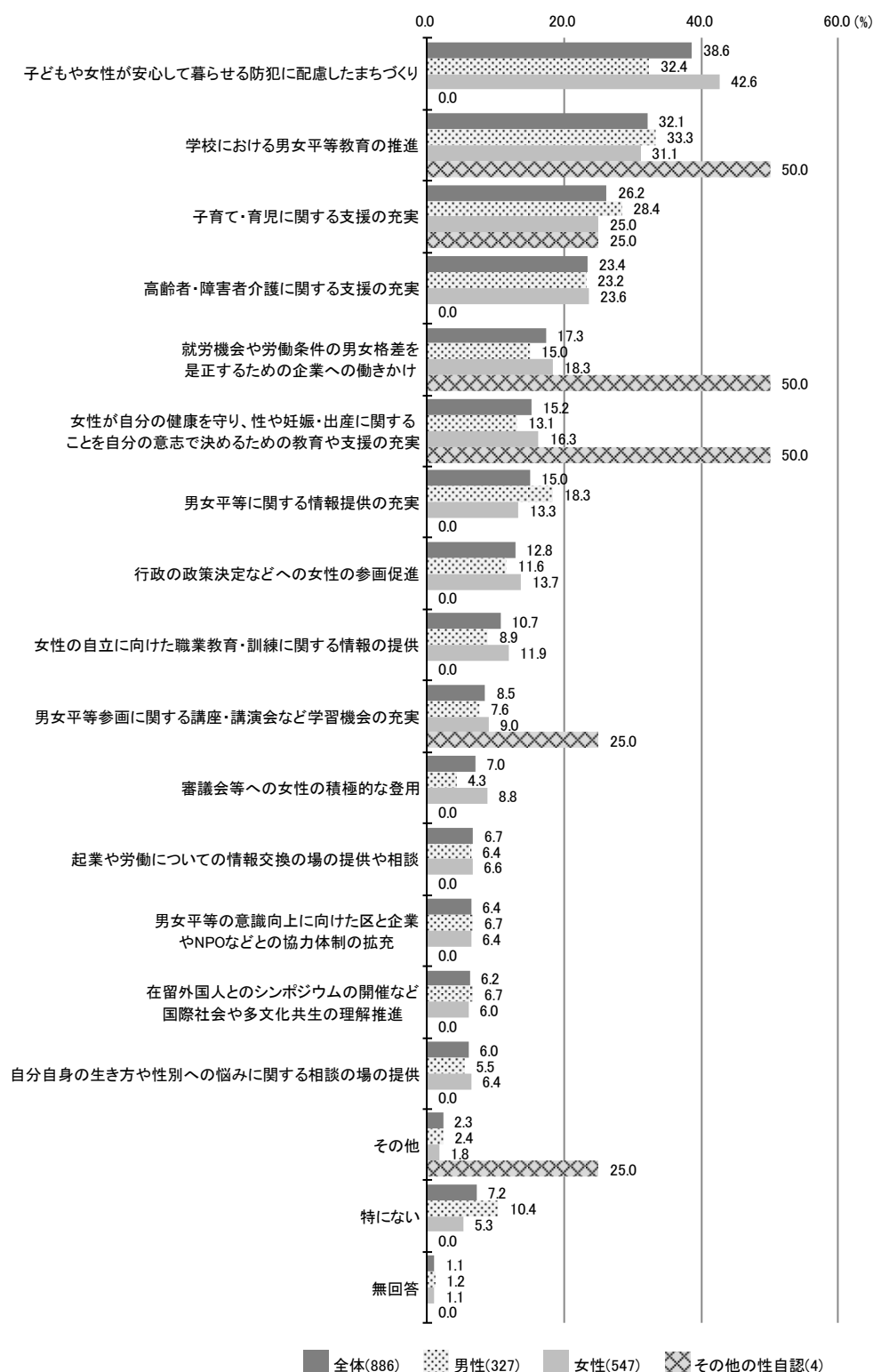
## 問 38. 男女平等センターの利用経験

	全体	利用したことがある	男女平等センターのことは知っているが、利用したことはない	男女平等センターがあることを知らなかった	無回答
今回調査	100.0	5.4	32.4	61.1	1.1
前回調査	100.0	6.6	28.3	57.7	7.4

■ <問 39> あなたは、男女平等参画社会を実現していくために、今後、文京区はどのようなことに力を入れるとよいと思いますか。【3つまで○】

「子どもや女性が安心して暮らせる防犯に配慮したまちづくり」が 38.6%で最も多く、次いで、「学校における男女平等教育の推進」(32.1%)、「子育て・育児に関する支援の充実」(26.2%)、「高齢者・障害者介護に関する支援の充実」(23.4%)となっている。

性別で見ると、「子どもや女性が安心して暮らせる防犯に配慮したまちづくり」は女性では 42.6%であり、男性(32.4%)を 10.2 ポイント上回っている。



## &lt; 前回調査との比較 &gt;

## 問 39. 男女平等参画社会を実現のために今後力を入れるべきこと

	全体	学校における 男女平等教育の推進	男女平等参 画に関する 講座・講演会 など学習機 会の充実	男女平等に 関する情報 提供の充実	起業や労働 についての 情報交換の 場の提供や 相談	女性の自立 に向けた職 業教育・訓練 に関する情 報の提供	就労機会や 労働条件の 男女格差を 是正するた めの企業へ の働きかけ	子どもや女 性が安心して 暮らせる防 犯に配慮した まちづくり	子育て・育児 に関する支 援の充実	審議会等へ の女性の積 極的な登用
今回調査	100.0	32.1	8.5	15.0	6.7	10.7	17.3	38.6	26.2	7.0
前回調査	100.0	34.4	6.0	14.7	6.9	12.7	17.8	30.4	31.5	7.9

行政の政策 決定などへ の女性の参 画促進	高齢者・障害 者介護に関 する支援の 充実	女性が自分 の健康を守 り、性や妊 娠・出産に関 することを自 分の意志で 決めるため の教育や支 援の充実	自分自身の 生き方や性 別への悩み に関する相 談の場の提 供	在留外国人 とのシンポジ ウムの開催 など、国際社 会の理解推 進	男女平等の 意識向上に 向けた区と企 業やNPOな どとの協力 体制の拡充	その他	特にない	無回答
12.8	23.4	15.2	6.0	6.2	6.4	2.3	7.2	1.1
11.9	19.0	7.5	6.7	3.8	9.0	2.4	6.2	7.7

※ 前回調査時の選択肢「健康支援のための検診体制や相談などの充実」を「女性が自分の健康を守り、性や妊娠・出産に関することを自分の意志で決めるための教育や支援の充実」に変更